

令和7年(2025年)5月 第300号

特集号

300号記念



長野駅善光寺口列柱と大庇『門前回廊』
2015年 竣工



長野市役所第一庁舎及び長野市芸術館
2015年 竣工



南長野運動公園総合球技場『長野Uスタジアム』
2015年 竣工



長野県立美術館
2020年 竣工

CONTENTS

支部長挨拶	2	長野県建築文化賞受賞作品(ながの支部会員) ...	36
祝 辞	3	街道 第43回(最終回)	40
「つちおと200号」からの時代背景	6	会 員 か ら	43
支部ニュース	7	協 賛 広 告	45
支部の歩み(平成20年度～令和6年度)	19	編 集 後 記	56
支部活動(つちおとバックナンバーより)	24		

300号記念誌発行 ご挨拶

第23代支部長 久 米 え み



会報「つちおと」が昭和46年の創刊以来300号を迎え、この度記念号として発行できましたこと、会員各位、これまで会を支えていただきました歴代役員の皆様、編集作業にご尽力いただいた皆様、ならびに趣旨をご理解いただきご協賛いただきました皆様に併せて心より深い感謝を申し上げます。

昭和46年というと今から54年前のこと。長い歴史の重みを感じざるを得ません。300号を迎えるにあたり、事務局に保存されておりました「つちおと創刊号」を手にする機会を得ました。当時の長水支部長三島初太郎氏の「発刊に寄せて」において、『…私共建築士会員は相互の親近感、密なる契りと和を基本として会の発展と社会に貢献しなければならないと思ひます。長水支部はこれ等のパイプ役に少しでも役立てばと思ひ誠に些やかではありますが支部ニュースを漸次発行して参りたいと思ひます。…』と述べられておりますが、これを一言でいうと、コミュニケーションの充実を図る目的と推察できます。

その後、100号では当時の高木支部長が『…いずれにしてもつちおとは全会員と士会を繋ぐ唯一のパイプですのでこれからも皆様に愛されるように努力していきます…』とのことで、コミュニケーションツールとしての「つちおと」に言及されています。

200号では長水支部から長野支部に変わり、酒井支部長が『…世はIT時代。会報のありかたも必然的に変化をすることになるかと思いますが…』とコミュニケーションのあり方の変化に触れています。酒井支部長の予想の通り、3年前から「つちおと」は完全デジタル化され、現在ではホームページからの情報発信が中心となっています。

そして2020年から23年までの新型コロナウイルスによるパンデミックを経て、現在の300号の時代になり、長野支部は須高支部との統合により新生「ながの支部」となりました。従来この会に所属することによって、まさにパイプ役としての「つちおと」を通してしか得られなかった国や県からの情報が、インターネットを通じて誰でも得ることができる時代になりました。必然的に支部ならびに会報の役割が問われていると言えます。とはいえ、インターネットやAIの時代になっても人と人とのコミュニケーションが組織にとって重要であることは変わらないどころか、より重要なファクターとなっています。これからの長野県建築士会は、徐々に支部の合併統合が進められると思います。支部のエリアが広くなればなるほど、コミュニケーションは一層重要な課題になってくるでしょう。密なコミュニケーションから生まれるチームワークや結束力によって災害対応等の公益性の高い事業において存在感を発揮することは、社会での仲間を得ることにつながります。また、会員各位のスキルの向上につながる善循環を作り出すことは建築技術者が減少している社会環境下において、この会に所属するメリットにつながると思います。このようなメリットを積み重ねることによって、現在の建築士会最大の課題である“会員減少”に歯止めをかけることが可能になるのではないかと考えております。

この次の記念号になるであろう「つちおと400号」では、時の支部長がそんな成果を披露していることを期待して、300号発行に添えるご挨拶とさせていただきます。

「つちおと」300号発行に寄せて

(公社)長野県建築士会 会長 江口 信行



ながの支部会報「つちおと」300号発行おめでとうございます。また、この記念号に寄稿させて頂きましたこと、光栄に感じております。ひと口に300号と申しますが、何十年もの間、会員の皆さんが引き継ぎ、様々な記事が掲載されてきたことを考えると、その中には長野県建築士会にとって財産と言えるような記事も多く含まれているであろうことは想像に難くありません。この際「つちおと」第1号からの足跡を辿り、興味深い記事については「建築士ながの」に特集を組んでみてもいいのでは？と勝手に思いを巡らせております。

さて、現在全国の建築士会が、会員の減少により悪化した財政の健全化に向けて、様々な取り組みを始めております。連合会でも経費削減のひとつとして、月刊「建築士」デジタル化の議論が始まりました。そんな中での東京建築士会総会でのエピソードをご紹介します。議事の中で、普段は建築士会活動にあまり参加できない会員から、「建築士」が毎月郵送されてくるのを楽しみにしている。唯一の建築士会との繋がりなので、デジタル化されると何か失うものがあるような気がする～という意見が寄せられ、総会に上程された会費の値上げに関する議案についても、会費値上げを認めるので、「建築士」については、ぜひ今までどおりでお願いしたい～というやりとりがあったそうです。

連合会の会長会議においては、他の単位士会でも長野県と同じように、会報の送料の問題から会報の存続の問題も出る一方で、やはりデジタル化は止めてほしい等の意見も出ています。席上私が、この「つちおと」300号の話をしたところ、他の会長さん達に感心されました。このような積み重ねの事業がその建築士会の本当の実力なのでは？と話された会長さんもおられました。

令和元年、長野支部と須高支部は統合されて、新たに「ながの支部」としてスタートされました。より大所帯の支部になり、支部活動だけでなく長野県建築士会本会の活動にも多くの人材を輩出し、活躍の場を作られていることに敬意を表します。また、北信ブロックのリーダー的役割で、支部事業の共有化や支部の統合を想定した議論がブロック内で進んでいることも承知しております。ながの支部誕生のことも今回の300号でとりあげられていることかと思いますが、「つちおと」はおそらく長水支部のころから始められたものではないでしょうか。支部長はじめながの支部の皆様には、今後支部の形がどのように変化しようとも、そんな長い歴史を持つ会報「つちおと」を含めた伝統を絶やすことなく、長野県建築士会を引っ張って行ってほしいと思います。今後のながの支部の発展をご祈念申し上げて、お祝いの言葉とさせていただきます。

200号からの歴代支部長 祝辞

わが支部長時代

第20代支部長 林 辺 松 治

つちおとが記念すべき300号を迎えられたことを、心からお祝い申し上げます。

私は平成21年に支部長に就任し、4年間務めさせていただきました。

折しも建築士会は新法人制度移行への検討時期でした。着地点がクリアに想像できず、支部と本会との関係、中でも支部会計の本会統合は大きな変更であり難題でした。

3年目の平成23年3月、東日本大震災が発生し、我々も建築士の目で現地を見ておきたいと視察を企画、秋に実施しました。現地は復興が始まったところで、当時のままの人気の無い建物、鉄骨だけの南三陸庁舎、目につくものは埃を巻き上げる工事車両ぐらいで、まちに生活感は無く、ハードの面のみならず人の営みや世そのものを変えてしまう自然の威力に呆然としたものです。建築士に何が出来るのか？日常とは違う視点を求められている気がしました。

さて、宿泊は三陸の海を見下ろす絶景の宿でした。早朝露天風呂に入ると、眼下の海から10メートル以上ありそうな木々の枝には、津波で運ばれたレジ袋がいくつも引っかかったままです。目を上げると太平洋の水平線からは信州では見られない見事な日の出、感動。「地震も日の出も日常の一つだよ」とでも言いたげな大自然の営みの壮大さを感じさせられました。

時は過ぎて時代も支部も変わったと思いますが、「支部は人のつながりが基本」と入会以来思ってきました。今後も建築士の集う拠り所であることを願います。

つちおと300号に寄せて

第21代支部長 小 山 芳 郎

つちおと300号おめでとうございます。

私が支部長就任期間は平成25年5月から29年4月までの2期4年勤めさせて頂きました。平成25年には本会創立60周年記念式典に参加し、建築の未来に期待を込めました。全国大会「島根大会」があり、長いバス旅行でしたが、多くの建築士と交流を深めました。出雲大社で巫女さんに支部長の特権でお祓いして頂いた事が印象に残っています。平成27年の建築士フォーラム2015inながのでは、須高支部との合同開催となりこれが今後の支部統合への一歩ではなかったと思っています。また、参加者の多様な意見をまとめる難しさを学びました。フォーラムでは、他支部との協力や円滑な事務運営が求められました。全国大会に参加して開催県の地元サポートを通じて地域との結びつきを強化することの重要性を再確認しました。支部長を務めた経験は建築士としての専門性だけでなく、各イベントではリーダーシップや組織力の重要性を痛感し、スキルも磨かれた貴重な経験でした。

300号に思う

第22代支部長 土 倉 武 幸

つちおと300号発行おめでとうございます。300号と聞いた時に、突然自分が入会した頃は何号だったんだろう？って思いバックナンバーを調べてみますと、平成3年103号入会者の欄に自分の名前が確かにありました。この時点で既に100号を過ぎていたことも驚きですが、ここから建築士会との関わりが始まったことを考えると感慨無量です。

入会当初、私にとっての建築士会とは当時の第1ブロック内の地域組織「北部分会」でした。その頃ながの支部は長水支部という名称で、分会の事業は、長野地方事務所の建築課の担当をお願いして講習会を開催し、その後は一緒に懇親会というのが定番でした。もう時効だと思うので書いてしまうのですが、その頃の違反建築防止パトロールは、役所の担当と会員である建築指導員が一緒に回っていて、ひととおり回ったら山に入ってくるのこ採って帰ってきたなんてこともあり、本当に良い時代でした。そんな活動を皮切りに今度は青年建築士委員会に誘っていただき、集いで発表したり関ブロ軽井沢大会で運営を頑張ってみたり。その次の総務委員会時代にはつちおと200号の編集を手伝ったり、ドメインを取得して支部のホームページを新しく作るといった面白いこともたくさんやらせてもらいました。3期務めた副支部長時代は黒子に徹していた感があるのですが、その後平成29年には支部長を仰せつかり、令和元年のながの支部誕生に関わることになりました。ここまでこのような大変内容の濃い活動させていただいたことに感謝。これから支部を担う皆さんには、もっともっと面白いことやって、400号の内容パンパンになることを期待したいですね。

「レッドデータプラント」という言葉をご存知でしょうか。絶滅危惧種の植物のことです。将来自然界では消滅してしまうであろう植物で、長野県でも900種程が指定されています。そのうちのいくつかを紹介したいと思います。植物は環境の変化に大きく影響を受けています。特に現代は人の活動が著しく、それに伴い植物の絶滅が急速に起きている。地球レベルでは1975年から2000年の間に毎年4万種が絶滅されたと言われます。そのほとんどが土地開発、人工の増加、乱獲、農業等人間活動によるものとされています。

ミスミソウ



山野の木陰で見られ花期は4月。花色は白～薄紫色。三角の葉が特徴で長野市郊外の里山でも見られた。新潟県等日本海周辺に多く見られる。＜絶滅危惧Ⅱ類＞危惧要因としては森林伐採や園芸採取による。

セツブンソウ



里山の山縁で見られ花期は3月。花色は白色。暖地では節分の頃咲き始めるのでこの名がついた。千曲市では地元の有志が保護活動をしています。＜絶滅危惧Ⅱ類＞危惧要因としては園芸採取や自然遷移による。

「つちおと」200号からの時代背景

平成20年(2008)～令和7年(2025)

和暦/西暦	おもなできごと
平成20年 (2008年)	・麻生内閣発足、ぶれる ・後期高齢者医療制度始まる ・北島康介五輪2冠連覇 ・リーマンショック
平成21年 (2009年)	・衆院選 民主党が圧勝し政権交代 ・行政刷新会議、概算要求「事業仕分け」を公開 ・裁判員裁判始まる ・オバマ大統領にノーベル平和賞
平成22年 (2010年)	・国会衆参両院で、アメリカ議会上下両院で「ねじれ」 ・日航の経営破綻 ・普天間飛行場移設先「辺野古」で日米合意
平成23年 (2011年)	・東日本大震災、原発事故で甚大被害 ・翌日、長野県北部地震発生 ・なでしこジャパンW杯優勝 ・金正日死去 ・ビンラディン殺害
平成24年 (2012年)	・自公が圧勝し政権奪還 ・オバマ大統領再選 ・習近平、金正恩それぞれトップに、朴槿恵女性大統領
平成25年 (2013年)	・前年末発足した第二次安倍内閣によりアベノミクス始動 ・参院選で自民圧勝「ねじれ」解消 ・福島原発汚染水、PM2.5深刻化
平成26年 (2014年)	・9月に御嶽山が噴火  提供元：多治見砂防国道事務所 ・11月に長野県神城断層地震 ・広島で土砂災害。消費税8%に引き上げ
平成27年 (2015年)	・北陸新幹線が金沢まで延伸 ・ラグビー日本が南アフリカに大金星 ・外国人観光客激増「爆買い」
平成28年 (2016年)	・熊本地震 ・オバマ大統領、広島訪問 ・安倍首相、真珠湾慰霊 ・マイナス金利政策

和暦/西暦	おもなできごと
平成29年 (2017年)	・森友加計問題 ・「ものづくり」製造現場で不正相次ぐ ・電通に有罪、働き方改革へ ・ドナルド・トランプ第45代米大統領に就任
平成30年 (2018年)	・オウム真理教の元代表・幹部の刑を一斉に執行 ・財務省が森友文書改ざん ・災害級の猛暑
平成31年 令和元年 (2019年)	・天皇陛下が即位「令和」に改元 ・台風豪雨で甚大災害、千曲川の堤防が決壊 ・消費税10%に引き上げ  提供元：新建新聞社
令和2年 (2020年)	・新型コロナウイルスの感染拡大を受け、緊急事態宣言を発令 ・菅首相内閣発足
令和3年 (2021年)	・大谷翔平「二刀流」でMVP ・コロナ禍により延期された東京五輪開催 ・松山英樹が米マスターズ初優勝
令和4年 (2022年)	・井上尚弥、3団体統一 ・安倍元首相が銃撃され死亡 ・ロシアがウクライナ侵攻 ・エリザベス女王死去
令和5年 (2023年)	・WBC日本優勝 ・ジャニーズ性加害問題 ・阪神38年ぶり『アレ』 ・新型コロナ「5類」へ移行 ・イスラエルがガザ侵攻
令和6年 (2024年)	・能登半島地震  撮影：下崎明久 ・自民裏金問題からの衆院選過半数割れ ・大谷、ドジャーズ移籍1年目WS優勝
令和7年 (2025年) 1月～3月	・1. 17阪神・淡路大震災から30年 ・MAG Aトランプ大統領返り咲き ・団塊の世代全員75歳以上後期高齢者 ・長野駅前3人殺傷事件

まず何よりも先に、数々の災害によりそれぞれ被害に遭われた方々へ心よりお悔やみとお見舞いを申し上げます。年表にしてみると、嬉しいこともありましたがなかなか激しくかつ難しい足掛け18年でした。

「つちおと」は昭和46年9月創刊。私と同一年の今年54歳乙女座。

建築士会編集の先輩方、事務局ならびに数々のご協力をいただきました皆さまをリスペクトします。

総務情報委員会 副編集長 村本 純一

1 支部統合

第22代長野支部長 土倉 武幸

2019年4月1日長野県建築士会長野支部と須高支部は統合し、新たに『ながの支部』が発足しました。私は当時支部長として須高支部松澤支部長と協力して統合事業を進めたわけですが、単に条件を擦り合わせて統合するというのではなく、『新たな時代の理想の支部の形に少しでも近づける』という方針のもとに取り組んでまいりました。両支部三役が出席しての協議6回に加え、東北信地区組織再編協議会や、各支部での検討を重ねる中、新支部の名称が議題となりました。県地域振興局名と同じ「長野」が対外的な通りとしては自然であるという意見がある一方、支部名変わらずでは新支部発足らしくないというもっともな意見も出てきました。そんな中2015年須高長野共同開催の建築士フォーラムで使用した平仮名の「ながの」案が浮上し、協議の結果最終的に『ながの支部』に決定しました。フォーラムの共同開催というシンボリックな事業があったために、両支部の距離感が縮まっていたという事実は、この支部統合に大きな影響があったと思われます。今後も組織再編が考えられる中、支部同士の交流や共同事業がもっともっと盛んになればいいと思う今日この頃です。



『支部統合』について

第18代須高支部長 松澤 三雄

このたび、「ながの支部会報『つちおと』」が来年5月に300号記念号として発行されることになり、支部統合に向け当時建築士会須高支部担当として関わった立場で当時を振り返りたいと思います。

2019年（令和元年）に長野県建築士会長野支部と須高支部が統合され『ながの支部』として発足いたしました。

た。支部統合に至るまでの始まりは平成27年に「建築士フォーラム2015inながの」が両支部共同開催されたところからです。また、長野県建築士会においても各地区ごとに組織再編協議会が設けられ再編についての検討がされるようになりはじめた時期でもあり、その事も追い風となり徐々に統合に向けた検討が進められました。両支部ともに60数年の間、先輩が築いてこられた長い歴史の転換点となる事業に対する会員の理解をいただきながら、その後数回にわたる両支部統合協議会を経て新支部発足となりました。これにより旧須高支部は「ながの支部須高ブロック」として旧須高支部のこれまで活動を継承しつつ「ながの支部」会員として支部の発展のために活動してまいりたいと思います。

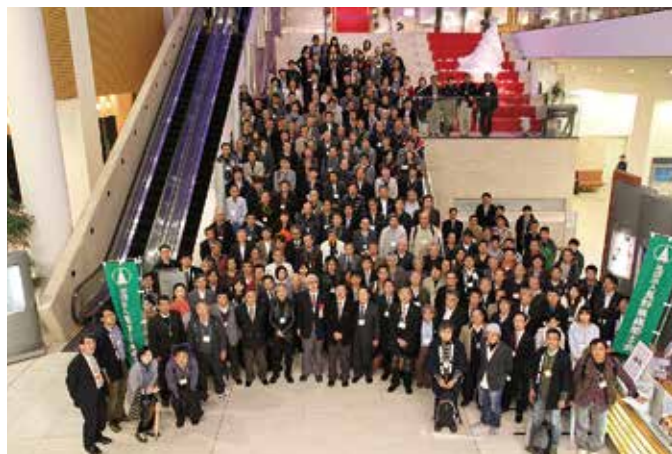
2 建築士フォーラムinながの

副支部長 西堀 真二郎

2015年には本会の一大イベントである建築フォーラムが長野支部エリアで開催されました。長野支部でエリア内の紹介や見学会を何コースかに分けて企画・開催しました。

我々は市街地の見学コースの企画担当となり、参加者一行を引き連れメルパークを出発し徒歩にて見て回りました。当日はあいにくの小雨となりましたが、午前中はちょうど建設中の長野市役所・長野市芸術館への見学コースとしました。芸術館部分はまだ引渡し前で見学できませんでしたが、新長野市役所部分は議場をはじめ市長室や市民スペースを見学できました。榎文彦氏のデザインや設計コンセプトをお聞きし感心しながら回りました。

昼食はJALホテル16階のスカイバンケット貸切で、360°パノラマの長野市街を見下ろしながら、地ビールとシェフのお料理をいただきました。



午後の部は西光寺にて「菫萱道心と石堂丸の絵解き」の切なくも悲しい物語を拝観し、仏都長野の一面を感じることができました。その後、長野駅へ移りこの春完成した「門前回廊」を、長野市都市計画課のお計らいで屋上へ登ることができ、強化ガラスの大庇を見学し、材料や工法について教えていただきました。

その後、夕方からはメルパークにて各支部持ち寄りの自慢の地酒を試飲しながらの懇親会を行い、会員の交流もできてとても有意義でした。

3 宮本忠長連合会名誉会長ご逝去



(株)宮本忠長建築設計事務所

代表取締役社長 宮本 夏樹
(南部ブロック)

この度、つちおとが300号記念を迎えましたこと、誠におめでとうございます。支部重大ニュースとして「宮本忠長連合会名誉会長ご逝去」を挙げていただきました。祖父が亡くなって8年以上が経ちましたが、いまでもこうして皆様から祖父の偉大さをお聞きすることができるのは、家族として、また設計士として、大変誇らしく感じます。ここでは祖父の生い立ちや経歴を割愛させていただきますが、ご興味のある方は弊社HPをご覧ください。なれば幸いです。

祖父は2016年に惜しまれつつも亡くなりました。実はそれまでも何度か大病を患いましたが、仕事を続ける姿勢を所員に見せ続け、経営者としてだけでなく、設計という仕事を生涯の生業とすると心に決めた建築家としての執念を感じました。いまでも幸運だったと思うのは、初めに脳梗塞を引き起こしたとき、偶々家族がいる東京の自宅で倒れ、すぐに救急車を呼ぶことができたことでした。その後は順調に回復し、それまでと変わらない生活に戻ることができました。それからしばらくした後、癌が見つかり、東京の自宅で療養をせざるを得ない状況になってしまいましたが、それでも建築に対する情熱はそのまま、所員が定期的に東京の自宅を訪れ、設計の打合せをしていたのは、いまでも昨日のことのように記憶しております。

癌治療は回復と悪化を繰り返し、本人も出来るだけ自宅で最期を迎えたいと希望していましたが、ホスピスケアを頼らざるを得ず、近隣の施設に入ることになりました。長らくお世話になった方々と最後の会話を楽しみながら、2016年2月25日永眠。

現在は、孫である私が事務所の代表となりました。今も社名に忠長の名を残しているのは、祖父の遺した設計

理念を次代に継承していくためです。地域に根差した設計活動をもとに、地域社会がより豊かになるよう、所員一同、邁進していく所存です。



全国大会・支部研修旅行

建築活動委員長 緑川 直彦

2013年から11年間、私は建築活動（以前は技術研修）委員長として、ながの支部の建築士会全国大会研修旅行の企画、催行に関わってきました。

この毎年恒例のイベントでは遅刻、忘れ物、体調不良など些細なトラブルは数々ありましたが、大きな事故が無かったのが一番の喜ばしいことです。まずは毎回、楽しみにご参加いただき、和やかな旅行にさせていただいた皆様のおかげです。また、ずっと支部の旅行を扱っていただいた旅行会社の上田聖二さん、バス運転手の方々、裏方で旅行を支えてくれた歴代の事務局の皆さんに深く感謝いたします。

では、つちおと300号の機会に15年分の全国大会研修旅行を、私が把握している分だけですが宿泊・見学先等の概要でふり返ってみます。

第52回「やまがた大会」 2009. 10. 16～17

第53回「佐賀大会」 2010. 10. 22～24

…ここまで森望さんが技術研修委員長として旅行幹事を務めました。次は勝家宏郎さんが引き継ぎます

第54回「大阪大会」…東日本大震災により中止

代わりに「世界遺産「平泉」と南三陸復興視察の研修旅行」を実施 2011. 10. 28～30

○南三陸町 ホテル観洋

…中尊寺・毛越寺・南三陸町防災対策庁舎・松島

第55回「いばらき大会」 2012. 10. 19～20

○大洗ホテル

…水戸芸術館・真壁の町並（重伝建）・真壁伝承館・水戸偕楽園・好文亭・徳川ミュージアム・日立製作所



くびきメッセ

G1TOWER・大洗水族館

…ここまで勝家さんが旅行幹事。次は私が引き継ぎます

第56回「しまね大会」 2013. 10. 18～20

○玉造温泉 ホテル松の湯・皆生温泉 皆生グランドホテル

…くにびきメッセ・出雲大社・島根県立美術館・古代出雲歴史博物館・松江城・境港

第57回「ふくしま大会」 2014. 10. 24～25

○磐梯熱海温泉 ホテル華の湯

…ビッグパレットふくしま・飯盛山・栄螺堂・アサヒビール福島工場・大内宿

第58回「石川大会」 2015. 10. 30～31

○山代温泉 白山菖蒲亭

…石川県立音楽堂・兼六園・成巽閣・金沢県立美術館・鈴木大拙記念館・三協立山射水工場・YKKセンターパーク

第59回「大分大会」 2016. 10. 21～23

○二日市温泉 大観荘・別府温泉 望海

…別府国際コンベンションセンター・太宰府天満宮・九州国立博物館・大分県立美術館・大分アートプラザ・大分県立美術館・風の丘葬祭場・松本清張記念館

第60回「京都大会」 2017. 12. 8～9

○ホテル東山閣

…みやこめっせ・清水寺・三十三間堂・京都国立博物館・京都迎賓館

第61回「さいたま大会」 2018. 10. 26

…大宮ソニックシティ・遠山記念館・川越蔵造りの町並（重伝建）

第62回「北海道大会」（函館） 2019. 9. 20～22

○湯の川温泉 湯の浜ホテル

…函館アリーナ・五稜郭・金森倉庫・バイエリア・元町・函館山・トラピスチヌ修道院・函館蔦屋書店・大沼国定公園

第63回「広島大会」…新型コロナの流行により延期

第63回「広島大会」 2021. 11. 20～21

…オンライン開催・支部研修旅行中止



秋田芸術劇場ミルハス

第64回「秋田大会」 2022.10.13～15

○秋田温泉 ホテルさとみ・男鹿温泉 男鹿観光ホテル
…秋田芸術劇場ミルハス・由利本荘市文化交流館カダーレ・秋田市立体育館・秋田県立美術館・赤れんが郷土館・ねぶり流し館・旧金子家住宅・男鹿真山伝承館・なまはげ館

第65回「しずおか大会」 2023. 10. 27～28

○つま恋リゾート彩の郷

…グランシップ静岡コンベンションアーツセンター・富士山世界遺産センター・草薙総合運動場体育館このはなアリーナ・秋野不矩美術館・石水館・資生堂アートハウス・焼津市花沢の里（重伝建）

第66回「鹿児島大会」 2024. 10. 24～26

○指宿温泉 白水館・照国神社前 ホテル吹上荘

…宝山ホール・薩摩伝承館・知覧武家屋敷庭園群（重伝建）・知覧特攻平和会館・鹿児島カテドラル・ザビエル記念聖堂・城山・仙巖園

全国大会研修旅行で多くの名作建築や都市、まちなみを巡ってきました。私は、訪れる機会が無かった所へ期せずして行けること、旅行参加の皆さんと語らいながら共に巡ることの2点が大きな楽しみとなりました。まだ未参加の方はご参加いただくと楽しみが広がると思います。今後も皆様のご参加をお待ちしております。



長野県北部地震支援活動

須高ブロック 丹羽 正道

秋晴れの一日、かつて長野県北部地震に見舞われた栄村を訪れた。

田畑の実りも終盤、紅葉が始まり、これから村は長い冬にむかう。

平家の落人の里として知られ、雄大な自然に囲まれたこの地に、大きな地震があったことなど嘘のような、穏やかな日だった。

2011年3月11日東日本大震災翌日の長野県北部地震は、この郷に甚大な被害をもたらす大きな揺れだった。当時、私も派遣され調査に行った事に思いをはせる。

県教育委員会の要請で3月15日に、建築士会24名が公立学校施設災害復旧調査の為現地に赴いた。地震から4日目、飯山から津南町（新潟県）へ抜ける幹線117号は、応急処置はされたもののあちこちにクラックがあり、いつ崩れてもおかしくない状況、さらに両端が開いてしまった橋桁は、余震とともに落下する恐れがあった。

被害状況の調査は、小中学校4校と教職員住宅を6班に分かれて実施した。私は、志久見地域と中条地域の教職員住宅の調査を受け持った。

志久見地域の教職員住宅は木造2階建て6所帯、豪雪地帯のため基礎部分が鉄筋コンクリートで高さ3m程と高い。残雪が多いため基礎は雪に埋もれ、外から基礎や地盤の状況を確認することは出来ず、内部より地震によるクラックがないことを確認した。室内は、生活用品は散乱していたものの、ドアなど開口部付近のクロスにクラックが入る程度の軽傷だった。

中条地域の教職員住宅は、つくりは志久見地域の教員住宅と同じなのに、半壊状態だった。昭和56年以降の新耐震の木造だが、大きな揺れでかなり変形した様子がみえた。地震に対抗する壁（筋交いのある）の量は、足りているように見

受けられたが、土台と柱を固定する引き抜き金物がないため、写真のように土台から柱が引き抜かれた。余震が来れば完全に倒壊してしまうだろう。内部へ立ち入るのは危険なため、調査をあきらめた。



あれから13年、栄村は復興、復旧の道のりを超えて、穏やかで平和な村の姿が戻ったように見受けられた。しかしその間の住民の心労や葛藤など、私には到底思いも及ばないものがあつたのだろう。

日々続いていく人々の営みが常に、安全と安心に基づいたものであってほしいと再確認した一日だった。



長野県建築士会では、地震発生と同時に情報収集に努め、翌日の県要請を経て、24日から応急危険度判定に向かいました。小谷村の応急危険度判定作業では、被災地の集落が点在していることや災害で道路状況が悪いため、地域割りがされている消防団の組織に判定する班を割り当て、彼らの案内で判定作業にあたりました。



翌月からは住宅相談、そして罹災証明発行のための被害認定二次調査が開始され、400件を超える相談と認定調査に対応することが出来ました。信州建築構造協会をはじめ長野県建設労働組合やJ I Aの各団体の皆さんにもご協力をいただき、1月20日まで多くの迅速な対応を得て、このような支援活動を行うことが出来ました。

腰まで積雪、猛吹雪の中での作業をしていただいたこと、また悪路の中を遠方よりのご参加いただいたことに、改めて感謝の思いでいっぱいです。参加された皆さんの熱意と心遣いが、被災された方の復興に向けて大いに力添えになったと振り返ります。

近年、痛ましい自然災害が続いております。建築士会の活動が被災された方々の大きな支えになるように、行政との連携を強化しつつ、これからも支援体制を備えたいと思います。



長野県神城断層地震支援活動

南部ブロック 寺澤 雄治

2014年11月22日(土)22時8分、長野県北部を震源とする神城断層地震が発生、マグニチュード6.7、震度6弱を記録しました。この地震により白馬村、小谷村など2市1町3村の広範囲に被害が発生し、翌月19日の県対策本部は50棟の家屋が全壊、91棟が半壊、1,426棟が一部損壊と発表しました。震度5強を観測した白馬村の堀之内、三日市場地区に被害が集中しましたが、幸いにも負傷者は全体で46人（消防庁11/28発表）と人的被害は少なく済みました。



令和元年東日本台風災害

青年・女性建築士委員長 関 博之

令和元年東日本台風災害は、記録的な大雨により堤防の決壊や越水、内水氾濫など甚大な浸水被害、土砂災害等を引き起こしました。この災害により、6千人を超える方々が避難をしました。浸水等により全壊した住家約900棟をはじめ、大規模半壊、半壊、一部損壊を含めて4,000棟を超える甚大なものとなりました。また、収穫間近だったリンゴ等の農作物が泥まみれになり廃棄処分となりました。

こうした中、災害発生直後からボランティアの方々が駆け付け、住宅内の泥だしや災害ごみの運搬等が行われ迅速な復旧につながりました。建築士会でも復旧・復興に向けた被災者住宅相談活動を実施し、100件余りの相談に応じました。

私は、決壊した長沼地区に住んでいます。地元工務店ということで住宅復旧にあたってきました。私自身も避難所や仮設住宅暮らしを経験し、被災者の皆さんと同じ目線で復旧にあたってきました。電気もない、トイレも用を足せない、給湯器が水没してお風呂にも入れない、そんな日常ではあたり前のことがあたり前ではなくなりました。そんな経験を通して、日常のありがたみに感謝を忘れてはいけなとしみじみ感じました。

令和元年東日本台風災害は甚大な被害をもたらしました。しかし、自治体の皆さん、自衛隊の皆さん、ボランティアの皆さん、地元住民の皆さんそして建築士会が一丸となって立ち向かっていきました。そんな、人と人との絆を大きく感じる事ができたと思います。災害はこれからも起き続けますが、日常に感謝し絆を普段から深めていくことを心掛けたいです。



令和6年能登半島地震支援活動

防災委員長 下崎 明久

令和6年1月1日16時10分頃、石川県能登地方を震源とする最大震度7の大地震「能登半島地震」が発生しました。2日、長野県建築士会では地震災害対策準備が始まり、翌3日には長野県より長野県建築士会に石川県への応急危険度判定士派遣要請が発出されました。ながの支部では直ちに勝山担当副支部長と私とで、オクレンジャーとメール送信により判定士への派遣要請を行い、翌4日迄の間に延べ16名もの判定士から派遣可能の連絡を頂きました。長野県建築士会全体への派遣要請は、第2陣～第6陣（1月7～21日迄）に対して各5名（延べ25名）とされており、他支部との調整もあって派遣可能連絡を頂いた判定士全員が現地に赴くことはありませんでしたが、ながの支部の多くの判定士が素早く対応して下さったことは特筆に値することだと思います。因みに、ながの支部からの派遣判定士は、第2陣（中能登町）：土倉武幸・中島誠至・緑川直彦、第3陣：外山善政・私の5名でした（敬称略）。



第3陣（10～13日）は、道路事情が改善されたということで奥能登・輪島市への初めての派遣となりました。10日は移動時間だけで約9時間かかり、現地へ近づくにつれて被災状況が悪化していくのをまざまざと見せつけられながらの移動となりました。11日からの応急危険度判定業務では、第3陣の調査総数2,015件のうち1,148件が「危険（赤紙）」という結果でした。「危険」判定が6割近いというのは、私が携わった過去の地震時判定業務でも経験がないほどの酷い被害状況であり、今後の被災



地復興の道のりは険しいものにならざるを得ません。そんな状況下で、現地の住民の方々から我々判定士に、多くの労いの言葉をかけて頂いたことが大変印象に残りました。復興には時間がかかりますが、今後も一建築士としてできる限りの協力をしていきたいと考えています。

9 防災協定（避難所応急危険判定） 避難所の応急危険度判定について

副支部長 勝山 敏雄

・応急危険度判定士の役割

長野県では、大規模な地震が発生した場合、被災した建築物が余震等に対し引き続き安全に使用できるかを応急的に調査し、倒壊や部材の落下等による二次災害発生の危険度の判定を行う応急危険度判定士（以下「判定士」という）の認定制度を平成7年度から実施しています。平成23年に発生した長野県北部地震、平成26年に発生した長野県神城断層地震、令和6年元旦に発生した能登地震では多くの判定士の協力を得て被災建築物の応急危険度判定を実施しました。

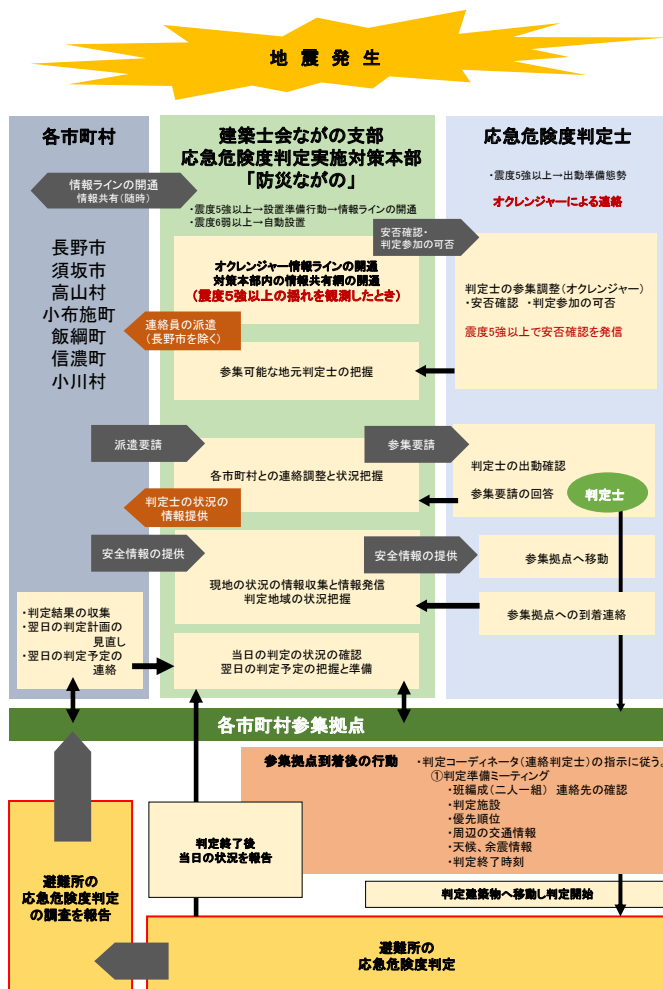
大規模地震が発生した場合には、短期間で多くの被災建築物の判定をする必要があり、判定士の方々のご協力が必要不可欠です。特に避難所は、多くの方が長期間にわたり避難生活を送ることになりますので、安全性の確認は必須となります。建築士会ながの支部は令和6年度に協定の見直しを行い、長野市・須坂市・高山村・小布施町・飯綱町・信濃町・小川村の7市町村と避難所の応急危険度判定の協力の協定を結び、大地震が発生した場合は、被災された方が一時的に生活をする避難所の安全性を確認するための判定を行うことになっています。

・避難所の応急危険度判定の流れと連絡体制

避難所の応急危険度判定は、各市町村からの判定要請に伴い、判定士を派遣します。判定結果に基づいて各市町村が避難所を開設することになります。震度5強以上の地震が発生した際に、ながの支部内に応急危険度判定実施対策本部を設置し、各市町村との情報ラインを開通します。各市町村からの判定要請を受けて、判定士にオクレンジャーにて情報発信を行います。参集場所に到着するまでの間、随時情報発信を行い、判定士が安全に移動できるようにしていきます。

・避難所の判定実施の基本事項

避難所の応急危険度判定は、被災した避難所が、避難所として開設できるか否かを判断する目的で行う調査・判定です。一般建築物の応急危険度判定が、建物外部からの調査を主とした応急（暫定かつ緊急）判定であるこ



とに対して、避難所の応急危険度判定は、被災した建物やその敷地が、被災者などが避難し、生活する場として十分に安全か否か、建物内外部の細部にわたって調査を行い、慎重に判定する必要があります。調査は、建物の構造部、非構造部材の安全性についても実施することになります。一般建築物の判定に比べるとさらに安全かどうかを求められています。また、敷地の状況と周辺を確認して、ライフラインの状況の調査に対しても協力する必要があります。

・最後に

大規模な地震がいつ起こるのかは誰にもわかりませんし、実際に起きた場合の状況が想像できません。現在進めている準備が十分とは言えないとは思いますが、想定される範囲の中で備えをしています。判定士の皆さんはいざという時にどのような初動をするかを認識していただければと思います。

結びになりますがこの協定が実際に発動されないよう、祈っています。

10 建築活動委員会法規勉強会

南部ブロック 馬場 由喜美

長野県建築士会長野支部に入会してからしばらくしてお世話になっている方からの誘いで法規委員会に入りました。その後、その方から引き継いで大丈夫か？と不安を抱えながら委員長になりましたが、ちょうど建築基準法の法改正が多くあり、講習会も皆さんのご協力で多く企画開催し勉強することが出来ました。長野市建築指導課さま、日本ERI株式会社さま、ありがとうございます。

その他の印象に残る活動は、古い町家をリノベーションしゲストハウスとしたゲストハウス見学会があります。難しい法的な手続きをし土蔵、主屋の建物のリノベーションをした建物の見学させていただき大変勉強になり印象に残っています。古い柱、梁そのまま残っていた階段襖、障子、調度品、活かした空間造りで雰囲気のいい民泊の施設でした。

もう一つは西鶴賀エリアリノベーションについてです。空洞化の進み、近年人影もまばらになってしまった西鶴賀町に活気を戻そうと始まりました。候補の空き家の現状の建物を調査し、用途変更や注意すべき法規のチェックリストを作成してワークショップを開催しました。その後一般の方々、学生さんが参加していただいた作業などでリノベーションしたショップも出来ました。まだまだ活動が進んでいるのでお店など増えて活気が戻り賑やかな西鶴賀町になる事と思います。

開催にあたりお世話になった皆さま、ありがとうございます。



11 まちづくり委員会の活動

まちづくり委員長 相野 律子

まちづくり委員会では、意欲的でユニークな委員の面々が‘まち’をキーワードに研修旅行やまち歩きを中心に据えた企画活動を行っています。令和元年からのコロナ禍でしばらく活動を休止していましたが、コロナが落ち着いた令和3年度には飯綱町の小学校をリノベした「いいづなコネクト」EASTとWESTの見学会を開催し、令和4年度には千曲川の決壊で大きな被害を受けた長野市長沼の穂保地区をドローンと一緒に歩きました。令和5年度は新たに重要伝統的建造物群保存地区に指定された須坂市で信州大学工学部の梅干野先生をお招きして座学とまち歩きを行いました。また、静岡で行われた全国大会に併せて静岡県で唯一の重要伝統的建造物群保存地区の焼津市花沢へも訪れました。

今後は自分たちの‘面白い’をテーマに活動の幅を広げ、委員相互や会員間の交流・研鑽の機会も増やして行きたいと思っています。まちづくり委員会を今後とも宜しくお願いします。



12 善光寺東参道活性化検討委員会 地域の課題にコミットする ～ 善光寺東参道活性化委員会の活動をお聞きして～

南部ブロック 大日方 紘子

善光寺の仁王門の東から、善光寺下駅まで続く「善光寺東参道（以下東参道）」。商家の街並みが続き、北国街道として古くから人や物品の往来で発展してきた街道。この街道に2010年地域向上の観点から、住民自治協議会において東参道の活性化の声が上がり、具体的な検討を進めるために「善光寺東参道活性化委員会」が設立され2014年から2016年まで活動が行われてきました。今回、委員会のアドバイザーとしてご尽力されてきた広瀬毅様に当時のお話や東参道の現状をお聞きしました。

東参道は、善光寺に参拝する観光客・地域住民・近隣

の学校に通う生徒たちといった歩行者と自動車の往来が非常に多い利用状況に対し、通りに家屋が密集しており道路幅員が約5mから8mと狭く交通事故の危険性とバリアフリー化への不適応が危惧されていました。歩行者の安全を確保するための「安全・安心な道づくり」と、東参道を利用する観光客をもてなすための「善光寺の参道としての道づくり」に向け、地域住民の皆さんと建築士会でワークショップ等を行い活性化に向け活動が行われてきました。



東参道現状の写真 2024年10月撮影

ワークショップ等の成果をふまえ、実現に移されるべく具体的な提案書が作成されました。中・短期計画では住民から今求められている声を取り上げ、一方通行といった交通規制の提案や、歩行者の安全を確保するための歩道のカラー舗装、ポケットパークの設置等の提案が成されました。3年間の活動後、道路後退による歩道の拡幅や歩道のカラー舗装化が実現されました。その一方でまだ実現に至っていない提案もあり今後の東参道の活性化が期待されています。

今回のお話しの中で、行動を起こすことの重要性和、実行に移すためには街にコミットすることが建築士の大きな役割であると広瀬様からご教示いただき、士会で活動していく姿勢の在り方を改めて考え直す貴重な機会になりました。



東参道活性化委員会の活動資料



西鶴賀エリアリノベーション 遊休不動産活用『西鶴賀エリアリノベーション』 6年間の委員会活動記録

まちなか特別委員長 久米 えみ

2019年

2月	地元・周辺関係者らと意見交換会やまちあるきイベントの準備 西鶴賀町の空き家活用を通じ、「長野市中心市街地に合法なりノベーションが普及・継続するためのシステムを確立」を目的とし、スタートする。 参加者：長野市中心市街地活性化協議会／長野県建築士会ながの支部／長野市／第三住民自治協議会
2月19日 20日	建築士会ながの支部による空家4件の実測
2月22日	建築基準法 法規勉強会 講師建築士会ながの支部 水野忠道氏
3月30日	第1回まちなかりノベーションワークショップ『まちの魅力と暮らし方発見&想像会議』開催
6月9日	第2回まちなかりノベーションワークショップ『まちの未来図提案！さぁ一緒に始めよう！』開催
7月～	活動拠点物件の検討と地主さんとの交渉を開始
10月	長野市各所で洪水災害発生。関係者ら援助活動に奔走

2020年

2月	9軒長屋を10年契約でお借りする話が成立する。西鶴賀の地主さんと契約締結
2月8日	建物ライフライン調査
3月	長野県立大学グローバルマネジメント科1年生福島君入居第一号決定する。
4月29日・ 5月2日～ 5日・12日	C4 壁塗りワークショップを開催する。
3月	C4 内部解体ワークショップ開催（～5月まで）
4月	国がコロナ緊急事態宣言発出。世の中がイベントを制限。
9月	感染状況を見ながら9月下旬頃からC9リノベに着手していくことが決まる
10月～	C9 壁壊しワークショップ開催

2021年

1月	C4 古着屋「GLOBE AMARANTH」オープン
3～6月	C9 リノベワークショップ開催
7月	C9 シェアオフィス「C9」オープン
8月	空き家を使ってリノベーション相談会開催
9～10月	働く女性のコミュニティ Biotopesとの西鶴賀エリアリノベーションのセミナー 計3回
10月	町内配布新聞「西鶴賀便り」発行
12月	長野青年会議所「2022年まち創生委員会」西鶴賀に來訪説明会開催

2022年

1月～	イベント開催のための協力へ動き出す⇒ノスタルジックストリート西鶴賀
ノスタルジックストリート西鶴賀	
	
3月	C3 壁塗りワークショップ開催
5月	C1・2 学生ハウス「宣千」オープン
5月13・14・15日	ノスタルジックストリート開催 長野青年会議所主催 協力建築士会ながの支部
6月	C7「下町食堂つるよし」オープン C3「cider&company」オープン
7月	「西鶴賀町の変遷を語る座談会」つきいち・アーキセミナー開催
8月	町内ガーデンパーティーが3年ぶりに復活！ グリーン寄せ植えワークショップ開催（8・9月）

2023年

2月	西鶴賀町9軒長屋企画ラリー「今、これまで、これから」開催
「今、これまで、これから」	
	
3月	9軒長屋一角から小火
5月	西鶴賀のこれまでの振り返るパネル制作ワークショップ
7月	C3「西鶴賀キッチン&スペース」オープン
8月	小火の絡みで一部解体工事（C6）
8月・9月	C9-2階 壁塗りワークショップ開催 →「西鶴賀町の変遷パネル展示スペース」開設準備

2024年

2月	C9-2階「西鶴賀町の変遷パネル展示スペース」完成 C4 古着屋「GLOBE AMARANTH」閉店 → 後輩の県立大学生たちが古着屋を引き継ぐ
3月	西鶴賀町エリアリノベーション『5年後のまちなみ座談会』開催 参加者80人
8月	C8 壁塗りワークショップ開催
10月	C8「こよいのお酒、あお葉」オープン

2025年

春	C3 スペインバルオープン予定 C4 立ち飲バーオープン予定 C1・2 ゲストハウス検討中
---	---



14 「若者座談会2024」を実施して

総務情報委員会 副編集長 大島 翔吾

「若者座談会2024」と題して、建築士会に所属する若者で集まり語り合う場を企画し、2024年7月に開催しました。当日語り合った内容は主に下記2点となります。

1. 建築士会が今後どうなっていけば良いと考えるか
2. なぜ建築士会に若者が少ないのか、若者の活動が活発ではないのか

1点目について、「今日のような意見交換の場を活発に設けて情報・知識・経験の共有を行えば個々のスキルアップにつながる。建築士会がより一層そうした場になってほしい」と意見が出ました。建築士、建築業界と一括りに言っても業務内容は多種多様にわたり、そのため分業化されています。それは、同じ業界にいながそれぞれが異なった情報・知識・経験をもって共存しているという事であり、その共有の場が必要となります。また、「他の協会・団体との活動目的の棲み分けがより明確になることで、自分が建築士会で活動していることを誇れるような集団になってほしい」との意見もありました。

2点目について、「若者は建築士会に入会して活動すると苦労が多く、その上その人にとっての活動目的が明確でないとボランティアのようになってしまっているの

ではないか」という意見がありました。以前は建築士会に入るメリットの一つに専門的な情報にいち早くアクセスできることが考えられましたが、昨今ではネットやSNS上で誰でも簡単に有益な情報にアクセスできてしまい、その辺りのメリットも薄れています。そのため、「例えば、建築士会館に若者が集まる場所をつくる、若者が気になっている建築を観に行く機会を設け意見交換を行う等の物理的な活動機会をより多く設けてはどうか」と意見がありました。

最後に、建築広くその活動について話し意見交換することは本来、年齢や経験に関係のない開かれた議論であると思います。今回は若者座談会という限られた場でしたが、今後は建築士会がより一層そうした開かれた場になることを期待します。

15

すこう
須古宇
ニュース

須古宇

◆題字「須古宇」には先輩の魂を引き継ぐという意味があります。

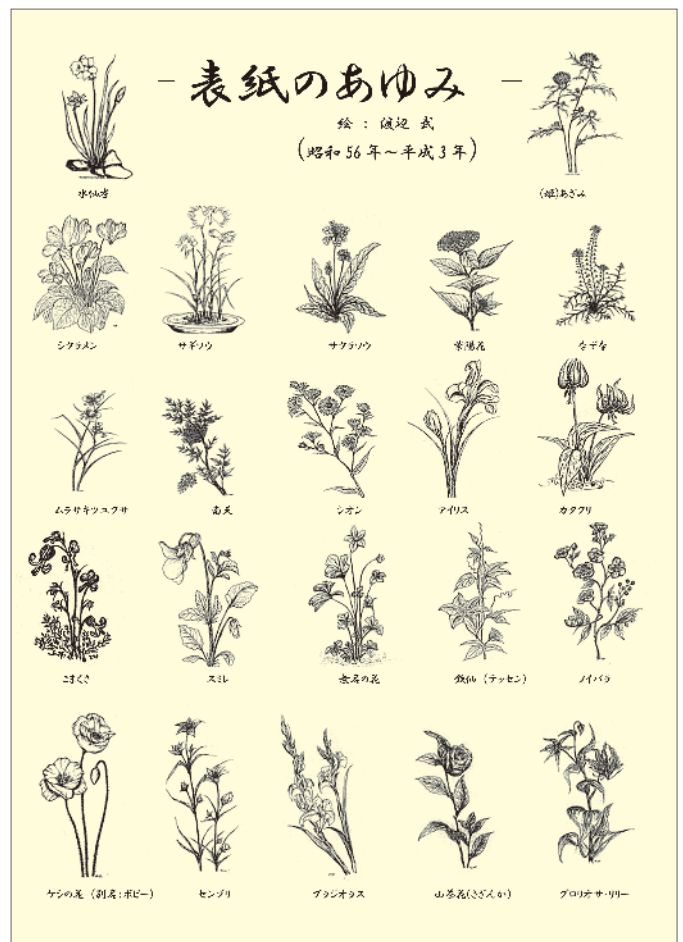
須高ブロック 吉澤 まゆみ

昭和62年に私は二級建築士試験に合格、昭和63年に登録、長野県建築士会須高支部に入会しました。それから一級建築士を取得し今に至るわけですが、士会に関しては、会費会員だった頃もあり、理事という名の班長さんの経験もあり、女性委員会があったころには委員長を務めたこともあります。「須古宇」には何回か寄稿したこともあります。端から端までちゃんと読んでいたかと聞かれると戸惑いを隠せません。

資料として残っている昭和54年前期号から見せていただきました。

当時の須高支部の会報は、前期後期と年2回発行。表紙の絵も既に渡辺武さんのスケッチでした。植物だけでなく、建物、生き物もありました。会員は274名。賛助会員の制度は定かではありませんが、広告として10数社載っていました。内容のほうは法規関連から確認手数料など業務に関するお知らせ、支部の事業のお知らせなどです。ゴルフ大会や野球・ソフトボール大会、ボーリング大会もあり、活発な交流があったことが伺えます。支部の研修旅行も大勢参加されていたようです。その後、会員は283名、賛助会員52社をピークに、平成13年には会員が200名を下回り、平成17年には賛助会員が20社を下回り、長野支部との統合の頃には、会員は100名を切り、賛助会員は11社となっています。

会報に戻りますが、平成11年後期号から、それまではオレンジ色だった表紙が白色になります。そして、平成16年から年1回の発行となります。予算の都合だと聞き



ました。会員は152名にまで減っていましたし、背景にはバブルの崩壊もあると思われます。

印象に残る記事は、

- 昭和60年、県の組織統廃合で上高井地方事務所がなくなる → 上高井連絡所になる
- 県建築住宅センター現る → 長野市へ移転する。
- 昭和62年・63年、青年委員会が発足 → 初代委員長は水越正和さん！
- 平成元年、消費税が3%になる。
- 平成10年、第48回県総会を当番須高支部でメセナホールに於いて開催。
- 平成11年、「全国大会」長野で開催。
- 平成13年輕井沢、平成23年松本、「関プロ青年協」長野大会。
- 平成14年、「県女性フォーラム2002」で軽井沢ナショナルトラストの役員の方による案内で貴重な建物を内部まで見学させてもらえる。
- 平成21年、「全建女」長野大会。
- 数年おきに起こる風水害、地震災害に心を痛める。
- 平成24年（たぶん）、当時副支部長戸松陽子さんを先生に、青年女性委員会を中心に有志参加で茶道部発足 → 現在も部活動は続いています。

そして何より、表紙を飾っていた草花のスケッチが、ずっとずっと続いていたことに、感謝しかありません。

16 思い出に残る支部活動

支部活動を通して

北部ブロック長 関口 文弘

「つちおと創刊300号」誠におめでとうございます。
つちおと創刊も50年余となりますが、そのような歴史的瞬間に僭越ながら執筆をさせていただきます事に感謝申し上げます。

私が建築士会に入会してから現在のブロック長を拝命するとは思いませんでしたが、当支部の役員、諸先輩方々のご助言を頂きながら支部活動の一端を担わせて頂いた事は、私にとって多くを学び、また沢山の方々と交流ができて大変貴重な機会を頂きました。

「思い出に残る支部活動」という事ですが、セミナーや見学会、野尻湖でのレクリエーション、ゴルフコンペやボウリング大会、忘新年会などなど…支部活動の全てが印象深く「楽しかった」の一言であります。

この節目を機に支部の伝統を大切に継承しつつ、今後の活動はアップデートを重ね、フレッシュな企画ができればと考えております。微力ではございますが大勢の会員の方々が気軽に楽しく参加できる活動ができる事を願っております。



Nealy ZEBを達成した角藤中央事務所見学会

第44回長野びんずる

南部ブロック長 緒方 哲生

ブロック長を拝命してからまだ1期2年目で、諸先輩が築き上げてきた行事を踏襲することで精いっぱいな中、会員のみなさんの思い出に残る支部活動を企画したいと思う今日この頃ですが…

自分の思い出に残る支部活動としては「第44回長野びんずる」です。

コロナ禍以降初めての参加となる令和6年の長野びんずるが第54回でしたので、ちょうど10年前で、皆さんの

記憶にはないかもしれませんが、当時私が青年委員の一員だった頃のお話です。

自分たちが楽しめる行事をしようということで青年委員会のメンバーで企画・立案し、支部のレクリエーションという位置づけであればブロック事業が適当であろうというアドバイスを頂き、当時の第1、第2ブロックの共同事業としてスタートしたのがこの年でした。

発足当時は、自分たちの子どもも小さく家族連れで参加していましたが、既に親について回るような年頃ではなくなってしまった今は、新しい世代の会員が家族で楽しめる行事として引き継がれていけば良いと思います。



第44回長野びんずる

須高支部から須高ブロックへ

須高ブロック長 佐藤 一利

つちおと300号の発行おめでとうございます。

記念号に寄稿の依頼いただきましたが、何を書こうか迷う中でながの支部初代須高ブロック長としての思いを綴ろうと思います。

長野支部と須高支部の統合の経緯は当時ご尽力いただいた役員の方から語られるはずなので、私はながの支部須高ブロックとして活動を始めてからの感想を書こうと思います。

最初は、人材不足で本会委員や支部役員の選考、各事業の人集めにも苦労していたので、統合によってその苦労がなくなり楽になると思っていましたが、いざ須高ブロックで活動を始めると、ながの支部の役員と委員の多さに支部の時以上に人集めが大変でした。

また、三役会、幹事会は倍以上の回数になり、各委員会の活動も活発に行われ多くの会員が参加している姿は統合した効果もあるのかと思います。

他には、須高支部では参加者不足で開催も危ぶまれたゴルフコンペ、ボウリング大会の他にもワカサギ釣りやカヌー体験などの、各種事業も行われ初顔の会員の方と交流ができることもうれしい経験です。

その中に、須高支部時代からの須高建築三団体（建築士会、事務所協会、防災協会各須高支部）の事業及び、

小田切家におけるお茶会が残されていることは、大変うれしく思います。

今回の統合は成功例だと思いますので、これからどこかの支部で統合ということがありましたら、いいお手本にして頂きたいです。

これからもながの支部の発展のための一翼を担っていききたいのでよろしくお願いいたします。

ありがとうございました。



お抹茶体験教室の様子



17 つちおとのデジタル化とホームページの拡充

総務情報委員会 編集長 堀 幸一

「読んでもらえるつちおとをつくりたい」

そう感じたのは、昭和46年に創刊したつちおとが282号を以てデジタル版に完全移行したときでした。16年間の編集作業に従事する中で、自分は紙面を埋めることがその役割だと思っていました。紙面廃止の主な理由は印刷費の削減ですが、振り返ると内容を見直す好機のように思います。見直しがなぜ必要かというと、現代は情報と引き換えに文字で溢れているからです。パソコンを開けば大量のメールが届き、読む気力を失わせ、未読メールとともに情報も埋もれます。ましてや、欲する単語を検索するだけで膨大な文字がこぞって並ぶ飽食の時代。自分の消化能力の低さをいやがうえにも感じます。

欲しい情報を自らが簡単に手に入れられる現代で、読みたい会報をつくる糸口はやはり、シンプルにすること。それによって、忙しい読み手の時間を尊重できます。つまり、読み手ファースト。シンプルなメッセージに意義を持たせ、必要とする人には先へと続く扉を用意する。それにはホームページとの連携が不可欠であることは明白です。

一方で、つちおとはニュースレターではありません。効率を何よりも重要視することで文章表現が欧米化され、道辺に佇んだ道祖神の笑顔に刻まれるような奥ゆかしい日本語文化の面影は失われてしまう気がします。引き続きみなさんから寄稿いただく言葉を大切に、バランスを取りながら、読みたいつちおとを目指し、ホームページの拡充とともに努めたいと思います。

ツクモグサ



高山帯の砂礫地に咲く。花期は6月。花色は淡黄色。白馬岳や八ヶ岳の一部で見られる。＜絶滅危惧ⅠA類＞危惧要因としては園芸採取や踏みつけによる。また生育地が限られているのも要因の一つ。

支 部 の 歩 み

平成20年度（2008年度）

【支部長】
酒井 富雄

【副支部長】
宮下 正一
林辺 松治
市川 英一
佐藤 義博
小山 芳郎
松井 昭夫
中島 誠至

- ・第58回支部通常総会
- ・第58回本会通常総会への参加
- ・二級建築士試験監理員の派遣（学科）
- ・一級・木造建築士試験監理員の派遣（学科）
- ・「つちおと」200号（記念号）発行
- ・宮本忠長連合会名誉会長をご慰労する会・「つちおと200号」発行記念祝賀会
- ・長野支部ゴルフ大会
- ・第14回長野県建築士会ゴルフ大会への参加（開催担当支部：諏訪支部）
- ・第51回建築士会全国大会「徳島大会」研修旅行
- ・「第3回会員大会2008inまつもと」への参加
- ・専攻建築士認定証授与式
- ・新春交流広場2009及び新年会
- ・ワカサギ釣り
- ・第22回長野支部ボウリング大会
- ・＜水＞の勉強会 ～カヌー体験会
- ・二級建築士受験準備講習会（学科）28回
- ・二級建築士受験準備講習会（設計製図）10回
- ・C A D講習会
- ・長野市中高層建築物の紛争防止条例関連の法規講習会
- ・「ル・コルビュジェ」のスライド会・鑑賞会
- ・「ルイスカーン」鑑賞会
- ・インテリア研修会及び明治村見学会
- ・まち歩き見学会「くらマップをつくろう」
- ・富山見学会
- ・スキー講習会
- ・善光寺五重塔の研究
- ・長野県建築指導員（3名）長野市建築指導員（5名）の派遣他行政への協力
- ・C P D制度（126名）・専攻建築士制度（26名33領域）の運営
- ・長野市住宅相談の協力
- ・つちおと198号～203号発行

（会員数 470）

平成21年度（2009年度）

【支部長】
林辺 松治

【副支部長】
市川 英一
小山 芳郎
佐藤 義博
丹羽 正道
鈴木 芳彦
増田 憲一
久米 えみ

- ・第59回支部通常総会
- ・第59回本会通常総会への参加
- ・二級建築士試験監理員の派遣（学科）
- ・一級・木造建築士試験監理員の派遣（学科）
- ・長野支部ゴルフ大会
- ・第15回長野県建築士会ゴルフ大会への参加（開催担当支部：埴科支部）
- ・第52回建築士会全国大会「やまがた大会」研修旅行
- ・第4回会員大会「建築士+ふるさとネットワーク2009inSUWA」への参加
- ・新春交流広場2010及び新年会
- ・専攻建築士認定証授与式
- ・ワカサギ釣り
- ・第23回長野支部ボウリング大会
- ・＜水＞の勉強会 ～カヌー体験会
- ・二級建築士受験準備講習会（学科）23回
- ・二級建築士受験準備講習会（設計製図）10回
- ・C A D講習会
- ・会員証の発行
- ・「安藤忠雄①②」鑑賞会
- ・「アントニ・ガウディ」鑑賞会

（会員数 461）

- ・既存不適格建築物の増築に係る基準の緩和等の法規講習会・「フランク・ロイド・ライト①②」鑑賞会
- ・スミカプロジェクト見学会（宇都宮市）
- ・池口寺薬師堂現場見学会・講演会（木曽郡）
- ・「くらマップをつくろう」の実施
- ・耐震セミナー
- ・《伝統構法》構造と土壁見学会
- ・スノーシュー体験会
- ・建築士免許交付式
- ・長野県建築指導員（3名）長野市建築指導員（5名）の派遣他行政への協力
- ・C P D制度（137名）・専攻建築士制度（5名6領域・更新1名2領域）の運営
- ・長野市住宅相談の協力
- ・つちおと204号～209号発行

平成22年度（2010年度）

【支部長】
林辺 松治

【副支部長】
市川 英一
小山 芳郎
佐藤 義博
丹羽 正道
鈴木 芳彦
増田 憲一
久米 えみ

- ・第60回支部通常総会
- ・第60回本会通常総会への参加
- ・二級建築士試験監理員の派遣（学科）
- ・一級・木造建築士試験監理員の派遣（学科）
- ・長野支部ゴルフ大会
- ・第16回長野県建築士会ゴルフ大会への参加（開催担当支部：更級支部）
- ・第53回建築士会全国大会「佐賀大会」研修旅行
- ・第1回建築士フォーラム2010in上田への参加
- ・新春交流広場2011及び新年会
- ・平成22年度支部臨時総会
- ・ワカサギ釣り
- ・第24回長野支部ボウリング大会
- ・＜水＞の勉強会 ～カヌー体験会
- ・建築士免許交付式
- ・長野県北部地震（栄村）
応急危険度判定士の派遣
公立学校施設災害調査員の派遣
被災住宅相談チームの派遣
- ・二級建築士受験準備講習会（学科）23回
- ・二級建築士受験準備講習会（設計製図）10回
- ・農地改正に伴う農地転用に関する勉強会
- ・建築確認手続き等の運用改善に関する講習会
- ・引火性溶剤を用いるドライクリーニング業を営む工場等の実態調査協力
- ・長野市民会館見学会
- ・今井ニュータウン見学会
- ・信州大学工学部建築学科合同講座2010年「建築における音環境」
- ・「木造住宅の耐震性」DVD鑑賞
- ・スライドショー・ニューヨークレポート
- ・まちづくり研修旅行2010「黒壁」と「空堀商店街」
- ・「くらマップをつくろう」の実施
- ・木材を利用する立場から「森林と林業」を知る勉強会
- ・小布施町立図書館～修景の町並み見学会
- ・長野県建築指導員（3名）長野市建築指導員（5名）の派遣他行政への協力
- ・C P D制度（136名）の運営
- ・長野市住宅相談の協力
- ・つちおと210号～215号発行

（会員数 438）

平成23年度（2011年度）	
【支部長】 林 辺 松 治 【副支部長】 市川 英一 小山 芳郎 土倉 武幸 丹羽 正道 西堀真二郎 増田 憲一 久米 えみ (会員数 417)	・長野県北部地震（栄村）罹災証明調査 ・第1回支部通常協議会（第61回通常総会） ・第61回本会通常総会への参加 ・二級建築士試験監理員の派遣（学科） ・一級・木造建築士試験監理員の派遣（学科） ・長野支部ゴルフ大会 ・第17回長野県建築士会ゴルフ大会への参加（開催担当支部：安曇野支部） ・第54回建築士会全国大会「大阪大会」(中止) ・世界遺産「平泉」と南三陸復興視察研修旅行 ・第2回建築士フォーラム2011in松代への参加 ・新春交流広場2012及び新年会 ・ワカサギ釣り ・第25回長野支部ボウリング大会 ・＜水＞の勉強会 ～カヌー体験会 ・建築法規の情報交換会・法規茶論 ・引火性溶剤を用いるドライクリーニング業を営む工場等の実態調査協力・引受体制の整備 ・善光寺大観進本堂「萬善堂」見学会 ・信州大学工学部建築学科合同講座2011年「建築における新しい視点」 ・「エネファーム」、「サーモウッド」、「P D C E 避雷針」、「ソーラーフロンティア」、木造制震工法(仕口ダンパー)研修会 ・DVD上映「伊東豊雄・中村好文」 ・「新しくなった鬼無里中学校木造校舎」見学会 ・虫倉山登山 ・建築士免許交付式 ・長野県建築指導員（3名）長野市建築指導員（5名）の派遣他行政への協力 ・C P D制度（123名）の運営 ・長野市住宅相談の協力 ・つちおと216号～221号発行
平成24年度（2012年度）	
【支部長】 林 辺 松 治 【副支部長】 市川 英一 小山 芳郎 土倉 武幸 丹羽 正道 西堀真二郎 増田 憲一 久米 えみ	・第62回支部通常協議会 ・第62回本会通常総会への参加 ・二級建築士試験監理員の派遣（学科） ・一級・木造建築士試験監理員の派遣（学科） ・長野支部ゴルフ大会 ・第18回長野県建築士会ゴルフ大会への参加（開催担当支部：飯伊支部） ・長野県建築士会代議員選挙 ・第55回建築士会全国大会「いばらき大会」研修旅行 ・第3回建築士フォーラム2012in安曇野への参加 ・新春交流広場2013及び新年会 ・ワカサギ釣り ・第26回長野支部ボウリング大会 ・＜水＞の勉強会 ～カヌー体験会 ・長野市中央通りのベンチ調査意見交換会 ・善光寺周辺リノベーション物件見学会 ・低炭素建築物（エコまち法）等についての講習会 ・長野県庁本館棟免震装置設置工事現場見学会 ・講習会DVD上映会「ヤマベの木構造1/6. 2/6. 3/6シリーズ」 ・小中一貫教育校 信濃町立信濃小中学校見学会 ・東京ガス千住見学サイト「Ei-WALK」見学会 ・「災害時における被災建築物応急危険度判定の協力に関する協定」締結（長野市）
平成25年度（2013年度）	
【支部長】 小 山 芳 郎 【副支部長】 土倉 武幸 丹羽 正道 久米 えみ 齊藤 浄 西堀真二郎 森 望 広瀬 毅 (会員数 369)	・栄村村営復興住宅完成見学会 ・長野県建築指導員（3名）長野市建築指導員（5名）の派遣他行政への協力 ・建築士免許交付式 ・C P D制度の運営 ・長野市住宅相談の協力 ・つちおと222号～227号発行 ・第63回支部通常協議会 ・第63回本会通常総会及び創立60周年記念式典への参加 ・二級建築士試験監理員の派遣（学科） ・一級・木造建築士試験監理員の派遣（学科） ・長野県建築士会代議員補欠選挙 ・長野支部ゴルフ大会 ・第19回長野県建築士会ゴルフ大会への参加（開催担当支部：上小支部） ・第56回建築士会全国大会「しまね大会」研修旅行 ・建築士フォーラム2013in飯田 ・新春交流広場2014及び新年会 ・ワカサギ釣り ・第27回長野支部ボウリング大会 ・＜水＞の勉強会 ～カヌー体験会 ・野尻湖畔別荘見学会 ・耐震改修法 天井の脱落対策等についての講習会 ・講習会DVD上映会「ヤマベの木構造4/6. 5/6. 6/6シリーズ」「妹島和世・北山恒」 ・建築士がつくる住まいの作品展 ・地域材フィールドワーク勉強会 ・建築士免許交付式 ・長野市住宅相談窓口・相談員 20回 ・公開建築パトロール・建築指導員（2名） ・二級建築士受験準備講座・講師 ・つちおと228号～233号発行
平成26年度（2014年度）	
【支部長】 小 山 芳 郎 【副支部長】 土倉 武幸 丹羽 正道 久米 えみ 齊藤 浄 西堀真二郎 森 望 広瀬 毅	・第64回支部通常協議会 ・第64回本会通常総会への参加 ・二級建築士試験監理員の派遣（学科） ・一級・木造建築士試験監理員の派遣（学科） ・長野びんずる祭り参加 ・長野支部ゴルフ大会 ・長野県建築士会代議員選挙 ・第20回長野県建築士会ゴルフ大会への参加（開催担当支部：須高支部） ・第57回建築士会全国大会「ふくしま大会」研修旅行 ・建築士フォーラム2014in埴科 ・新春交流広場2015及び新年会 ・ワカサギ釣り ・第28回長野支部ボウリング大会 ・＜水＞の勉強会 ～カヌー体験会 ・Facebookを活用した情報発信 ・スキルアップセミナー「おもてなしのこころとは」 ・「中大規模木造及び木質構造建築の現状と未来」セミナー ・「地下水循環型地中熱採熱システム実証プラント」見学会 ・「南長野運動公園総合球戯場」見学会 ・善光寺東参道活性化検討会議への参加

(会員数 356)	・神城断層地震への派遣協力 ・建築士免許交付式 ・善光寺東参道活性化検討会議 ・長野県建築指導員（3名）長野市建築指導員（5名）の派遣他行政への協力 ・C P D 制度選考建築士の運営 ・長野市住宅相談の協力 ・神城断層地震 応急危険度判定及び住宅相談への協力 ・つちおと234号～239号発行
-----------	--

平成27年度（2015年度）

【支部長】 小山 芳郎 【副支部長】 土倉 武幸 丹羽 正道 久米 えみ 齊藤 浄 西堀真二郎 森 望 広瀬 毅	・第65回支部通常協議会 ・第65回本会通常総会への参加 ・二級建築士試験監理員の派遣（学科） ・一級・木造建築士試験監理員の派遣（学科） ・長野びんずる祭り参加 ・長野県建築士会代議員補欠選挙 ・長野支部ゴルフ大会 ・第21回長野県建築士会ゴルフ大会への参加（開催担当支部：大北支部） ・第58回建築士会全国大会「石川大会」研修旅行 ・建築士フォーラム2015inながの ・新春交流広場2016及び新年会 ・ワカサギ釣り ・第29回長野支部ボウリング大会 ・＜水＞の勉強会 ～カヌー体験会 ・Facebookを活用した情報発信 ・住み手に魅力的であり続ける住宅外観の調査 ・省エネルギー住宅のつくり方勉強会 ・長野市第一庁舎・市民芸術館 建築見学会 ・善光寺東参道活性化検討会議への参加 ・建築士免許交付式 ・長野県建築指導員（3名）長野市建築指導員（5名）の派遣他行政への協力 ・C P D 制度専攻建築士制度の運営 ・長野市住宅相談の協力 ・つちおと240号～245号発行
---	--

平成28年度（2016年度）

【支部長】 小山 芳郎 【副支部長】 土倉 武幸 丹羽 正道 久米 えみ 齊藤 浄 西堀真二郎 森 望 広瀬 毅	・第66回支部通常協議会 ・第66回本会通常総会への参加 ・二級建築士試験監理員の派遣（学科） ・一級・木造建築士試験監理員の派遣（学科） ・長野びんずる祭り参加 ・長野県建築士会代議員選挙 ・長野支部ゴルフ大会 ・建築士フォーラム2016in北アルプスの参加 ・第22回長野県建築士会ゴルフ大会への参加（開催担当支部：上伊那支部） ・第59回建築士会全国大会「大分大会」研修旅行 ・大阪府建築士会との交流 ・新春交流広場2017及び新年会 ・ワカサギ釣り ・第30回長野支部ボウリング大会 ・＜水＞の勉強会 ～カヌー体験会 ・スキルアップセミナー「スケッチパースの描き方」 ・目からウロコの建築物省エネ法セミナー ・重要文化財善光寺経蔵保存工事見学会 ・長野市伊勢宮・若槻団地「住宅外観の印象評価の調査」 ・建築士免許交付式
---	--

(会員数 347)	・長野県建築指導員（3名）長野市建築指導員（5名）の派遣他行政への協力 ・C P D 制度専攻建築士制度の運営 ・住宅相談の協力 ・つちおと246号～251号発行
-----------	--

平成29年度（2017年度）

【支部長】 土倉 武幸 【副支部長】 丹羽 正道 久米 えみ 西堀真二郎 齊藤 浄 原山 泰 山口 満 広瀬 毅	・事務局移転 長野建設事務所建築課内へ ・第67回支部通常協議会 ・第67回本会通常総会への参加 ・二級建築士試験監理員の派遣（学科） ・一級・木造建築士試験監理員の派遣（学科） ・長野びんずる祭り参加 ・長野県建築士会代議員補欠選挙 ・長野支部ゴルフ大会 ・建築士フォーラム2017in中央アルプス参加 ・第23回長野県建築士会ゴルフ大会への参加（開催担当支部：佐久支部） ・依田高彬副会長の長野県知事表彰受賞を祝う会 ・第60回建築士会全国大会「京都大会」研修旅行および大阪府建築士会との交流会 ・新春交流広場2018及び新年会 ・ワカサギ釣り ・第31回長野支部ボウリング大会 ・＜水＞の勉強会 ～カヌー体験会 ・スキルアップセミナー「塗料セミナー」 ・長野県建築文化賞最優秀受賞作品見学会（H I O K I イノベーションセンター・飯綱山荘） ・長門町の家建築見学会 ・県産材を使ったZ E Hを考えるセミナー ・まちづくり研修旅行in高岡・富山 ・古い町家をリノベーションし、古き良き生活を再現しているゲストハウス布袋屋見学会 ・建築法規懇談会「建築基準法の『浅深・裏表』を法規の達人がお答えします！」 ・将来に向けての支部のあり方研究 ・長野イエス御霊協会見学会 ・建築士免許交付式 ・「災害時における応急危険度判定の協力に関する協定書」契約（飯綱町・信濃町・小川村） ・長野県建築指導員（3名）長野市建築指導員（5名）の派遣他行政への協力 ・C P D 制度専攻建築士制度の運営 ・住宅相談の協力 ・つちおと252号～257号発行
---	---

平成30年度（2018年度）

【支部長】 土倉 武幸 【副支部長】 丹羽 正道 久米 えみ 西堀真二郎 齊藤 浄 原山 泰 山口 満 広瀬 毅	・第68回支部通常協議会 ・第68回本会通常総会への参加 ・長野市空家等対策に関する協定合同調印式 ・二級建築士試験監理員の派遣（学科） ・一級・木造建築士試験監理員の派遣（学科） ・長野びんずる祭り参加 ・長野県建築士会代議員選挙 ・長野支部ゴルフ大会 ・第24回長野県建築士会ゴルフ大会への参加（開催担当支部：木曽支部） ・建築士フォーラム2018in北信濃参加 ・第61回建築士会全国大会「さいたま大会」研修旅行 ・須高支部との統合協議（全6回） ・臨時協議会、新春交流広場2019及び新年会 ・ワカサギ釣り
---	--

(会員数 329)	・第32回長野支部ボウリング大会 ・＜水＞の勉強会 ～カヌー体験会 ・建築士免許交付式 ・県産材木活用住宅見学会+モロッコの街と建築紹介 ・伊藤豊雄講演会DVD上映会 ・防火設備の定期報告について、民泊の法規改正について ・まちづくり研修旅行2019 ・接客時に活用できる早描きスケッチ ・「こう変わる！建築基準法」の講習会 ・飯綱町 斑尾山苔翁寺山門改修工事見学会 ・木造建築の可能性を広げる技術～構造用ビスと接合金物を学ぶ～ ・西鶴賀エリアリノベーションワークショップ開催協力 ・長野市特定空家等判定調査の受託 ・長野県建築指導員（3名）長野市建築指導員（5名）の派遣他行政への協力 ・CPD制度専攻建築士制度の運営 ・住宅相談の協力 ・つちおと258号～263号発行
-----------	--

平成31年度・令和元年度（2019年度）

【支部長】 土倉 武幸 【副支部長】 丹羽 正道 久米 えみ 西堀真二郎 永井 寛治 齊藤 浄 原山 泰 佐藤 一利	・「須高支部」「長野支部」統合「ながの支部」発足 ・第1回支部通常協議会 基調講演・祝賀会 ・第69回本会通常総会への参加 ・二級建築士試験監理員の派遣（学科） ・一級・木造建築士試験監理員の派遣（学科） ・長野びんずる祭り参加 ・ながの支部ゴルフ大会 ・第62回建築士会全国大会「北海道大会」研修旅行 ・第25回長野県建築士会ゴルフ大会への参加（開催担当支部：中高支部） ・新春交流広場2020及び新年会 ・ワカサギ釣り ・＜水＞の勉強会 ～カヌー体験会 ・お抹茶体験教室（旧小田切家住宅上店利活用） ・令和元年こう変わる！建築基準法 ・リクシル&アイカ工業研修旅行 ・峰の原フォトウォーク ・「フォトも」で簡単！まちの刺激を切り取る ・須坂まちなみ散歩 ・2020年4月1日改正民法DVD講習会 ・西鶴賀空き家の対象物件の解体ワークショップ ・中心市街地空家探索ワークショップ ・長野県建築指導員（5名）長野市建築指導員（5名）の派遣他行政への協力 ・CPD制度専攻建築士制度の運営 ・住宅相談の協力 ・長野市特定空家等判定調査業務の受託 ・台風19号被災者に対する専門家による総合相談への協力 ・つちおと264号～269号発行 《台風19号および新型コロナウイルス感染防止のため中止となった事業》 ・建築士フォーラム2019in木曽路（台風のため中止） ・第33回ながの支部ボウリング大会（新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止） ・建築士免許交付式（新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止）
--	--

(会員数 408)
(旧須高 84)
(旧長野 324)

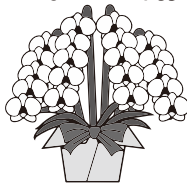
令和2年度（2020年度）	
【支部長】 土倉 武幸 【副支部長】 丹羽 正道 久米 えみ 西堀真二郎 永井 寛治 齊藤 浄 原山 泰 佐藤 一利	・第2回支部通常協議会 ・第70回本会通常総会への参加 ・二級建築士試験監理員の派遣（学科） ・一級・木造建築士試験監理員の派遣（学科） ・長野県建築士会代議員選挙 ・一級・木造建築士試験監理員の派遣（設計製図） ・ワカサギ釣り ・第34回ながの支部ボウリング大会 ・＜水＞の勉強会 ～カヌー体験会 ・インターネットを活用した情報発信 ・UDC信州！支える・育む・発信する、信州まちづくりネットワークのハブ～ ・戸隠神社中社大鳥居建替え工事見学会 ・峰の原イベント ・長野県建築指導員（5名）長野市建築指導員（5名）の派遣他行政への協力 ・CPD制度専攻建築士制度の運営 ・住宅相談の協力 ・長野市特定空家等判定調査業務の受託 ・台風19号被災者に対する専門家による総合相談への協力 ・つちおと270号～275号発行 《新型コロナウイルス感染防止のため中止または延期となった事業》 ・ながの支部ゴルフ大会 ・第26回長野県建築士会ゴルフ大会 ・第63回建築士会全国大会「広島大会」 ・新年昼食会 ・お抹茶体験教室

(会員数 393)

令和3年度（2021年度）	
【支部長】 土倉 武幸 【副支部長】 久米 えみ 西堀真二郎 勝山 敏雄 関口 文弘 原山 泰 佐藤 一利	・第3回支部通常協議会 ・第71回本会通常総会への参加 ・ながの支部ゴルフ大会 ・二級建築士試験監理員の派遣（学科） ・一級・木造建築士試験監理員の派遣（学科） ・第63回建築士会全国大会「広島大会」オンライン東京開催 ・お抹茶体験教室（旧小田切家住宅上店利活用） ・令和元年東日本台風被害からの復活 ・中心市街地リノベーションから見えてきた「古い建物の改修の法的な課題と実務対応について」 ・いいいいいいづなでいい見学会 ・「地震災害時における避難所等の応急危険度判定」説明会 ・プロによる塗装講座 ・長野県建築指導員（4名）長野市建築指導員（5名）の派遣他行政への協力 ・CPD制度専攻建築士制度の運営 ・住宅相談の協力 ・台風19号被災者に対する専門家による総合相談への協力 ・つちおと276～281号デジタル版発行（276号より印刷物からデジタル版へ移行） 《新型コロナウイルス感染防止のため中止または延期となった事業》 ・第26回長野県建築士会ゴルフ大会 ・新春交流広場2022および新年会 ・ワカサギ釣り

(会員数 372)	・第35回ながの支部ボウリング大会 ・＜水＞の勉強会 ～カヌー体験会	・「地震災害時における被災建築物応急危険度判定の協力に関する協定書」変更に伴う再契約（長野市） ・長野県建築指導員（4名）長野市建築指導員（5名）の派遣他行政への協力 ・C P D制度専攻建築士制度の運営 ・住宅相談の協力 ・つちおと288号～293号デジタル版発行
令和 4 年度（2022年度）		
【支部長】 土倉 武幸 【副支部長】 久米 えみ 西堀真二郎 勝山 敏雄 関口 文弘 原山 泰 佐藤 一利	・第4回支部通常協議会 ・第72回本会通常総会への参加 ・ながの支部ゴルフ大会 ・二級建築士試験監理員の派遣（学科） ・一級・木造建築士試験監理員の派遣（学科） ・長野県建築士会代議員選挙 ・第26回長野県建築士会ゴルフ大会への参加（開催担当支部：諏訪支部） ・第64回建築士会全国大会「あきた大会」研修旅行 ・建築士フォーラム2022 建築士会創立70周年記念式典参加 ・新春交流広場2023および新年会 ・住宅リフォーム支援セミナーへの協力 ・ワカサギ釣り ・第36回ながの支部ボウリング大会 ・＜水＞の勉強会 ～カヌー体験会 ・支部ホームページ更新のためのワードプレス講座開設 ・お抹茶体験教室(旧小田切家住宅上店利活用) ・ノスタルジックストリート西鶴賀まち歩き ・四代続いた理髪店主が見た西鶴賀の歴史 ・「地震災害時における避難所等の応急危険度判定」説明会 ・空き巣に狙われやすい家の特徴と被害の実態 ・穂保を歩き・鳥瞰し・学ぶ ・空き家を使ってリノベーション相談会 ・長野県建築指導員（4名）長野市建築指導員（5名）の派遣他行政への協力 ・C P D制度専攻建築士制度の運営 ・住宅相談の協力 ・つちおと282号～287号デジタル版発行	(会員数 346)
令和 6 年度（2024年度）		
【支部長】 久米 えみ 【副支部長】 西堀真二郎 勝山 敏雄 原山 泰 関口 文弘 緒方 哲生 佐藤 一利	・第6回支部通常協議会 ・第74回本会通常総会への参加 ・(株)マルオカ 信州・すまいのわくわくフェア住宅相談ブース出展 ・櫻ヶ岡中学校「防災の家」出前授業 ・ながの支部ゴルフ大会 ・二級建築士試験監理員の派遣（学科） ・一級・木造建築士試験監理員の派遣（学科） ・長野びんずる祭り参加 ・第66回建築士会全国大会「鹿児島大会」研修旅行 ・第28回長野県建築士会ゴルフ大会への参加（開催担当支部：ながの支部） ・長野県建築士会代議員選挙 ・新春交流広場2025及び新年会 ・建築士フォーラム2024in諏訪 ・ながのワインを愉しむ会（ワイン試飲会） ・第38回ながの支部ボウリング大会 ・＜水＞の勉強会 ～カヌー体験会 ・お抹茶体験教室（旧小田切家住宅上店利活用） ・続・戸隠古道散策 ・「地震災害時における避難所等の応急危険度判定」についての説明・意見交換会+訓練 ・「地震発生時における避難所等の応急危険度判定に関する協定書」変更に伴う再契約（須坂市・飯綱町・信濃町・小布施町・小川村・高山村） ・長野県建築指導員（4名）長野市建築指導員（5名）の派遣他行政への協力 ・C P D制度専攻建築士制度の運営 ・住宅相談の協力 ・つちおと294号～299号デジタル版発行	(会員数 335)
令和 5 年度（2023年度）		
【支部長】 久米 えみ 【副支部長】 西堀真二郎 勝山 敏雄 原山 泰 関口 文弘 緒方 哲生 佐藤 一利	・事務局移転 長野県建築士会館内へ ・第5回支部通常協議会 ・第73回本会通常総会への参加 ・ながの支部ゴルフ大会 ・二級建築士試験監理員の派遣（学科） ・一級・木造建築士試験監理員の派遣（学科） ・第27回長野県建築士会ゴルフ大会への参加（開催担当支部：埴科支部） ・第65回建築士会全国大会「しずおか大会」研修旅行 ・能登半島地震 応急危険度判定支援業務 ・新春交流広場2024および新年会 ・住宅リフォーム支援セミナー・相談会への協力 ・ワカサギ釣り ・第37回ながの支部ボウリング大会 ・＜水＞の勉強会 ～カヌー体験会 ・お抹茶体験教室（旧小田切家住宅上店利活用） ・戸隠古道散策 ・西鶴賀で写真ギャラリーを造ろう！ ・西鶴賀エリアリノベーション「5年後のまちなみ座談会」 ・まちづくり研修会「須坂の街並みに学ぶ」 ・「地震災害時における避難所等の応急危険度判定」説明会 ・ZEB建築オフィス現場見学/設計説明会	

お祝いや贈り物に花ギフトご注文承ります。



胡蝶蘭などご予算に応じて、ご用意いたします。また、配達も承っておりますので、ご用命ください。

（※小布施町内配達無料）

フローラルガーデンおぶせ

〒381-0209 上高井郡小布施町大字中松 506-1

TEL:026-247-5487 FAX:026-247-5488



支部活動

※「つちおと」バックナンバーより転載

新支部発足

■■■■ 支部報告 ■■■■

臨時協議会 ～支部統合に向けて～

支部長 土倉 武幸



去る1月23日午後1時半、例年新春交流広場の前段で講演会がセットされる時間帯ですが、今年は臨時協議会が開催されました。議事はもちろん支部統合に伴う新支部規約(案)について。これまで両支部三役が出席しての合併協議6回に加え、東北信地区組織再編協議会や、支部幹事会等での検討を重ねてきた最終案です。審議においてはブロックの区割や評議員会の後継組織である支部諮問会議についての質問をいただきましたが、説明によってご納得いただき、無事承認可決されました。また同時に新規約施行に伴って旧規約の廃止が承認されました。

前日22日の須高支部臨時協議会にて、既に新支部規約(案)が承認されていたので、これをもって平成31年4月1日の「ながの支部」発足が決定したわけです。

新年度5月16日に予定されています通常協議会まで、まだまだ調整は続きますが、更なる皆様のご協力をお願い申し上げます。



(平成31年3月 263号)



新「ながの支部」発足

ながの支部長 土倉 武幸

4月1日、長野県建築士会の公益社団法人化とともに、須高・長野両支部が合併し、「公益社団法人長野県建築士会ながの支部」が発足いたしました。6回にわたる合併協議を含め、関係各位には大変なご尽力をいただきましたことに改めて感謝申し上げます。

発足当日、新しく支部の区域となる、須坂市、小布施町、高山村の各行政庁にご挨拶に伺いました。改めて建築士会と地域との深い関係性を感じ、身の引き締まる思いでした。

ー 単に条件を擦り合わせて合併するということではなく、
新たな時代の理想の支部の形に少しでも近づける ー

今回の合併にあたり基本方針として掲げました。内容的には組織体制や仕組み等抜本的に変更した部分があれば、長年の慣習が定着し、その変更には相当な調整が必要のため今回頭をつけられなかった部分もあります。何れにしても時代は変化し続けており、今後とも時代のニーズに応えられる支部であり続けられるよう、変化を促進していくつもりです。

4月1日現在、支部の役員体制は暫定的なものであり、5月16日の支部協議会にて新体制が発足となります。今回の協議会は「ながの支部」として第1回となりますので、記念講演として、長野支部の支部長も歴任された信州大学の高木先生にご講演いただく予定となっております。ご通知がお手元に届いているかと思いますが、ぜひ多くの皆様のご出席をお願いいたします。



(令和元年5月 264号)

■■■■ 支部報告 ■■■■

第一回ながの支部協議会

ながの支部長 土倉 武幸

ながの支部発足第一回の支部協議会が、多くの来賓の皆様ご列席のもと開催。今回は合併後初ということもあり、少々イレギュラーな構成となりました。

まずは旧長野支部の事業報告の後、合併に伴う経過措置ということで、副支部長、幹事の定員制限を一時的に外すという議案を承認。その後支部役員の選出となりました。実は、1月の臨時協議会で決定した支部規約にて、4月1日からの役員構成は決定していたものの、あくまで暫定かつ一部の役員であったため、今回の協議会で実際の役員構成が決定することとなりました。従来改選期であっても、就任までは前任者の任期が継続していたため、スムーズな移行がなされてきたわけですが、今回は一旦リセットに近い状態であったため、まずはブロック長の推薦による支部諮問委員選出。その後第一回の支部諮問会議により新役員が選出されるという少々複雑なステップを経ての選出となりました。引き続き今季の事業計画も承認され、いよいよながの支部の実質的スタート



が切られたということになります。また最後には、今回の合併に尽力された旧須高支部長の松澤三雄様に感謝状を贈呈し閉会となりました。

(令和元年7月 265号)

■■■■ 支部報告 ■■■■

ながの支部発足までの経緯

ながの支部長 土倉 武幸



～単に条件を擦り合わせて合併するということではなく、
新たな時代の理想の支部の形に少しでも近づける～

今回の須高長野の合併につきましては、この基本方針のもと、下記のような経緯で協議を重ねて参りました。

2018年

- 5月29日 須高長野合併協議(第1回) 基本方針 推進組織決定
- 6月12日 須高長野合併協議(第2回) 両支部比較協議
- 7月12日 須高長野合併協議(第3回) 新支部組織体制案協議 名称案協議
- 9月11日 須高長野合併協議(第4回) 新支部規約案ならびに運用規則案協議 名称案協議
- 11月14日 須高長野合併協議(第5回) 支部名決定 支部規約審議 役員人事協議
- 11月27日 須高長野合併協議(第6回) ながの支部規約ならびに運用規則最終案審議
- 12月4日 長野支部幹事会にて合併案・支部規約等承認
- 12月5日 合併覚書 調印
- 12月7日 本会理事会にて合併調印の報告
- 12月～ 新支部役員人事、事業計画、予算案策定着手

2019年

- 1月22日 須高支部臨時協議会にて合併案・支部規約等承認
- 1月23日 長野支部臨時協議会にて合併案・支部規約等承認
- 2月12日 新支部予算案提出
- 4月1日 合併 新支部発足 関係団体挨拶回り
- 5月16日 新支部協議会開催

協議を進める中で、主に下記のような課題が抽出されましたが、慎重な議論の中から最適と思われる解決策を導いて参りました。

- ・須高支部の3会合同事業の扱い→旧須高支部を須高ブロックとして名称を残し、合同事業はブロック事業と位置付けた。
- ・会費や属性の違う賛助会員の扱い→会費口数で特典を区分し、同一の規約の下に並存できるようにした。
- ・支部名は地域振興局の名称にするのが順当だが、今までどおりで新味に欠ける→ひらがな表記「ながの」とした関係各位の知恵の集積により、良い合併ができましたことに感謝いたします。

(令和元年7月 265号)



◆語字「須古宇」には先輩の魂を引き継ぐという意味があります。



(公社)長野県建築士会ながの支部発足

旧須高支部長 松澤 三雄

このたび、元号が改元され、令和元年という大変記念すべき年に長野県建築士会旧長野支部と旧須高支部が合併し、新たに「長野県建築士会ながの支部」として発足いたしました。これにいたる過程において、両支部の役員の皆様には大変熱心に検討していただき、誠にありがとうございました。また、両支部会員の皆様には、各支部の歴史、伝統、組織など変更になってしまう部分があるにもかかわらず、今回の支部合併問題に対し大変温かいご理解、ご協力をいただき心より御礼申し上げます。

このたびの支部合併については、平成27年11月の「建築士フォーラム2015inながの」が、旧長野、旧須高両支部で共同開催されたところより、両支部の間では少しずつ合併にむけた方向に進み始めておりました。また、県建築士会においても組織再編にむけた検討がなされるようになり、「東北信地区組織再編協議会」が発足されたことにより、そのスピードは加速され、両支部ともに、より具体的な検討をすることを確認し、このたびの合併が成立いたしました。今後の支部活動は全県の支部から注目されることになるとと思いますが、土倉支部長を先頭に会員が力を合わせ「長野県建築士会ながの支部」がますます発展することを祈念いたします。

(令和元年7月 265号)

新春交流広場・新年会

■ 支部活動報告 ■

長野支部新春交流広場第一部特別講演 「歴史遺産を活かしたまちづくりと 自治体との連携」他に参加して

第3ブロック長 山口 満

平成30年1月24日(木)午後、長野支部新春交流広場にしました。
第一部 (13:00～14:50) の特別講演は、昨年10月の「まちづくり研修旅行in高岡・富山」で大変お世話になった徳田義弘様(株式会社創建築事務所専務取締役・1級建築士・JIA登録建築家)による「歴史遺産を活かしたまちづくりと自治体との連携」～高岡市、水見市における連携を課題について～というテーマのご講演でした。散居村のご紹介からはじまり(散居村の暮らしも大変興味深い)、小学校の事例(ツングの話をもしろかった)・高岡御車山会館(10月にお話しいただいた御車山の実測と平成の御車山の設計はゴイ活動だと思ひます)・空き家再生活動(近所の方のご飯の差し入れもあり地域と一体となった活動がうです)・水見市での活動(里山杉のお話しや青野倉庫での10月以降のイベントのお話しがありまちづくり研修旅行の体験が更に深まりました)等々、盛りだくさんの内容でした。まちづくり研修旅行の時も感じたのですが、とても熱心に我々の理解を確認しながら細かくどこまで丁寧にお話しくださりとても勉強になります。たくさんの方々と長い時間をかけてまちづくり活動を行われている方だからこそのお話しとお話の仕方が感じました。最後に若い方も積極的に参加されている活動の秘訣みたいなものを質問させていただいたところ、「活動の記録をしっかり残す」「どんな声をかけてくださるの参加を促す」というお答えをいただきました。「活動の記録をしっかり残す」ということの大切さを改めて認識させていただきました。第二部 (15:00～17:00) は賛助会員各社展示会で、「昨年よりご来場された方の滞留時間が長く会場レイアウトなど工夫が活かされて良かった」と支部長からの感想がありました。その後の新年会もご来賓の方々を大勢お招きした大変盛況な会となりおいしいお酒をたくさんいただきました。



基調講演



新年会

■ 委員会報告 ■

新春交流広場2018

賛助特別委員会委員長 飯田 高史

いつも大変お世話になっております。支部の皆さまをはじめ賛助会員各社様のご協力のもと「新春交流広場2018」を滞りなく開催することができました。皆さま本当にありがとうございました。委員長として3回目の新春交流広場でありました。会員の方々へ少しでも多くの情報をお持ち帰りたいと思います。毎年いろいろな案を検討しておりますが、今年は初めての試みとして「スポンサー」を実施させていただきました。スタンプ押印が双方コミュニケーションのきっかけとなり、新しい出会いや繋がりのお機会とすることができました。賛助委員会一同、2018年も引き続き「お役立て」

いただける「業界情報・新商品情報」をお届けさせていただきますので、お声掛けをお待ちしております。今後とも何卒よろしく願ひいたします。



(平成30年3月 257号)

■ 支部活動報告 ■

3年ぶりの新春交流広場2023・新年会

総務情報委員会



令和5年1月25日、10年に一度といわれる大変波の中、3年振りとなる「新春交流広場」と「ながの支部新年会」がホテル信濃路に於いて万全の感症対策を施して開催されました。



新年会に先立ち新春交流広場の第一部として龍内貫氏をお招きし「地域との対話の方法と実践～コミュニティデザインの現場から～」と題し講演頂きました。

大寒波と足元の悪さもあった感染対策としては万全な状態での講演でしたが、講師を迎える立場としては心苦しい限りの状況の中、講師の龍内氏からは限られた人達に話すのであれば、出来るだけ皆さんの聞きたいことを伝えたいとご配慮を頂き、受講者への質問を交えながら、非常に有意義な講演を行って頂きました。

また、第二部の特別賛助会員各社様による展示会では、新商品情報や新たに始まる国の補助金を始める有用な業界情報を「2023年度の最旬トレンド」と題してご用意頂き、我々会員も熱心に耳を傾ける姿が各ブースで見受けられました。



新年会の方は、久しぶりにお会いする、でも見慣れた方々。最近ではモートの便利さを享受していますが、やはりこういう機会も大切だと思う感覚も若い世代とは隔たりのある感覚なのかな？

龍内氏の講演を頭の片隅に思い浮かべつつ、楽しくお酒を酌み交わす時間を過ごしました。

この行事の数日後には新型コロナウイルスの感染法上の位置づけを季節性インフルエンザと同等の「5類」引き下げや訪日外国人観光客数の増加といった、いよいよ本格的にWithコロナの時代へ突入することを感じさせる報道もありましたが、一方ではまだまだ各目的の慎重な行動も求められる中ということもあり、参加する方もそうでなかった方も迷いながら当日を迎えられたのではないのでしょうか。

これまで滞っていた様々な支部行事も今年は本格的に始動すると思われます。会員の皆様、特別賛助会員各社の皆様におかれましても干支と同じく高く跳ねる飛躍の年となることを願っております。



(令和5年3月 287号)

支部協議会

一 支部活動報告 一

平成28年 第66回通常協議会開催の報告

総務委員会 副委員長 西澤 哲

去る平成28年5月17日(木)にホテル信濃路にて通常協議会が開催されました。



開催に先立ち第一部として講演会が催され、信州大学経済学部准教授の武者忠彦先生を講師にお迎えし、「地域再生と建築士の職能」～善光寺門前のリノベーション調査から見えてきたもの～と題してお話をお聞きしました。ご専門が経済学部の人文地理学である事から、建築とは異なる目線からの講演でした。内容は①まちづくりの軸足はフローからストックへ移っている②建築士が担うべきはエリアの価値の向上③善光寺門前の実態と潜在的な可能性等、住宅市場の変化からシェアリング・エコノミーが拡大し共有型経済へ移行していく事や、イタリアのまちづくりをケーススタディとしたエリア価値向上の重要性など、とても分かりやすく楽しい内容でした。第二部では通常協議会が行われ、来賓のご臨席を賜る中、平成27年度の事業報告及び決算報告が行わ

れました。昨年度は須高支部との共同開催であった「建築士フォーラム2015inながの」が開催され、県内から多くの建築士が集まり交流を深めました。更に平成28年度事業計画及び収支予算が承認され、長野びずん祭・全国大会「大分大会」への参加の他に、応急危険度判定・防災対策への協力などの事業も予定されていて、一般社組への貢献を目指した計画となっています。

また、新たな試みとして「支部組織運営研究特別委員会」が発足し、これからの長野支部の方向性を模索することになりました。その他に、新入会員の増加がみられましたが、小山支部長をはじめ三役・ブロック長・委員長へ努力の成果であるとの評価を頂きました。

これからも、積極的な支部活動を通じて建築士の資質の向上、社会への貢献を果たして行くことが出来れば良いと考えます。以上で通常協議会開催の報告とさせていただきます。



(平成28年7月 247号)

■ 支部活動報告 ■

ながの支部 第2回 協議会を終えて

総務情報委員長 宮之内 寛

例年のように、2月より5月に向けた協議会の開催準備が始まりました。事態は、新型コロナウイルス感染拡大により急展開を見せました。例年の2時間開ける講演会と大いに盛上がる懇親会と、中止とした開催となりました。とても言いづらかったですが、予約済みのいつものホテルに縮小の旨、連絡を取るも世間の流れで気持ち良く了解して頂きました。

さて、なるべく委任状と言うことで当日を迎えるわけですが、どの位の方が見えるか皆で心配しました。開けてみれば20名程の少人数での協議会となり、安心もしました。「意を全開」廊下仕切りも全開「長机に一人」全員マスク「見た事の無い景色の中、予定2時間の協議会が始まりました。

進行は「短縮、短縮」で進み、議事1号2号議案が無事承認されたのち収支予算報告がされ、終わって見れば40分程で協議会が終了となりました。世相を漢字一字で表す年末の風物詩が有りますが、5月を終えた今、候補とすれば「密」ではないでしょうか。支部活動が思うようにいかない今、できる事から頑張ってください。



(令和2年7月 271号)

■ 支部活動報告 ■

令和6年支部通常協議会&講演会

須高ブロック 吉澤 まゆみ



講演会

5月21日(木)支部協議会に先駆けて、信州大学工学部建築学科の高村教授による「ゼロカーボン達成に向けた省エネ技術」というテーマの講演をお聴きしました。昨年度、「伝統的構法建築物改修総合実務講習会」でも教授の講義があり、再びお話が聴けると思ひ参加しました。

LCA(ライフサイクルアセスメント)については、原材料の採取から製造、使用及び処分に至るまでを通しての環境側面及び潜在的影響を調査するもので、ゆりかごから墓場までであること。建物の利用運用時だけでなく、建設するときのCo₂排出量も関係していること。建設時の廃棄物調査では、工務店によって廃棄物の種類、量が異なること。廃棄物の量を減らすだけでなく、リサイクル率、質を上げることも重要であること。

省エネ建築の事例として、上田市庁舎を挙げいただきました。既存庁舎をすべて解体するのではなく、地下部分をクール・ヒートレンチ、豪雨時の雨水貯留水槽として有効活用。省Co₂、自然エネルギーの活用、外皮のパッシブデザイン、水冷恒温放射空調システムとアンビエント照明、地中熱利用など、B E L SでのZ E B☆5の評価となりました。



懇親会

他に県内の駐在所、信州大学工学部の断熱改修のお話、信州健康ゼロエネ住宅では住まいが快適になり通院が減少する期待、下水熱利用ヒートポンプ・太陽光発電・蓄電池活用と再生可能エネルギーのお話もいただきました。

その他身近なところからの省エネ対策のお話も聴くことができ、有意義な時間となりました。そのあと、通常協議会が多くの来賓の方にもご参加いただき、例年通り対面開催となりました。また、久しぶりに沢山の先輩方に会うことができました。コロナ禍に翻上りになっていた課題の解決に向けて意見交換の仕組みを作ること、「皆さんが参加したくなる場」をどう増やすかなど、久米支部長の基本方針のもと、新たに令和6年度がスタートしました。

(令和6年7月 295号)

27

信州環境 E C O コンテスト・全国女性建築士連絡協議会

ー 委員会活動報告 ー

「第6回信州環境 E C O コンテスト」報告

青年副委員長 寺澤 彰 訓

第6回をむかえた信州環境 E C O コンテストは、「簡易型トイレ間仕切」を主題に作品の募集をしました。

皆さんご存知かと思いますが、あらためて、信州環境 E C O コンテストについて説明させていただきます。エコロジー（生態学）をコンセプトに、建築士予備軍である建築系の学生に対し、我々の存在を知っていただく事と、この機会を通し、学生と協同した活動へ発展して行くことを期待するプログラムです。第1回目の「県産材を活かしたパストリップ」をかわきりに5回行われてきました。

さて、今回は、10月中旬まで各学校へ、担当者が募集要項を持って説明に伺い、一部の支部は、授業の一環として講師をすることもありました。応募期間は平成26年1月6～20日とし、5校105名の応募がありました。



第一次審査は、1月27日に各支部青年女性委員長が全作品を一同に揃えて審査を行いました。審査基準は、こちらの意図したものを理解しているか？独創性はあるか？等々です。最終的に7作品に絞るの

ですが、皆一同に、甲乙つけ難く、自分の気に入った作品を応援プレゼンをしながら入賞作品の選定を行いました。その結果をもって担当者が各学校へ報告し、プレゼン資料の作成に入っていました。



第二次審査当日は、全作品をロビーに貼り出し、司会の進行によりコンテストを開催しました。皆、一様に緊張された面持ちですが質疑の切り返しもテキパキとこなすプレゼン能力にたけていたと思われます。多少、手間取ったものの採点が終わり、壇上に上がっていただき審査発表です。最優秀賞は、木曾青峰高校のMさん、一般通常は、本棚として使用し、災害時に分解をして棚板を一間仕切にする「トイレになる棚」でした。このあと優秀賞2名が発表され閉幕となりました。時間の都合で、学生のコメントをいただけなかったのが残念でした。

翌日、早朝より、委員会が行われて次回の E C O コンテストのテーマを絞り込みました。次回も良いコンテストとなるよう願います。

(平成26年3月 233号)

ー 委員会活動報告 ー

第8回 信州環境 E C O コンテストへ向けて ～ 建築士を志す学生さん達との交流 ～

青年建築士委員会 丸山 啓一



今年度で8回を迎える信州環境 E C O コンテストへ向けて、長野工業高等専門学校の環境都市工学科で行われた授業に、コーディネーターとして他支部の青年女性委員のみなさまと参加しました。信州環境 E C O コンテストとは、これからの建築士になるだろう学生との交流を主旨としています。過去には、公共建物や防災建物に E C O を取り入れたものをテーマに開催をしています。今回は、県内6校から133名より参加があり、12月12日に開催されるシンポジウムにて2次審査（プレゼンテーション）が行われ最優秀者が決定されます。

今年度のテーマは「おもてなしの家の空間～信州コンパクト住宅 水廻り編～」となっており、学生さん達はそのテーマに沿って信州のおもてなしとは何かを考えてくるよう事前に課題としてあたえられていました。授業の内容は、各自考えてきたものをグループに分かれてワークショップを行い、今後のどのようにプランニングしていくかをまとめるというものでした。

事前に考えてきた内容には、自然や景観に係るものや、信州の文化に係るもの、特産物（リンゴや名水）などが信州のおもてなしとして挙げられました。私たちは、それらをどのように建築に結び付けるかを学生さん達と一緒に楽しく考え、方向性を導くお手伝いを行いました。

現在一次審査が行われ10作品が選考されました。

コンテストでは学生さん達が考え抜いた信州らしいおもてなしの空間が発表されることを楽しみにしています。

今回の交流にあたり、学生さん達にアンケートを行いました。収集結果は以下の通りです。

- ・建築士の方がアドバイスなどして下さって、自分もいろんなアイデアが浮かんできて楽しかった。
- ・自分では、思いつかない案もグループで話しあうことで面白いものができました。
- ・他の人には、真似できない作品にしたい。
- ・自分のすんでいる地域だけでなく、長野全体のことも考えられた。



今後もこのような活動から、建築士会を広く知っていただけるような活動を行っていくとともに、若い世代へも建築士として情報発信をおこなってきたいと考えています。

(平成27年11月 243号)

ー 委員会活動報告 ー

「建築士セッション2015」・ 「丸子修学館高等学校ワークショップ」に参加して

女性委員会委員長 小野里 幸 織

12月12日(日)メルパルク長野にて、長野県内の建築士を志す高校生等を対象に実施する第8回信州環境 E C O コンテストの最終審査とともに、長野県建築士会で実施する社会貢献活動の発表と今年夏、東京「銀座NAGANO」で行った二地域居住者向け住宅プランの発表を行うため「建築士セッション2015」が開催されました。



青年・女性委員会からは、信州環境 E C O コンテストの最終審査に参加してきました。

例年では、2月に行われる青年・女性委員会「集い」もしくはフォーラムの場で二次審査を行っていましたが、開催当初に比べ応募作品も増え、学校側の関心度が上がると共に完成度も大変高くなっていることから、これまで以上に多くの方々にご覧け



る様、今年度より「建築士セッション」に於いて公開プレゼンテーションにより二次審査・最優秀賞・優秀賞等を決定し表彰式を行いました。

発表された学生の皆さんは、とても緊張されたと話していましたが、とても発想力の良い内容だったと思います。最優秀賞に選ばれた佐久平総合技術高等学校3年の宮田さんは、発表内容はもちろんプレゼンも素晴らしいかったです。高校3年生にもなると、こんなに人前で上手に話しか出来るのかと感心させられました。

続いて12月17日(日)には、丸子修学館高等学校にてワークショップを行いました。開催の目的は、・学生との交流・設計(物づくり)の楽しさを体験してもらいたい・建築士に興味をもってもらいたい・地域に目を向けてもらいたい・「E C O」という単語を通していろいろな発想をしてもらいたいということでした。ワークショップを行う中で、建築にあまり興味が無い生徒さんがいらっしゃいましたが、そこを何とか建築の良さを知ってもらいたいと思い、いろいろな話を持ち掛けたのが大変でした。このようなワークショップを行うことで、少しでも多くの生徒さんが、たとえ少しでも建築に興味を持ってくれたら嬉しいと思います。

(平成28年1月 244号)

ー 委員会活動報告 ー

平成28年度 第26回全国女性建築士連絡協議会へ参加しました

女性委員会副委員長 相野 律子

7月22日朝6時。長野駅からサロン付きの貸切バスで出発です。長野、更埴、松本、岡谷、伊那。順調にながー長野県を縦断してゆきます。見知った方も、はじめましての方もいらっしゃいます。おしゃべりに花が咲くうちに昼にはもう奈良。お洒落なビュッフェで美味しい昼食をいただいて、会場の奈良女子大へ。初日は「日本の暮らし」をテーマにした基調講演、パネ



日航H懇親会

ルディスカッションに続き東日本と熊本の被災地の現報告が行われ

ました。重文の奈良女子大学記念館前で記念撮影し、夜にはアルド・ロッソ設計のホテル日航奈良へ会場を移して懇親会です。飲んで食べておしゃべりして奈良県のマスコットキャラクター「せんたくん」に送られて二次会へ。引き続き飲んで食べておしゃべりをして、もういい時間です。私はまっすぐにホテルへ帰りましたが深夜に奈良のラーメンを堪能した強者も。宿泊したホテルは天然温泉の大浴場付きでしたので、二日目の朝はま



せんたくんと記念撮影

人それぞれです。9時からお昼前までは奈良春日野国際フォーラムで分科会。プログラムが終了したら近くのホテルで昼膳を堪能し、法隆寺にお参りして帰路につきます。帰りのバスでもまたまた飲んで食べておしゃべりをして、あーたくさん楽しめました。タイトなスケジュールでも人に会って、直接話して、ネットや本では得られない熱い息吹を感じました。とても充実した二日間、参加の機会を得られて大変よかったです。ありがとうございました。



旧奈良駅



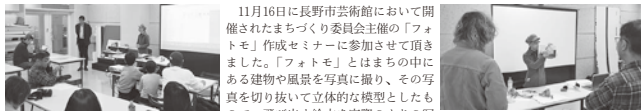
東大寺

(平成28年9月 248号)

見学会・講習会

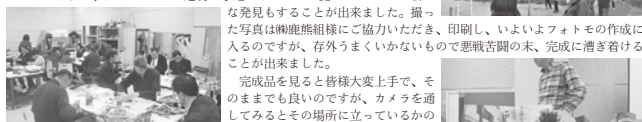
「フォトモ」で簡単！まちの刺激を切り取る 活動報告

株式会社コーケン 清水 拓 郎



真から作るようなものでした。

芸術館に集合後、フォトモの作成方法を、実物を見せながら教えて頂き、その後、緑町方面へ向かい各自思い思いに建物や風景の写真を撮りました。立体的にする構図を考えながら、建物を選び写真を撮ることは思いの外難しかったのですが、「ここにこんな建物・小道があったのか。」などといった新たな発見もすることが出来ました。



撮った写真は御鹿熊組様にご協力いただき、印刷し、いよいよフォトモの作成に入りますが、存外うまくいかないもので悲観苦悶の末、完成に清々着けることが出来ました。

完成品を見ると皆様大上手で、そのままでも良いのですが、カメラを通してみるとその場所に立っているかのような、また違った楽しみもありました。新交流広場でも展示されるという事で、是非ご覧いただければと思います。

講師をして頂いた糸崎先生、主催されたまちづくり委員会山口様はじめ委員の皆様、当日参加された皆様そしてご協力いただきました御鹿熊組様大ありがとうございました。

(令和2年1月 268号)

ブロック活動報告『つきいちアーキ・セミナー』

北部ブロック主催

「令和元年東日本台風被害からの復活」

南部ブロック 丸 山 啓 一

ここ数年、毎年のように大規模な水害が発生し、長野市においても令和元年台風19号によって長沼・穂保地区での千曲川堤防決壊による浸水被害が発生しました。その被災者でもあり、その地域の工務店として活躍されている、当支部の関博之さん（関工務店）の講演が7月21日に長野市生涯学習センターで開催されました。当時、県外で働いていた関さんでしたがこの水害を期に帰郷し、地元のためにこれまでに奮闘されてきた内容についてお聞き出来る機会となりました。

水害発生当初は未曾有の事態にただただ呆然としてしまったようですが、手探りの中でも手掛けたお宅を一新すつまり、床下に溜まった泥や水を含んだ断熱材などを撤去しやすい状態に解体を行ったこと。被災した建物の復旧計画から工事にいたるまでの経緯。浸水深さや建物の形態によって受けられる補助金が変わってしまうことに悲嘆したことや、地元の景観を損なうことのないように設計することの難しさなどをお聞きました。また、避難所での生活についても赤塚様にお話しいただきました。

それから2年が経過しようとする中、ご自宅はまだまだ手つかず状態で日々駆け回っていると聞き、ご家族の支えもあってのことと感じました。

これから地元根ざした工務店として活躍していけることと思います。頑張れ、関さん！！

(令和3年9月 278号)

支部活動報告

支部ホームページ更新のためのワードプレス講座に参加して

南部ブロック 大 島 翔 吾

3月9日にワードプレスを使用した支部ホームページ更新、運用のための講座が開催されました。講座開催の趣旨としては、会員専用ページ開設にあたり、公式ホームページと併せてコンテンツの充実を図っていくため、記事執筆者が自分でページ更新作業ができるようにその説明を行うとのことでした。

まず、土倉支部長様より管理ページへのログイン方法、記事の投稿及び編集方法をご説明頂きました。操作の仕方がわかりやすく、触りやすいというのが率直な感想で、普段からパソコンに触っているひとであれば、直感的に出来ることと感しました。一方で、画像やテキストの大きさ、それらの配置・配列は執筆で作り込むことができるため、作り込もうとする程度のセンス（慣れ？）も必要になると感じました。

私が今回の講座に参加して、また常日頃から考えているのは、発信する情報の選択とその集約（何を伝えて何を伝えないか）についてです。広くSNSが普及し、誰もが手軽に身近に情報にアクセスし、発信することができるようになった昨今、ホームページはそれら情報のプラットフォームとしての役割と機能が求められています。リアルタイムで流れる膨大な情報をどのようにアーカイブし、わかりやすく伝えていくか。私たち建築士だからこそその工夫と創造力を生かせる腕の見せ所であるように思います。

支部ホームページがより一層広く認知され、また、その先の建築士の活動がより身近なものとなるように自分自身もできることから関わっていければと思いました。

(令和5年5月 288号)

新連載 法令コラム『4号特例』全3回

2025年確認申請手続きの変更について（住宅の4号特例の縮小）

建築活動委員会 遠 西 克 哲

第1回 2025年4月1日以降に着工する物件より、これまでのいわゆる「4号建築物」が廃止され、「2階建て以上または延べ面積200㎡超」の木造建築物は「新2号建築物」に該当し、これまで確認申請時に添付不要であった構造関係の図書の提出と省エネ基準への適合が必要になります。構造関係の図書は耐力壁の壁量・バランスの計算、柱頭脚金物（N値計算など）が追加となり、その他の伏図等は構造伏図を添付する方法と、審査項目の対象となる情報を全て記載した仕様書等を作成し添付する方法があります。また、省エネ基準への適合においては「仕様基準」（各部位ごとの断熱性能を判断）か「性能基準」（計算によって建物全体を判断）のどちらかで申請を行います。

第2回予定 構造関係に関する詳細説明 **第3回予定** 省エネ関係に関する詳細説明

(令和6年5月 294号)

委員会活動報告『つきいちアーキ・セミナー』

県産材木活用住宅見学会+モロッコの街と建築紹介

長野支部青年・女性委員会 大日方 紘 子

「つきいちアーキ・セミナー」が4月14日に開催され参加して参りました。このセミナーは各分野でご活躍の建築士の皆様に得意分野を紹介して頂き、建築知識を深め更には会員相互の交流を深める機会として長野支部の企画により開催されました。

記念すべき第1回目は下崎建築設計事務所・明建築設計工房様の長野県産材を活用したアトリエ兼自宅の見学と、JICA青年海外協力隊でモロッコにて活動経験をお持ちの下崎氏によるモロッコの街と建築様式を紹介して頂きました。

建築士の自邸を実際に拝見できる貴重な機会を頂き、お2人が力を注がれた設計の具現化された住空間を体感させて頂く中で、大変刺激を受けると同時に多くの学びを得ました。

又、モロッコの建築様式についてのご紹介も大変興味深いものでした。特徴的だったのは、モロッコの建築様式は外壁に窓が少なく外に対しては閉鎖的ですが、内部はパティオが設けられ開放的で日本の建築様式と対照的な造りになっていることです。特に要素「アイトベン・ハドゥ」は高い城壁に囲まれ赤茶色の日干し煉瓦造りで、幻想的な雰囲気を感じられモロッコの職人技に興味が高まりました。

ややもすると日々の仕事に追われ狭い視野になりがちですが、今回のセミナーを通じて事例を実際に見て触れ、幅広い視野をお持ちの建築士の方のお話を聞き、自己啓発できる場の大切さを改めて実感致しました。

最後に、貴重な機会を頂きました下崎様、池森様に深くお礼申し上げます。



(平成30年5月 258号)

「戸隠神社中社大鳥居建替え工事」見学会

須高ブロック 吉 澤 まゆみ



未だに新型コロナウイルス感染症の脅威は見通せず、各種の会議はオンライン形式で、日常生活も新たな生活様式で...

そんな中、つきいちアーキ・セミナーとして戸隠神社中社の大鳥居建替えが見学できると知り、参加させていただきました。

中社大鳥居は、令和の御代替わりと式年大祭の記念事業として建替えられています。昭和11年以来の84年ぶりの建替えだそうです。

まずは、中社東隣の宝物館で戸隠神社の歴史や伊勢神宮の話などをお聞きしました。「ヘリテージマネージャー養成講座」や、「国の重要伝統的建造物群保存地区」（いわゆる重伝建）のガイドライン作成等何回も戸隠に訪

れていても、伺えるお話は初めてなのが多く、まだまだ修業が足りないなと痛感しました。

その後、大鳥居の現場で宮川氏より説明を受けました。元々、この辺の地域は「南部鳥居」が主流ですが、「明神鳥居」になっている訳。

笠木・島木・貫など横材の元口末口の向き。そこから生まれた「右腕」や「右に出る者はいない」とか「左遷」、舞台の「上手」「下手」など、現在使われている言葉にも関係している。など、豆知識もお聞きできました。会員さんからの答えにくいような質問にも対応して頂きました。間近で2.7mも深い柱脚を覗き込むことが出来たり、解体されて仮置きされている古い鳥居の部材も見ることが出来たり、あっという間の1時間半強でした。

…食いしん坊の私のことですから、せっかく戸隠へ行くのだし、そのまま集合時間に行くだけではもったいないなと思い、少し早めに到着して「戸隠そば」を堪能させて頂きました。そして、お蕎麦を食べると、下で組まれた鳥居がクレーンで吊られる瞬間に遭遇できたのです。作業が少し早めに進んでいたようでした。食いしん坊でも、良い事がありましたね。

企画準備してくださった齊藤ブロック長はじめ、スタッフの方々に感謝いたします。ありがとうございました。



(令和2年11月 273号)

野尻湖ワカサギ釣り

ーブロック活動報告ー

底が見えなくなったボール (野尻湖わかさぎ釣り会) 2009.2.1

T. O

早朝5時起床。友人と8時15分に待ち合わせて車をスタート。外は真っ暗であいにくの雪降り。友人は、時々TVに出る温泉旅館の主人です。無期の釣り好きなのだが、日曜の朝の忙しさに誘って。仕事のほうは大丈夫だったかどうか？

国道18号線を北上。途中セブンイレブンにて昼食。おやつ、飲み物(主にアルコール類)を購入。ゆっくりと買い物をしていたので、集合時間ぎりぎりに船客の「スピナーカー」へ到着。船客20名。そろって原形舟というところだが、いつもは早い船客さん遅れて到着。今年は何かありそう。

本日の釣り場は昇天島様です。貸釣り竿に仕掛けを付け、餌を付けて準備完了です。この時のため、今年は餌付け用と釣れた時の針はすし用に「ピンセット」を用意してきました。いつも針を、指に刺してしまっていたので、非常に「らくちん」です。(最近、老眼になってきて、餌付けは大変です。)

船客さんの合図で釣り開始。早速対応側より「ファーストわかさぎ、釣れた。」の声。私の竿も「びくびく」と動いています。これは釣れたかと「オカリカリ」と声を発し、竿をあげる。なんと、いきなりの3匹の一括釣り。隣からは、「どうしたんだ！昔釣れないの君が」との声。幸先がいいと思っていながら、釣れないタイプの私でも「釣れた」の声。よく見ると、一度に4匹釣れている。「すごい」周りからは、「今年は、おかしきぞ！」それから、竿を下ろすとすぐに当たりが有り釣れました。楽しい。面白い。



(平成21年3月 203号)



「やっぱり今年は実だ！」
去年、支部長から受けた特訓の成果か、わかさぎ釣りの極意がわかったのか(なんて、自画自賛)、どんどん釣れる。なんと今年は、「6匹」も釣れた。夢であった「底が見えなくなったボール」になりました。(2年目にしてやっと) ヤッター 嬉しい！
皆さん、30〜60匹くらい釣っていました。一番の人数で170匹です。前々年はビギナーで10匹、前年は36匹。この調子で行けば、来年は、100匹の大台を据えそうです。「よくばりすぎか、運が良かっただけなのかも」

ここで今回合得願望した「わかさぎ釣りの極意(へば極意、へばウツタ)」を披露します。

- ① 餌を付けて降ろしたら、最初の30〜15秒が勝負です。
- ② 最初の当たりを見逃さず、素早く小さく合わせる。(すぐにかかります)
- ③ 餌は、ハサミで少し切ってやること。(小さくすると、小さいわかさぎしかかかりません。少し大きいが良い)
- ④ とにかく竿を寝かせて、小さな当たりを見逃さないこと。

今回は、たくさん釣れたので良かったです。おみつきになりそうです。

幹事さん、楽しい一日を企画していただきまして、ありがとうございました。

■■■■ 支部活動報告 ■■■■

『目標をもって』 ～野尻湖ワカサギ釣り～

南部ブロック 住岡 雅 将

建築士会が支部のHPに「恒例の野尻湖ワカサギ釣り…」を発見、事務局へ申込の電話をするとなんと一番乗りの申込との事、今回は10匹を目標に参加させて頂きました。野尻湖は例年ですと雪がありますが、今年は暖冬の影響でしょうか雪はありません。

乗船し、ワカサギ釣り開始し周りを見渡すと1人で2本の釣竿を操る方、自作の道具を使っている方、ワインを片手に釣りを楽しむ方いつも思うのですが、建築士会の行事はいつも楽しめます。



そして、あちこちから「釣れた」と歓声があがります。

楽しい事は時間が過ぎるのが早いですね。

あっという間に時間は過ぎ去り15時に、竿頭は150余匹釣られたようです。私は15匹+ヒメマスで目標達成、担当ブロック長の齊藤様、楽しい時間をありがとうございました。

また、ワカサギ釣りは来年も開催予定との事です。今回参加されなかった方は是非参加してみてください。



(令和2年3月 269号)

■■■■ ブロック活動報告 ■■■■

「野尻湖ワカサギ釣り」に参加して

南部ブロック 原 山 泰



久しぶりの野尻湖は2月なのに積雪がほとんどないという珍しい週末、恒例行事「野尻湖ワカサギ釣り」へ今年も参加しました。

昨年の釣果を超えるよう電動リールや簡単にワカサギの針が外れるワカサギフックなどを導入し、気合いを入れた釣行です。

当日は綺麗な青空の下、穏やかな湖面に爽やかな春を感じさせるような山々の風景、最高の天候に集まった約20名の太公望と共に出船です。まずは漁場に到着までに竿・仕掛けの用意ですが、これが大変！針が小さい。餌が小さい。あちこちから「見えない」「指に刺さった」「服を汚った」などと、開始時間を迎える前段階で大騒ぎです。いや、老眼鏡は必須ですね。そんなこんなでも釣りが始まれば、皆さん真剣に釣り竿に向き合っており、「お！引いた」「あれ？掛かっていたのになあ」「ありゃ。逃げたぞ！」とあちこちで笑いの渦です。やはり貸し切り船で無いと我々は無理ですね。さて、肝心の釣果ですが昨年の約1.5倍、30匹ほど釣ることができました。

夕飯は、ワカサギフライに自家製タルタルソースを添えて頂きました。30匹は食べ応えあります。満足・満足。来年も楽しみにしております。



ワカサギフライ
～自家製タルタルソースを添えて

(令和6年3月 293号)

ボウリング大会

ーブロック活動報告ー

恒例のボーリング大会に参加して

3月5日 恒例のブロック主催第22回長野支部ボーリング大会がヤングファラオで盛大に行われました。

参加者は4歳から70歳前後までの老若男女52名の大団円。皆さん思い思いのフォームで真剣かつ楽しそうに交流を深めていました。

試合はブロック対抗団体戦と個人戦があり、それぞれにしのぎを削り合いました？？

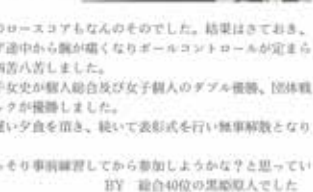
小生 年に一回のボーリングですら、相違わずのスコアもなんのそのでした。結果はさておき、歳には勝てず途中から腕が痛くなりボールコントロールが定まらない状態で四苦八苦しました。

結果 金子史史が個人総合及び女子個人のダブル優勝、団体戦は第2ブロックが優勝しました。

試合後は遅い夕食を頂き、続いて表彰式を行い無事解散となりました。

来年はこっそり事前練習してから参加しようかな？と思っているのです。

BY 総合40位の黒崎聖人でした



(平成22年5月 210号)

■■■■ 支部活動報告 ■■■■

ヤングファラオに思いをよせて

関 敦 子

3月いっぱいまで閉店するヤングファラオでのボーリング大会ということで別れを惜しむ思いも含めて参加しました。ヤングファラオでしかボーリングをしたことが無いのですが改めて見渡してみても「レーンの数もけっこうあるしまだまだ充分使えるように見えるし、もったいないなあ、時代の波とは無常だな」などと少しセンチメンタルになりながら、隣のレーンの男性チームの熱い戦いや、あちこちから聞こえる歓声など、点数が良かった人もそうで無い人もボーリングは子供から大人まで純粋に楽しめる健全でいい娯楽だと再確認しました。

皆さんも最後のヤングファラオをそれぞれの思いでプレイされていたのではないのでしょうか。

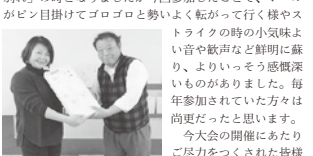


名残惜しいヤングファラオにて

ここ暫く、委員会、士会の行事などにもなかなか参加出来ていなかったのですが、久しぶりに長野支部の方々とも交流出来、以外にいい成績もついてきて、とてもうれしく楽しい一時を過ごしました。

その後、TV等で閉店のニュースが流れ、ついに「お別れ」の時となりましたが今回参加したことで、ボールがピン目掛けてゴロゴロと勢よく転がって行く様やストライクの時の小気味よい音や歓声など鮮明に蘇り、よりいっそう感慨深いものがありました。毎年参加されていた方々は尚更だったと思います。

今大会の開催にあたりご尽力をつくされた皆様にお礼を申し上げます。



女性優勝者 関敦子さん

(平成29年5月 252号)

ーブロック活動報告ー

第27回長野支部ボウリング大会

小野里 幸 織

建築士会長長野支部恒例の第27回ボーリング大会が3月7日(金)にヤングファラオにて開催されました。

18時にフロントに集合、シューズを借りて各自のレーンへ。

同じレーンで投げる仲間と相手の顔色を窺いながらの挨拶。



始球式

18時30分、小山支部長の始球式でゲームが開始！声援を受けながらの投球は賑やかであちこちで歓声上がり、和やかにゲームは進みました。

上手な人もそうでない人

も楽しくプレーできたよう

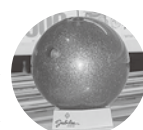
です。

その後場所を移し表彰式が行われました。参加者みんなでテーブルを囲み、お弁当を食べながらの順位発表。

皆がドキドキワクワクする中、順位の発表。発表と共に景品が授与されました。

チーム賞・ブービー賞も景品が授与され、参加者全員には参加賞が渡されました。

私は今回のボーリング大会に初参加でしたが、次回も参加したいと思います。



始球ボール



商 品



男性優勝者



女性優勝者

(平成26年5月 234号)

支部ゴルフ大会

ーブロック活動報告②ー

建築士会長野支部ゴルフコンペによせて

第4ブロック 五十里 隆 行

先般9月21日あいにく小雨の降る中、現尻高原カントリー倶楽部で19名の参加で支部コンペが行われました。

私は初参加でしたがパートナー（山田金満山田さん、田中建設田中さん、増田建築設計増田さん）に恵まれ、また大いにハンデにも恵まれて優勝させていただきました。初参加でもありますので本当は優勝の権利は無いと思いますが、甘えさせていただきました。本当に有難うございます。これを機会にもっと実力をつけハンデに頼らず優勝できるよう練習に励みたいと思っています。これからも宜しくお付き合いのほどお願い申し上げます。

さて私事ではありますが今年の7月に前の会社を定年退職し、前任地の仙台から長野へ帰ってまいりました。そして以前所属していた長野建築士会に再入会させていただきました。私自身は大抵生まれで前の会社に入ってから大坂本社、静岡、長野（松本とあわせて15年間）、仙台、福岡、また仙台と会社生活を過ごしてきました。いよいよ定年をむかえるにあたってどこで暮らすか悩みましたが、四季がはっきりしており、山と温泉にめぐまれ、子供も育てていただいた長野でせむくらしたいと考えてここへ帰ってきました。

現在はいままでとちがいに時間にもやっとうりことができましたので、本当の長野での生活をこれからゆっくりと楽しみたいと思っています。

とはいえ次の仕事として長野に住みつ、"ハウスプラス住宅保証"という会社につとめることになり、住宅の住宅性能保証や来月10月から始める瑕疵担保責任履行法の住宅保険等で、これからも建築の業界でお世話になってまいりますので、いままで以上に御指導・おつきあいの程お願い申し上げます。

(平成20年11月 201号)

ーブロック活動報告ー

・長野支部ゴルフ大会優勝で。・

第3ブロック 松井 昭 夫

9月10日(土) 斑尾高原カントリー倶楽部にて長野支部ゴルフ大会が開催されました。天気は快晴で熱中症になりそうでした。何とか優勝させて頂き有難うございました。優勝候補の方は別に居られたかと思いましたが、馬券も全員が外れ番狂わせでした。優勝すると副賞が「つちおと」への記事掲載用原稿と名誉な事と分かっておりましたので、私ではなく別の人と思っていたのですが、ハンディに恵まれた様です。



参加者の中にはベストスコアの女性の方も居られレベルが高い大会でした。支部ゴルフ大会には過去何度も参加させて頂き親睦を図ってまいりますが、私も還暦を過ぎ体が言うことを聞かなくなっていまいましたが、大先輩の方も参加され、目を見張る素晴らしいゴルフです。もっと精進しないといけないとつくづく思います。これからの数力ながら支部を側面から盛り立てて行きたいと思ひます。最後に更級支部の方、賛助会員の方にもご参加頂き有難うございました。又、幹事の方もご苦労さまでした。

(平成28年11月 249号)

■ ブロック活動報告 ■

ながの支部 ゴルフ大会に参加して

YKK AP株式会社 濱口 隆 浩

幹事様が朝礼で「支部会の皆様の日頃の行いも良く・・・」と安堵の表情で挨拶されていたが、梅雨入り前の晴天でゴルフ日和。賛助会員ではありますが、個人としては初参加させて頂きました。コロナ禍で思うような活動が出来ない情勢の中、当会でのリアル開催は、参加者の皆様と会話できた事、又果敢で運動不足解消の機会も頂き大変喜ばしい事となりました。場内での絶え間ない笑顔の中、グリーンを読む目やピン位置までの距離を正確に把握される姿は日頃の仕事を感ずる事にも出来た。同組で一緒に練習して頂いた方の褒め上手に踊らされ実力以上のスコアが出て、入賞する事が出来ました。コロナ禍での開催は幹事様を中心に苦勞された事と思いますが、運営にも気配り心配りを感じた会となり感謝致します。最後ではありますが会員皆様にお役立ちできる窓メーカーのYKK APを目指してまいりますので今後共々宜しくお願い申し上げます。



(令和4年7月 283号)

ヨット・カヌー・バーベキュー

ーブロック活動報告ー

第4ブロック

ヨット・カヌー・バーベキューat野尻湖2011に参加して

ぐらっふ建築設計事務所 緑川 直 彦

第4ブロック恒例の野尻湖でのカヌー・ヨット体験会に、家族連れで初めて参加してきました。

当日は朝から爽やかに晴れて絶好の日。うちの長と2歳の子供たちはまだ海を生で見たこともないので、野尻湖の大きさにわくわくの様子。

最初に講師の渡辺さんからカヌーの乗り方を教えていただきながら湖面に漕ぎ出しました。体験会に使っているのはカナディアンカヌーというタイプで、主に1枚ブレードのパドル(槳)を使って漕ぐのですが、私が漕ぐと真直ぐに進みません。左側でパドルを使っている時計回りに、右側だとその反対に回って行ってしまいます。少し方向修正の舵を利かせるようなパドルの操作を教わったのですが、なかなか難しいです。

一通り教わってから次に息子と2人で湖面へ。岸

から離れるにつれて、なんだか心許ない感じに…。風もあって思う方向に進んでいかないので、ちょっとドキドキしました。もう少し思う方向に進めるようになると、もっと楽しそうです。

その次はヨット。カヌーでは邪魔だった風もヨットでは味方となりました。風の力で結構なスピードで走るので、エンジン音もなく風や波の音だけというのも格別爽快でした。

岸辺ではバーベキュー。うちのかみさんはビールを片手にリラックス気分がゆったり過ごしております。ちなみに運転手の私はノンアルコールビールでしたが…。

今年は9月10日で例年より少し遅れた開催ですが、暑かった夏の余韻を感じながら水と戯れる楽しい1日でした。来年も家族連れで野尻湖へ来ようと思います。



(平成23年11月 219号)

■ 支部活動報告 ■

ヨット・カヌー・バーベキューat野尻湖2019 (水と親しむ)

須高ブロック 黒岩 靖 志

今年の夏も近年の猛暑並みの暑さが続きました。それでもお盆を過ぎた頃から涼しさを感じられる気温となり、夏のピークも過ぎた9月1日(日)、水と親しむ事を目的にヨット・カヌー・バーベキューat野尻湖2019に初めて参加してきました。当日は曇り時々晴れという好天に恵まれ、非日常の体験を楽しませて頂きました。

活動は今年で16回目を数え、今回の参加者は小学生から高校生までの子ども達と、大人を併せて20余名。野尻公民館の駐車場に集合してから、メイン会場まで乗り合いで移動しました。会場に到着するや持ち込みのカヌーを下した後、先ずはバーベキューの準備から。そして料理の下準備を済ませてカヌー体験へ。

講師の高山氏からの説明を聞く子ども達は一瞬カヌーに。特に怖がる様子もなく風爽と乗り込む姿は経験者としての風格を感じさせました。元気な小学生の女の子グループはカヌーを通り越して筏橋方面に。他に來ていた子ども達も遊び姿を見て、飛び込みを楽しむ姿を見せられました。野尻湖に「泳げる」という事を忘れていた。やはり子どもは遊びのプロなのです。



バーベキューもスペシャルな内容で満足でした。準備の段階から初めて見るドラムコンロの迫力、骨付きリブのコー煮込みはトロトロの食感で美味しい。焼きと煮込みの料理に舌鼓を打ち、これでビールが飲めれば言うこと無しなのですが、それはまたの機会に。お腹も満たされ、カヌーを再開。湖の中央に浮かぶ琵琶島や、子どもだけのカヌーで初めて対岸までの往復という記録も達成。来年は野尻湖一周できるかな。

今年初めての参加という事でしたが何よりも子ども達の笑顔が印象的でした。日頃の業務の中では中々このような笑顔を見られる場面が無いこともあり、今後の社会活動の中に「子ども目線」を取り入れることができれば、新しい活力となるのではないかと思います。今回の活動を企画して頂いた高山様、バーベキューの備品や食材の準備に動いて頂いた相野様御夫妻、土佐支部長、そして参加して頂いた皆様、お疲れさまでした。

(令和元年11月 267号)



参加してくれた小学6年生

今年の目標は丹天島に行く事。毎年一緒に参加する友達と丹天島を目指しました。途中激しい波と、ヨットにぶつかりそうに怖かったが、やっとの思いで丹天島に到着することができて嬉しかった！帰りは思ったよりスムーズに戻る事ができて良かった。今年の目標を達成することができて本当に良かったです。

(令和5年11月 291号)

長野びんずる

ー びんずる踊り事業報告 ー

長野県建築士会連！

去る8月2日長野びんずるに於いて、長野支部としては初めて踊りの連をだしました。

建築士会として地域行事に積極的に参加し、また建築士会の存在を一般の方に知ってもらう機会のひとつとして・・・

建前はさておき、身近で行われるお祭りです。どうせなら、見るだけでなく参加して楽しみたい!!

そんな思いを胸に、皆さんに声掛けをさせて頂いた結果、役員を中心に支部の皆様の多大なるご協力、ご支援によりお祭りに参加することが出来ました。

当日は老若男女23名の参加と人数は少なめでした



が連に参加した4人の子どもの大きな掛け声に助けられ、お祭りの賑やかさに負けない元気な連に仕立てることができました。

今年は初めてということもあり、役員の方を中心とするメンバーとなりましたが、来年以降も長野支部の恒例行事として定着させていきたいと思っておりますので、会員の皆様の参加をお待ちしております。

来年は善光寺御開帳に長野新幹線北陸延伸と長野が盛り上がる年です。暑い夏みんなで盛り上がりましょう!!



(平成26年9月 236号)

その他レクリエーション

秋のレクリエーション「虫倉山」

第4ブロック 中島誠至

ガサッ・ドドドド。全員緊張して振り返る。大きな壁が、歩いてきた道を横切ってゆく。これぞ建築現場。あーという間に谷間の向こうに走り去っていった。一瞬の出来事であった。特に笑顔もどき。急に寝てしまったことを思い出した。

11月12日。本日は建築士のレクリエーションで虫倉山への登山である。総勢9名。天気は前日の心配をよそに晴れ。11月にしてはむしろ暖かいほどである。不動滝コースから登って行く。すでに紅葉の最盛期は過ぎたものの、落ち葉を踏みしめ秋を体感し高度をかせいで行く。1時間はどの急登をこなし、小川村との分岐にでると配車も緩やかになった。カラマツの混じる雑木林を歩くと、木々の間からは戸隠の部族が見える。けっこう高いところまで登ったようだ。

はなとく最後のピークを登ると1,578mの虫倉山の頂上に到着である。長時間足らずで順調に登ってきた。山頂には似つかない大きな双眼鏡の石がある。眺望はというと、あいにくのガスの上昇で北アルプスや戸隠は雲の中。晴れていればさぞや。さほど広くない山頂上。それぞれ持参したビールで乾杯。さあ、これから大宴会というところに南無からひょ

こり登山客。あとから30人の団体が登って参りますとのこと。詳しく伺うと、なやまやま玉置祭からの団体さん。なんでこんな山にと思いながらも、観光客長野にとっては大事なお客さんであり、わざわざこの虫倉山を選んでいただき感謝、感謝。この場をお譲りして早々に頂上を退散したのであります。

20分ほど下った展望のきく車庫で昼食タイム。北アルプスが雲の合間に眺められるが、雪はまだ無いようである。暖かいスープとおむすび。3時間ほどのミニ登山。楽しい時間を過ごせました。運動不足の会員にはちょうど良いプランだったかもしれません。来年はさてどちらへ誘いましょうか。



虫倉山頂上にて

(平成24年1月 220号)

■ 支部報告 ■

幹事会・納涼会

総務情報委員 堀 幸一

飯山高校が初めて甲子園に立った夏の夜、会場となったレストランやま屋上ビアガーデンには背葉の夜空が広がっていました。統合後初めての支部役員による納涼会は、本会来賓の方々、増村支部長をはじめ36名の役員が集まりました。

納涼会の前に行われた幹事会(隔月開催)では定例報告の他に、10月までの行事説明と参加申込み状況の確認をしました。8月「令和元年こう変わる!建築基本法」、9月「リクルール&アイカ工業研修旅行」、10月「峰のフォートワーク」が企画されています。また親睦行事は、野尻湖で開催のヨット・カヌー体験会や川中島C.C.でのゴルフ大会が予定され、大型行事への参加としては、「建築士フォーラム2019in木曽路」と北海道で開催される「全国大会と研修旅行」が控えています。

目白押しとなる行事を前に、正しく英気を養う納涼会となり、更なる会場の増強と魅力ある支部づくりに思いを寄せた時間は賑わいの中、足早に過ぎたのでした。



(令和元年9月 266号)

■ 委員会活動報告 ■

長野びんずる

8/3開催

副連長 緒方 哲生



ここ数年は本当に暑い!!
そんな真夏の夜に長野びんずるに参加しました。

コロナウイルス取束後、ながの支部として連を出したのは5年ぶりでしょうか?

今回は、ただ参加するだけ・・・のつもりが、なぜか副連長とこの寄稿文のおまけまで付いてしまったのですが、準備の段取りから参加者集まで奔走頂いた各委員会の委員長・副委員長さんを始めご協力いただいた皆様ありがとうございます。

内心何人集まるのか心配しておりましたが、老いすく目の老若男女が30人近く集まり、にぎやかで楽しいお祭りになりました。



長野びんずるの日は雨の特異日で、必ずどこかで雨が降るといイメージですが、今年は本当に天気も良く、踊り終わった場所から終了の花火も見え、最後まで楽しむことができました。

二次会は西鶴賀エリアリノベーションの9軒長屋で10月から開店予定の「あお葉」さんにオープンキッチンを仕切って頂き、お祭りの余韻を最後まで楽しませて頂きました。

最後になりますが、今年は副連長というお役を頂きましたが、参加した方の半数以上が初見の方か、どこかで見たことがあるのだけれど・・・という方々でした。今回はお祭りという特別な雰囲気も

あったでしょうが、そんな中でも十分に楽しめますし、交流を広めることも可能です。

ながの支部では様々な行事を開催しています。お祭りもそうですが、外から観ているだけでは気付けないことに触れるチャンスかもしれません。初めての参加に不安に思われている会員の方は、一度勇気をもってながの支部の行事に参加してみませんか?



(令和6年9月 296号)

ー ブロック活動報告 ー

飯縄山登山

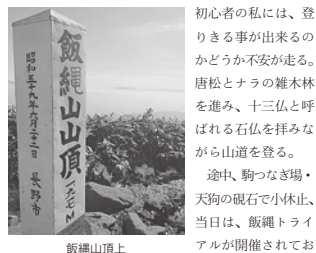
第1ブロック 丹羽正道

飯縄山登山に参加しました。

11月4日、快晴の中、シニア6名が、飯縄山(1,917m)へ登山に行ってきました。

当日は、空気が澄んでいて、戸隠連峰・北信五岳・北アルプス・南アルプス・ハッ岳、遠くは富士山まで見ることができました。

バードライン沿いにある一ノ鳥居駐車場に車を置き、別荘地を過ぎると10分程で、大鳥居が現れ、その後方に飯縄山が望める。その勇壮な姿を見ると、



飯縄山頂上



ランチ

り、山頂から全速力で駆け下りるランナーが山道はラッシュ状態、ランナーに道を譲りながら山頂へ向かう。

山頂は、昨日降った雪がうっすら積もっていたが、風もなく意外に温かい。素晴らしい眺望をつまみに、ワインで乾杯。携帯コンロで、沸かしたお湯でいただいたカップスープも美味し。

おにぎりをほおばりながら登りきった充実感も味わう。

重い脚を引きずりながらの下山は、大変でしたが、心地よい疲労感と達成感で、楽しい1日でした。主催された、増田ブロック長ご苦労さまでした。

(平成25年9月 226号)

■ 委員会活動報告 ■

いにしえ 続・古の戸隠古道散策

特別賛助委員長 山田 数之



小鳥ヶ池

昨年引き続き戸隠古道散策(中社から奥社)を行いました。昨年の参加者が11名でしたので、今年も同じ位かなと思いながら参加者を募ったところ、何と19名の大所帯!感謝感謝です。

戸隠中社西駐車場へ集合して打合せと準備体操の後に、最終目的地の戸隠神社奥社へ向けて出発。

先ずは知ってはいないもの行った事が無い「小鳥ヶ池」「硯石」を経由して「鏡池」まで向かいますが、途中の登り坂で皆さん苦戦していました。まだ登りが続くのへ感じ私を含め日頃の運動不足でしょうか。

鏡池では宮下さんが淹れて来てくれたコーヒーを頂きながら休憩です。

池に写り込む戸隠山を写真に納めました。

ここからは戸隠自然園内を通過するのですが、熊の仕度を通しての無給を晴らしながら今回初めて熊もスプレーも持参してみました。幸い使う事は無く一安心!

このルートは随分門出へ出るのと随分門で一旦入れて奥社へ一気に向かい奥社に到着します。お参りする方、御朱印を頂く方、少々の自由時間を過ごして下山しました。

下山した奥社入口では皆でゴッポリ盛りの戸隠そばを堪能してから路線バスで中社へ到着し、今回の散策は終了です。

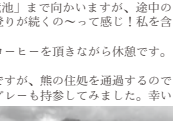
何となく雨の予報もありましたが、皆さんの行ないが良かった為か天候に恵まれ、怪我も無く良い一日でしたが、私としては(ブヲ)10分所程削られて、今は痛くも仕方ありません... 来年またどこかへ行きましょうね!



硯石



鏡池



鏡池(風景)

(令和6年9月 296号)

支部報告



◆題字「須古宇」には先輩の魂を引き継ぐという意味があります。

～須高ブロックの活動～

まちづくり委員 戸松陽子

須坂市で修復された文化財級の建物の利活用と町並みの賑わい創出の目的で、旧小田切家住宅の上店（ギャラリーとして、一般に貸出している）を借りて、4月から（8月除く）11月まで、毎月一週間は「抹茶体験教室」をしています。その活動は今年で3年目となりますが、そもそも須高支部で茶道を習い始めたのはさかのぼること7年前、倉島青年女性委員長を中心に、一年間と期限を切って始めました。その後も年に一度、新年の「初釜」などで親しんで来ましたが、今年は久しぶりで、又1年間の月に一度の稽古をしています。



お茶を点てる常連さん

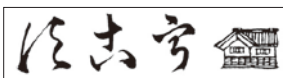
旧小田切家住宅の「抹茶体験教室」は、市報（毎月全戸配布）と須坂新聞で周知されていて、常連の方々も居り、中でも90歳の女性お二人にはこちらが力を頂いています。観光客の方々からも「地元の方とのこのような交流が持て嬉しい」と喜んでいただき、写真も沢山撮られて行かれた事が印象的でした。そして何より、ご近所の商店の方々が応援し

て下さる事が強く、また建築士会へ広く認知される機会となっていると感じています。体験教室は11月まで開催しています。詳しい開催日はながの支部今後の予定（12頁）に記載されていますので、是非、お出かけ下さい。（お茶・お菓子付 一般300円）

（令和元年9月 266号）

委員会活動報告「12月つきいちアーキ・セミナー」

須高ブロック主催



◆題字「須古宇」には先輩の魂を引き継ぐという意味があります。

須坂まちなみ散歩&忘年会

須高ブロック 水越正和



12月7日に須坂市内で開催した「まちなみ散歩」に案内役として参加しました。当日は初冬の寒さと日暮れの早さ、通行車両に気配りしながらの案内でしたが、単なる観光客とは違い、普熱心に耳を傾けてくれました。（感謝）

案内のスタート地点は、東横町の中央交番横ボケットパーク。そこには須坂の「町並み運動の原点」とも言える東山魁夷画伯の揮毫による「馬車よゆっくり走れ！」の石碑が建立されています。昭和61年11月から始まった須坂の町並み運動は、製糸業で繁栄した当時の商家が連なる町並みを生かした町づくりを目指し、200名ほどの市民が集まって始まりました。その会設立10周年記念として建立したのがこの石碑になります。

次の目的地は須坂クラシック美術館。そこは一時、都市計画道路用地として壊されそうになった商家で、都市計画道路は迂回させ、美術館としてその内部を公開している施設です。その後、観光交流センター、まゆくら、芸術会館、芝宮、旧小田切家住宅と巡り、最後は旧越家住宅へ。時間内にもかかわらず藤寿三郎の偉業を説明していただいた。

本セミナーで、須坂の文化、職人技、偉人の功績に触れることが出来、機会があったら、続きの町並み散歩を企画してもらいたいとの意見も聞かれた。本セミナーの慰労会を兼ねた統合後初めての忘年会は、須坂迎賓館で開催された。萩原会長、江口常務理事はじめ多くの参加者が集まり、盛大な中にも終始和やかに開催された。当日ばかりは土田関係者で町も賑わっていた模様。

（令和2年1月 268号）

ブロック活動報告



◆題字「須古宇」には先輩の魂を引き継ぐという意味があります。

須高三会合同新年会のご報告

須高ブロック 和田敬宏

須坂市役所まちづくり課に勤務しております須高ブロックの和田敬宏です。日頃より建築士会の皆様には、須坂市の建築・まちづくり行政に多大なご指導とご協力をいただきまして、この場をお借りして御礼を申し上げます。

毎年恒例の須高三会合同新年会が1月21日（須坂迎賓館）を開催として、来賓各位をお招きし会員・賛助会員総勢40名程が集まり盛大に開催しました。

ちょうど連日相席させていただいた、お世話になりっぱなしの佐藤須高ブロック長様より今日の反省会を書くようにご指示をいただきましたので、新年会報告と私個人の反省を書かせていただきます。



まずは合同講習会で長野建設事務所建築課の課長様より「建築基準法の改正等について」、須坂市まちづくり課の勝山課長より「須坂長野東インターチェンジ周辺地区開発計画の取り組み状況等について」と「須坂市須坂地区伝統的建造物群保存地区について」の講義をしていただきました。建築基準法の改正では、講師より「既に皆さんご存じのとおり」という言葉に、全くご存じでない自分が恥ずかしくなりましたが、私より一回りも二回りも年上の偉大な先輩方が資料を熟読されている姿勢を見せ、40代半ばの赤ちゃんみたいな自分に「甘たれてはいけないぞ」と教えられたよう反省をしました。



新年会では来賓各位より御挨拶をいただきましたが、特に昨年、長野県にも甚大な被害をもたらした台風第19号災害のような、地球温暖化の異常気象による大規模災害が、今後はいつどこで発生してもおかしいということで、日頃からの備えと災害時に建築士の果たす役割を教えていただきました。歴史と伝統ある須高三会をこれまで支えてくれた諸先輩と役員の皆様に感謝し、これからは自分の生活態度を改め、晩酌の量を減らし、資質向上に努めなければならないと考えさせられた合同新年会でした。懇親会はとても楽しい飲み会ですので、私のように初めて参加（大きな反省）される方でも心配はありません。三会活動活性化のためにも来年も大勢の皆様のご参加をお願いいたしまして報告とさせていただきます。

（令和2年3月 269号）

コラム

賛助会員の裏講座【玄間を覗える】

信州の家の玄間は反り易い？

寒い冬の朝、「外に出掛けようとしたら、鍵が掛けられない!!」というクレームの電話を受けたことはありませんか？

そんな時考えられる原因の一つとして「玄間ドアの反り」が考えられます。



図1

信州は寒冷地の為、断熱タイプの玄間ドアがほぼ標準となっています。断熱ドアは室内外の熱を伝えにくい構造（図1）としてあるため、直接、日差しが当たるなど室内外の温度差によってはドアの本体に反りが発生する場合があります。冬の朝、玄間の室内側は冷えているのに外側は日射を受けて温度が高くなると、外側の熱膨張が大きくなって室内側に曲がるような感じになります（図2）。



図2

この反りは、一時的な現象で日差しの角度が変わるなど、内外の温度差が小さくなるとともに解消します。また、ストライク（鍵の受け金具）の位置を調整することによって、解消する場合もありますので、調整を試みても良いでしょう。

建築計画の段階でドアの設置場所やひさし、軒など日射遮蔽を配慮することによって発生を防ぐことは可能です（立地条件などによって防りの量は一定ではありません）。新築の設計の際に、このこと多少しも思い出して頂けると幸いです。

最後に玄間上の軒の重要性を再認識した事例を一つ。

根羽村（長野県の最南端の村です）の、ランマ付玄間ドアが付いているお宅での出来事です。この御施主様は一人暮らしの為、朝の出社時と夜の帰宅時しかドアを開けません。ある寒い冬の夜、帰宅して玄間の鍵を解錠しようとしたら、鍵が回らず、その夜は自宅に入れずに隣の家に泊まったそうです。

原因を調べてみると、ランマに積もった雪が目中、少しずつ溜り出し、その水が伝って鍵の部分に侵入。日が沈むと急激に寒くなる地域の為（氷点下は当たり前だそうです）。鍵のところに溜まった水が凍結し、鍵が解錠出来なかった為でした。

こんな事例の際も軒があれば、ランマに雪が溜まることを防げた可能性がありますので、玄間と軒は意外と大なる関係なのかも知れませんね。

（賛助会員M. T）

（平成24年9月 224号）

コラム

賛助会員の裏講座

日本最初のシャッター

わが国最初のシャッターが、いつどこで、誰によって設計され、施工されたかはっきりとした記録はありません。

数少ない資料から判断すると、明治29年2月に完成した日本銀行本店のものが日本で最初に取り付けられたシャッターであることは確かようです。

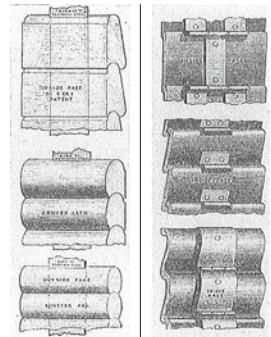
数次の改修によって、このシャッターの実物は現存していませんが、設計に当たった辰野金吾の伝記には次のように記してあります。

のもあり。されど今日に於いては之を敢て珍しとせず、尋常一様のものとして、広く一般に用ひられ、博士の当時の苦心を知るもの少なきように思う故に、其実物2・3を紹介してみたい。曰く石造の全館、曰く建坪約1千坪地中階三階造の大建築、曰く鉄枠鉄降子の出入口、曰く全館貫通防火鉄戸の設備、曰く鉄骨銅板張の軒蛇腹、及軒上扶欄、曰く防火的通風鉄鉄物、曰く金庫室の構造、曰く白色葉掛煉瓦、曰く甲、曰く乙と其の前例なき許多の範を遺されたるは吾人の深謝せざるところである。

（工学博士・辰野金吾伝 大正15年刊）

日本銀行本店建築は、博士（辰野金吾）の率先輸入せる新建築材料あり特に始めて採用せる欧米種種の構造あり、又構造には、博士の創意に成りたるも

いま（大正末期）は何気なく使っている建築材料は多いがそれは建築界の先輩である辰野博士など諸先輩の努力や苦心の結果であると書かれています。



クラーク・バーネット社の木片張り合せシャッターと鋼製シャッター

この中で触れられている畳込式防火鉄戸がイギリスのクラークバーネット社の鋼製シャッターであったことは確かようです。

その畳込防火鉄戸が洋式建築の泰斗といわれる辰野金吾によって其の前例なく許多の建築材料のひとつとして採用されてわが国初のシャッターが日本銀行本店に取り付けられたました。

（三和シャッター工業株式会社 T. M）
【シャッター100年の歩み資料より】



（平成26年9月 236号）

表紙・編集後記

平成23年 1月 1日 つちおと 第214号 (I)



第214号

社団法人 長野県建築士会長野支部
長野市緑町一丁目 長野県建築士会センター長野中央事務所内 TEL 225-9980
http://kenchikushikai.info/



2011 謹賀新年



御祭神・・天手力雄命

戸隠神社奥社

随神門




随神門

奥社

(平成23年 1月 214号)

編集後記

2009年は大変な幕開けとなりました。100年に一度といわれる経済危機、アメリカ初の黒人大統領の誕生などきつと歴史に残る一年になることでしょう。

オバマ大統領の言葉ではありませんが、私たちが好む好まざるを問わず「CHANGE」しなければならぬようです。新年に向けて、変えるべきものとそうでないものを見極めていきたいと思っています。

最後に、「つちおと」の編集に大変お世話になった事務局の中村たか子さんが退職されます。長い間ありがとうございました。(S. M.)

(平成21年 3月 203号)

編集後記

もうすぐ東日本大震災から2年を迎えようとしている。将来に向けて、さまざまなエネルギー対策・政策が議論になっている。

省エネ・節電、そして、再生エネルギーなど既存エネルギーをサポートし、不足分を補充しようとしている。

エネルギーだけでなく、復興も含めた地域の経済モデルとして、環境配慮型都市（スマートシティ）の実現にも今後、ますますその整備が期待されている。

震災という大きな試練の中、ある意味「復興」という作業を事業にする正にエネルギーとなって、新たなまちづくりがなされている。そこには具体的な目的と東北らしいとか辛抱強さがあるようだ。(K・K)

(平成25年 3月 227号)

編集後記

自分の飲ん兵衛をおやじのせいにする私は、ガキの頃よくおやじのウイスキーをくすねて味わっていたせいかお楽しみの晩酌は、ウイスキーをいただくことが多い。(もちろん安いもの) そんな私に最近ささやかなお楽しみが増えた。

それはNHK連続テレビ小説「マッサン」である。

ニッカウスキー創業者、竹鶴政孝とその英国人妻リタがモデルになっているドラマ。

連ドラ予約でパッチリ録画している。ある休日、昼食をとりながら録画しておいたマッサンを見ていたら、妻エリーの健気さにくっつきでサンドウィッチを喰ってつまらせながら囁き話していた。

急に涙をポロポロ流しながら見ていた私と一緒に見ていた中2の長女は、「えっ？お父さん...。」とドン引きしながら「大丈夫？」とやさしく声をかけてくれた。【お父さんの日記より】(M. J.)

(平成26年11月 237号)

編集後記

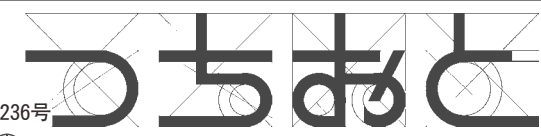
大工がよく使う言葉に、「細工」という言葉がある。ここでいう細工とは、広く使われている細かな作業という意味ではなく、細かな工夫を企てるといった「仕掛け」的な意味合いが強い。例えば、構架材と柱の仕口。柱の込込穴は、構架材のそれよりも胴付きからの距離を気持短くする。この「気持ち」をあえて数値化するなら、胴付きからの距離は構架材30mmに対し、柱は28.5mm程度。こういう細工によって仕口の胴付きは引き寄せられ、より美しく組み上がる。建築の中にはこのような見えない細工、仕掛けがあつて当然だ。

建築士会に限らず、会員離れに苦しむ団体は少なくない。そういった団体の活動に細工はあるだろうか。会費が上がるから脱会する。魅力がないから入会しない。十二分ほどに見えている結論を合言葉に、同じことを繰り返してはいないだろうか。

昨年の信州木造塾では、本会員より高い受講料にもかかわらず、塾生の25%が非会員の建築士によって構成された。学びたい・活かしたい・拡げたいという需要がそこにはあるからだ。このような事実を活かさない手はない。限られた予算の中で魅力のある団体にするには、事業内容の見直しが必要。浅薄な持論ではあるが、委員会を最小限とし、分科会づくり等を進めることが細工として相応しいのではないだろうか。(K・H)

(平成28年 3月 245号)

平成26年 9月 1日 つちおと 第236号 (I)



第236号

一般社団法人 長野県建築士会長野支部
長野市緑町一丁目 長野県建築士会センター長野中央事務所内 TEL 225-9980
http://kenchikushikai.info/ TEL 225-9981




万物を育成してくれる太陽の恵みに感謝している作者は、その切なる思いをこの少女に託しています。太陽の恵みを体一杯に受けて、空の一角に明るく目をあけており、両手を前に伸ばして握っているコブシには強い意志を感じます。束ねて左右に垂らした髪にも生氣と共にあどけなさが漂っている輝くような清純のある作品となっています。

【長野市野外彫刻展 30周年記念誌より抜粋】




平成 2年 第18回長野市野外彫刻賞

『明るい眸』

桑原 巨守/作
JR三才駅前広場

平成26年 8月18日撮影

●野外彫刻のお問い合わせ
長野市教育委員会文化芸術推進課
〒380-8612 長野市大字観音町1613番地 TEL 026-224-7504

(平成26年 9月 236号)

編集後記

昨年の水害は千曲川沿いの地域でいたるところに被害をもたらしました。建築士会の方で被災された方もたくさんいらっしゃると思います。謹んでお見舞い申し上げます。私の地域も8時ごろ避難勧告を受けて初めて避難いたしました。幸い被災しませんでした。指定の避難場所の中学校には10時に行ったのにまだ準備中でブルーシートを敷いている最中でした。又駐車場から避難所体育館までの道路は照明がなく懐中電灯で行かなければならず中に入ると高窓の開閉装置が壊れていて雨と風が吹き込んで一部使用できない状態でした。

行政と学校は避難所になっていることをどこまで意識していたのでしょうか。マニュアルはできていたのでしょうか。被害がなかったところでもこんな状態でしたので被災地は大変だったと思います。

異常気象が続くか今年は災害が無いように祈ります。(K. W)

(令和2年 1月 268号)

編集後記

新型コロナウイルス感染症の感染者数が長野県・全国でまた増えてきている。5日全国の3都府県で「まん延防止等重点措置」が適用された。昨年からずっとZOOMの会議で直接お会い出来ていない。4月の三役会・幹事会はリアル会議が出来るのかと楽しみにしていましたが、リモート会議になってしまいました。・・・暗い話題の中に明るい話題です。おとし2月に白血病と診断され入院生活を10か月して競技から離れていた池江璃花子さんが100メートルバタフライで優勝し、東京オリンピックのメドレーリレーに内定しました。インタビューに「つらくてもしんどくても、努力は必ず報われると感じた」と答える20歳に感動しました。(H・N)

(令和3年 5月 276号)

編集後記

最近、巷で話題になっているChatGPTなる難進技術。『A I』を題材にして建築士会の編集後記を手短かに書いてもらった。

『A I』は建築業界でも重要な存在であり、建築士会の会報誌においてもA Iの活用方法や限界、展望について取り上げ、読者の知識レベルの向上に貢献することが目的です。建築士の感性や経験がA Iには補えない部分があることも忘れずに、A Iと建築士の協働関係を深め、より質の高い建築物を生み出すことができるよう、編集部一同取り組んでいきます。とのこと。

原稿として優等生ではあることは皆の目に明白だが、この行為自体を是非に問う日本がある。まさしく現代の黒船なのかもしれない。時代が移り変わっても「ペンは船をも沈める」その気持だけは手放したくないものだ。(K・H)

編集後記

すっかり春めいてきましたが、花見の時期をまた逃してしまいました。いつも気がつくとき花が散ってしまっています。

少しは桜を眺めて、ゆっくりとした時間を過ごしたいところです。

年々、温暖化が一段と進み、夏場の仕事は出来るだけ避けたいのですが、そうもいかないところですね・・・私の仕事柄、冬場の仕事を手薄にするのですが、夏の暑い時に長期休暇を取り、冬場に300以上仕事が増えたら有難いと感じています。今年の夏も暑いだろうなぁ〜と今から思いますが、とりあえず今ある仕事をこなす事に専念しないと・・・(O. S)

(令和5年 5月 288号)

(令和6年 5月 294号)

編集後記

今年令和7年は昭和100年という星霜を経て、我が歴史ある建築士会報「つちおと」は次号で記念すべき300号を迎えます。嬉しく思います。

その遠く今にあれば...

高速道路、新幹線開通そして冬季オリンピックの開催など華々しく、その内容を「つちおと」の表紙原稿に掲載したことが懐かしく思われる。また名残多き建築士会長野全国大会がエムウェーブ開催され、連合会会長の宮本忠長氏のもと、未来に向けたさまざまな想いや期待など熱く語られたことが鮮明に記憶に残っている。会員皆それぞれの居場所や自分の可能性など広く探られたことでしょう。いい体験でした。

昨今の支部においては、支部の統合など時代の変化のなかで「つちおと」のネット配信にシフトを始め、支部運営の新たな改善がなされ、一部の目標は達成されたようです。

現実と理想との隔りのなかで、多様な案件や課題に新たな視点の対応が今後の具体的な活動に期待されています。会員皆のさらなる本気と一致団結を、今言うアクティビティで士会支部の発展と展開を、時として自分ごとと自分のものとして共に連れ立って大いに盛り上げていきましょう。(川村 和廣)



(令和7年 3月 299号)

長野県建築文化賞受賞作品写真



住宅部門
最優秀賞(知事賞)



霊仙寺の家

設計者：広瀬 毅
所在地：上水内郡飯綱町川上
構造：木造 地上2階



住宅部門
最優秀賞(知事賞)



善光寺平を望む家

設計者：伊東 亮一
所在地：長野市上松
構造：鉄筋コンクリート造
(一部鉄骨造) 地上2階



住宅部門
奨励賞



小船山の家

設計者：
緑川 直彦・淳子
所在地：
千曲市大字小船山
構造：
木造 地上2階



長野県建築文化賞受賞作品写真



一般部門
優秀賞



朝日村新庁舎

設計者：松橋 寿明
所在地：東筑摩郡朝日村古見
構造：木造 地上2階



一般部門
奨励賞



軽井沢発地市庭

設計者：久米 勇一
所在地：北佐久郡軽井沢町発地
構造：木造（一部鉄筋コンクリート造）地上1階



一般部門
奨励賞



上田中之条ツインウッドプロジェクト

設計者：関 邦則
所在地：上田市中之条
構造：（店舗）木造大断面集成材工法
（住宅）木造在来工法 地上2階



長野県建築文化賞受賞作品写真



住宅部門
奨励賞



いなか暮らしの家

設計者：下崎 明久
所在地：須坂市村山
構造：木造 地上2階



住宅部門
奨励賞・新人賞



上野の家

設計者：田中 圭
所在地：長野市上野
構造：木造 地上2階



住宅部門
奨励賞



姨捨の家

設計者：伊東 亮一
所在地：千曲市八幡
構造：木造 地上2階



長野県建築文化賞受賞作品写真



既存ストック活用部門
最優秀賞(県知事賞)

設計者：松橋 寿明
所在地：南佐久郡佐久穂町穂積
構造：木造 地上2階



奥村土牛記念美術館耐震改修工事



省エネ賞
一般部門

設計者：関 邦則
所在地：長野市鶴賀緑町
構造：鉄骨造 地上3階



広場と向き合う事務所－相馬商事(株)長野本社



シラネアオイ



多雪地の山地の林縁で見られ花期は6月。花色は薄紫色。大型の花で花弁に見えるのは萼片。＜絶滅危惧Ⅱ類＞危惧要因としては森林伐採や踏みつけによる。

東海道五十三次の内

大津宿～京師（京都）まで歩く

「瀬田の唐橋」を渡った所にあるJR唐橋前駅の駐車場が前回のゴール地点である。

今日2018年12月15日はここがスタート地点になる。ここでウォークリーダー（随行案内者）に、今日の名所旧跡、歩く時の注意事項等を聞き、準備運動をして出発する。今回のウォークリーダーは1号車村上さん（男性）2号車横田さん（男性）トラビスジャパン(株)の添乗員さんは1号車松橋さん、2号車石原さん。参加者1号車（東北信、中信の半分の方）32名。2号車（中信の半分の方と南信、山梨方面の方）32名の計64名である。今回2泊3日の工程であるが、2日目に最終地の京師（京都）に着き、全496km完歩して東海道五十三次ウォークが終了する。3日目は京都市内の神社仏閣を参拝する。

JR唐橋前駅から、東海道五十三次では関係無い逆方向の京阪石山寺駅方面まで歩き、近くにある「西国十三番石山寺」を参拝する。敷地が広い寺院で、本堂、毘沙門堂、権現社本殿、大黒天等建物がたくさんある。山の裾から山の中腹まである寺を巡るが、敷地が広いのと建物の数が多いので巡るに時間がかかる。岩の上に建物があったり、谷にあたり色々な所にある立派な寺院だ。数あるお寺をここに造ったものだと感じる。

JR唐橋前駅に戻る途中岸辺を通ると、京都大学ボート部ボートセンターの建物を見て通る。かの有名な京都大学ボート部だ。この場所から「琵琶湖周航の歌」が流れたんだと思う。ボートがたくさん置いてある周辺を見ると、若者が練習していて活気あふれる場所だ。ここに立つと遠くまで岸辺が良く見え、琵琶湖の景色は素晴らしく綺麗。



西国十三番 石山寺



京都大学 ボートセンター横を歩く



綺麗な琵琶湖の岸辺を歩く

YUME追い人

JR唐橋前駅から松が残る「松林跡」「若宮八幡宮」「篠津神社」「膳所神社」を通り、膳所城跡でトイレタイム。大津市観光課で立てた「城下町膳所案内図」を見る。案内図はこの城下町の都市計画を示しており、当時の城主の意気込みを感じる。

「和田神社」「石坐神社」を通り、木曾義仲を祀っている義仲寺へ着く。

ウォークリーダー（随行案内者）の説明を聞く

『義仲寺は、昔琵琶湖に面した景勝の地の「栗津ヶ原」に、朝日



木曾義仲を祀った義仲寺

ある所で、ここで木曾義仲が討ち死にし、側室の巴御前がこの地に草庵を結び、義仲を供養したと言われており、「巴寺」ともいわれました。

治承四年（1180年）信濃で平氏討伐の挙兵をし、寿永二年（1183年）5月、北陸路で平氏の大軍を打ち破り、7月京都に入ったのですが、翌三年1月鎌倉の源頼朝の命を受けて都に上って来た源範頼、義経の軍と戦い、この栗津ヶ原で討ち死にされました』

堀で囲まれた中に入ると庭園や義仲公の墓、朝日堂、芭蕉翁の墓、翁堂、栗津文庫、資料館、巴塚、木曾八社、巴地藏堂等がある。我々信州人は木曾に愛着があり、そこに住み、平家追討に活躍した木曾義仲にも親しみを持っている。

義仲寺から大津駅前の駐車場に行き、今日はここがゴールになる。本日の歩いた距離は9.7kmである。

夕食は淡味の膳処「洗心寮」で戴き、ホテルは「テトラ大津、京都」で泊まる。

2018年12月16日(土)。朝食は6時30分から始まり、出発時間は8時50分である。昨日ゴールした大津駅前の駐車場まで大型バス2台で行き、準備運動、本日の名所旧跡の説明、歩く時の注意、トイレの場所等をウォークリーダー（随行案内者）より聞く。本日のウォークリーダー（随行案内者）は昨日と同じ1号車村上さん、2号車横田さんで、トラビスジャパン(株)添乗員さんも昨日と同じ1号車松橋さん、2号車石原さんである。

大津宿の中程でウォークリーダー（随行案内者）の説

明を聞く

『大津宿は町並み東西16町51間、南北36町19間で南北に長く、家数3,650軒（内 本陣 2 軒、脇本陣 1 軒、旅籠71軒）あり、人口は女性7,586人、男性7,306人、女性が圧倒的に多い街で、合計14,892人でした。「高札場」であった事を示す「札の辻」の標柱が立っています。「札ノ辻」は敦賀へと続く西近江路（北国海道）との分岐点でもあります。大津宿は京都に上る際に最後の宿場となりますので大きな宿場であった事が分かっております。国道沿いの歩道を歩きますが、逢坂峠に向かい登坂になります。

途中「蟬丸神社」下社があり、蓮如上人に関係ある安養寺、蟬丸神社上社となっております。「蟬丸」は琵琶の名手で歌人でもありました。

逢坂の常夜燈は大きな常夜燈です。逢坂山関跡には「逢坂山関跡」と彫った石碑が立っています。「鈴鹿関」「不破関」と並び古代の「三関所」と言われていまして、ここは東国へ行く唯一の大きな街道でした。逢坂山は以前急な峠でしたが、江戸末期と、昭和初期の2回の工事で10m程掘り下げられましたので、今では急な坂道ではありません』

京都に向かって右側にある蟬丸神社分社は山の途中にあり、道路より神社へ上る石製階段が長く、峠が下って、階段の段数が増えたので途中から階段を下へ足してある事が良くわかる。峠越えが楽になったとはいえ、我々が歩くには長いきつい道だ。ここへ来る前の「蟬丸神社下社」では、本殿屋根の漏水で、檜皮葺きの屋根と建物本体の一部がボロボロになっているのを見る。こんな姿になる前に修理は出来なかったのか疑問に思う。重要文化財に指定されている建物がここまで壊れるとみじめだ。



蟬丸神社 分社



本殿屋根にブルーシートが掛かっている「蟬丸神社下社」

峠へ行く途中にある「閑栖寺」に入る。逢坂峠を登る荷馬車が横に滑らない様に、花崗岩に輪立の溝を掘って敷いた「車石」の一部が残されていた。京へ上る前の「日ノ岡峠」でも「車石」が敷かれていたという。この「車石」は当時の京都の篤志家が一人で寄付したと聞く。長い勾配のきつい道中に「車石」があ



閑栖寺入り口

れば、牛馬は荷車を曳けば良いだけなので大分助かると思う。「ボランティアガイド」の方に「車石」について説明していただく。当時、その日の午前と午後で、又時間によって登りと下りに分けて通ったとの事で、「車石」は京都の物流の要として威力を発揮したものだと言う。

閑栖寺に来る途中の、広い道路脇にも「車石」と大きな石製荷車が展示されていた。



閑栖寺内に展示されている「車石」

大津市から京都市に入る所に追分の道標がある。右へ行くと東海道を京都に着き、左の道に行くと大阪に行く奈良街道である。「みきハ京みち」「ひたりハふしミみち」と大きな石柱が立っている。

京都市山科区に入り、「三井寺観音道」の大きな道標に出る。その横を通ると「南禅寺」に着く。三門、法堂を見て国宝の大方丈、疎水が通るレンガ積みの水路閣を見る。「大人の修学旅行」の気分。

栗田神社の鳥居、青蓮院の横を通り、知恩院に出る。知恩院の三門、御影堂は国宝に指定されている。三条大橋はもう近いとウォークリーダーが言う。

坂本龍馬の結婚式場跡を横に見て三条大橋に向かって進むと高山彦九郎の銅像がある。台座の上で京都御所に向かって正座をしている銅像だ。

鴨川の流に架かっている三条大橋は、天正十八年（1590年）豊臣秀吉が改修した時の擬宝珠が残り、木造欄干と共に擬宝珠は何百年もたっている。そんな説明も耳に入らず、足が前に進まないが、ようやく三条大橋に着く。

三条大橋を渡ると妻だけ知っているはずが、橋のもとに京都に住んでいる長女と孫二人が来ていた。記念写真に孫二人は完歩しないのに写っている。（皆様ごめんなさい）三条大橋の川原に下りると、ウォークリーダー（随行案内者「旅人企画」）とトラビスジャパン(株)の方が、「おめでとうございます 東海道



右東海道、左奈良街道の「追分」



南禅寺山門に着く



京都三条大橋を渡る、左下の河原では先に着いた人が待っている

五十三次ウォーク 完歩」と書いた大きな「横断幕」を掲げて待っている。その下を通りゴールする。皆「やった、やった」「万歳」「おめでとう」と言い合って握手する者、ハグする者、様々。

＝ついに東海道五十三次を完歩した＝



東海道五十三次ウォークのゴール

完歩した夜、京都市内のアーバンホテル京都で、完歩の「記念パーティー」が行われ、「おめでとう」と日本酒やビール、ワイン、ウーロン茶で乾杯する。

アルコールがまわって皆の顔がピンク色になった宴たけなわの頃、完歩した人に「完歩証明書」が一人ずつ参加者の前で渡され、拍手喝采になり、盛り上がる。酒が入って上機嫌になり美酒に酔いしれ、時間を忘れ、旅の昔話に花が咲いた。



完歩証明書受与式

3日目の12月17日(日)はホテルから出て、京都観光メッセにて観光案内講習をうけ、京都検定一級ガイドによる案内で、江戸時代の旅人が江戸から京都に来て参拝したと思われる京都御苑、清水寺、他等をゆっくり参拝し、長旅の疲れを癒す。



京都御苑にて長旅の疲れを癒す

15時に大型バスに乗り、長野県や山梨県の各所で参加者が降りる時「来年の慰労会にまたお会いしましょう!」の「約束」でお別れする。

東海道五十三次を完歩したその後、希望者は京都山科の追分から南へ下り、淀川に沿って大阪城まで歩き、「東海道五十七次」を完歩する。「達成感」の言葉が当てはまる。

「大阪あべのハルカス300」の展望台に上り、当時日本一高いビルの上から大阪ダウンタウンを見る。高さも高いが値段も高いコーヒーとケーキを展望台で美味しくいただく。

「完歩」の帰りは、皆様がバスで下りる時の別れが名残惜しい。

東海道は平安時代以来、京都と東国を結ぶ幹線道路として物資の運搬、人の移動に利用されてきた。江戸時代には五街道の一つとして、京都と江戸を結ぶ国内第一の幹線として行き交う旅人で賑わっており、徳川幕府により126里6町11間(約496km)にわたる街道筋の現況調査並びに道中図と呼ばれる一連の絵図等も作られ、大名の参勤交代にも使われていた。

東海道は中山道、日光道中、奥州道中、甲州道中を加えた五街道の中でも江戸と京を結ぶ江戸時代唯一の幹線道路であった。江戸日本橋から小田原、箱根、大井川を超え、遠州灘沿いに西へ進み、伊勢桑名宿を経て鈴鹿峠から近江の水口、草津などの各宿場を経て瀬田の唐橋を渡り、京の三条大橋に至るもので東海道五十三次と称された。(東海道五十三次の道中の某掲示板に記載)

江戸時代の交通制度は士農工商の士、武士の為にできた制度である。

トラビスジャパン(株)主催の「東海道五十三次全23回」は、第1回目が2016年9月22日に行われ、台風が来た嵐の中を「江戸日本橋」から銀座を通り、品川宿まで歩く。びしょぬれの参加者は約400名、大型バス10台。第2回目は品川宿～川崎宿まで歩き、この日は曇りから夕方雨が降るが参加者は第1回目の半数の約200名で大型バス5台。第3回目の参加者は150名。第5回目以降からは60名から70名前後になる。雨の日の「歩け歩け」は箱根峠でも雨に降られ、箱根の「石畳み」の雨には閉口したが、雨が降った時の歩きは思い出深いものがある。

日本橋から京都三条大橋まで約496km完歩した人は、年齢、職業(元職業共)が様々で、第1弾34名、第2弾では18名、計52名の方が、2年3ヶ月以上かけて歩いている。

政治、歴史、地理、考古、建物、宗教、お祭り、地域地区により違った慣習、県民性 等が色々分かり、人との繋がりもでき、良い「東海道五十三次」であった。

この「歩け歩け」に携わって御足労戴いた方々と家族に感謝感謝です。



完歩後の記念撮影

終り

<祝>『つちおと』300号

長野県建築士会 相談役 **依 田 高 彬**
(北部ブロック)

「つちおと」300号を迎えること、おめでとうございます。関係役員皆様方の努力の積み重ねの結果だと、ご推察申し上げあらためて敬意を表します。振り返ってみますと私が建築士会に入会したころは建築士試験に合格すれば当会に入会することがごく当たり前の時代で当然のように先輩の進めもあり仲間入りしました。お陰様で全国大会への研修旅行の参加により日本中を旅することが叶いました。支部会員皆様との親睦をはじめ、本会会員の皆様とも交流が深まり、たいへん有意義な時を過ごすことが出来ました。

80歳を迎えた現在、士会での一番の思い出は第42回全国大会長野大会（1999年10月22日）開催です。前年長野オリンピックが世界の注目のもと開催され幾つものオリンピック施設が建造された中、メイン会場となったビックハットを大会会場として全国から参加する会員の皆様をお迎えいたしました。当日は会場に5,000人を集めることが宮本忠長長野県建築士会会長の至上命令で、関係役員の皆様と始まる5分前に会場内を満杯で埋め尽くすことができ、ホッとしたことをあらためて思い出す心境です。

これからも建築士会がさらなる発展を期することをいのります。



ながの支部「つちおと」300号に寄せて

「つちおと」200号発行特別委員会 委員長 **宮 下 正 一**
(南部ブロック)

歴代の編集部長を筆頭に編集部会の皆さんは日々、混とんとした時世の中にもかかわらず絶え間なく支部会報「つちおと」を発行し続けてくれました。感謝に堪えません。

平成20年（17年前）副支部長6年目の終盤に「つちおと」200号発行特別委員会のまとめ役として編集委員会（当時委員会）の歴代・現役の皆さんに集合していただき、発行に漕ぎつけたことを改めて思い出しています。

改めて読み返してみると委員のみなさんの奮闘が確認でき、記事の校正、執筆者による多岐にわたる記事内容には今でも感激しています。

奇しくも翌年、「建築士ながの」の発行を担う総務・情報委員長として、全県の建築士会員に情報を伝える立場になるとは想像もしませんでした。

「つちおと」のページをめくる（デジタル化されてからはスワイプ）度に建築士会に入会して良かったなあと思う。紙面に登場する皆さんに出会えて幸運だなと、いつからか思うようになりました。

「つちおと203号」では新春交流広場2009、野尻湖ワカサギ釣り、サンゲツの見学会と明治村見学、善光寺街道の記事とともに長年事務局の窓口で支部を支えてくれた中村さんの退任、長野市建築指導課の篠ノ井支所駐在廃止と同時に長野県建築住宅センターが篠ノ井支所でも長野市全域の確認審査開始報告記事が掲載されています。

「つちおと」の大きな変化は275号からデジタル配信が開始され、286号から紙面の発行を停止しました。282号の号外記事により会員名簿により会員専用記事掲載も可能となりました。紙面がカラーになり、電子文書なのでページが大幅に上回る内容となったのではないのでしょうか。紙ベースになじみのある会員にとっては寂しいことかもしれません。

平成26年（2014）には本会の筆頭支部として長きにわたり主席をつとめてリーダーシップを発揮してきた長野支部がその座を譲ってしまったことは残念でありました。

令和元年（2019）大きな明るい未来が開けました。長野支部と須高支部が統合して「ながの支部」が誕生したことです。両支部役員に敬意を表します。

「つちおと292号」のまちづくり研修会「須坂の街並みに学ぶ」に参加してみて仲間が増えたことのうれしさを実感しました。

令和元年の台風19号災害や消費税率の値上げの影響で会報運営が不安定な基盤となり、更に新型コロナウイルスによるパンデミックやウッドショックが追い打ちをかけました。

最悪の世情のさなかにも「つちおと」は絶え間なく会員が元気になる情報を提供し続けてくれました。

「つちおと」には「つきいちアーキセミナー」や支部協議会（支部総会）、新春交流広場、委員会（まちなか特別委員会を含む）とブロックの活動状況の詳細に加え「長野びんずる」やボウリング大会、ゴルフ大会、野尻湖周辺のレクリエーション、虫倉山・飯縄山・戸隠古道散策などの体育会系と、文化系の「街道シリーズ」、「お抹茶体験教室」、全国大会支部研修旅行が報告されています。

とりわけ、201号から読み返してみると202号に早くもY U M E 追い人（当初は上原）さんの街道シリーズが登場します。当時は善光寺街道でしたが最新版では東海道を第40回目の執筆です。またヨット・カヌー・BBQ at 野尻湖を企画してくださっている高山さん、全国大会の支部研修旅行を企画してくださっている緑川さんの御三方には感謝しかありませんが、これからも支部と紙面を盛り上げてくれることを期待してまいります。

最近とは好会の記事も見受けられるようになり、彩とりどりの情報やイベントが支部を盛り上げてくれることでしょう。

平成23年（2011）3月11日の東日本大震災（M7.5）、3月12日の長野県北部地震（M6.7）、6月30日には松本を震源とする長野県中部地震（M5.4）が発生しました。

その後も2014年11月22日に白馬村を震源とした長野県神城断層地震（M6.7）。

2016年には熊本地震、2024年には能登半島地震が発生しています。このような大地震には応急危険度判定士として復興支援に携わった支部会員も大勢います。会報にも数例が報告されて、ながの支部の支援状況が伝わってきます。

「つちおと」は支部会員のエネルギーの源です。建築士としての誇りと情熱と連帯感を発信する会報は、ながの支部の高級品の宝物です。支部内の親交を深め、さらに他支部も参加できる会報を意識しながらChallenge（チャレンジ）とChange（チェンジ）、をしていけば、きっといいChance（チャンス）が訪れることを期待します。

参考文献：「つちおと」200号～297号

長野県建築士会 創立60周年記念誌

長野県建築士会 創立70周年記念誌



レンゲショウマ

山地の木陰で花期は9月。花色は薄紫色。長野県では東南信に自生するが、なかなかお目にかかれない。＜準絶滅危惧＞危惧要因としては園芸採取や生育地の環境変化による。

植物に限らず、「絶滅危惧種を守る」ことについて環境省では次のように説明している。生物の種は生命の長い歴史の結晶であり、かけがえのない価値を持っている。私たちの暮らしは多様な種が関わり合いながら形成する、自然の恵みに支えられている。また地域の文化に密接に結びついた種もある。すなわち絶滅危惧種は地球の宝物である。身近にある可憐な植物。未長く見守りたいものである。

中島誠至（北部ブロック）

つちおと 300号 協賛広告 ありがとうございました

建築専用3次元CAD/BIMシステムの販売・サポート。
建築設計・施工・維持管理における新たな仕組み“BIM”を
それぞれのお客様に合った最適な形でご提案致します。



OA機器・測量製図機器・コンピュータ機器

株式会社 **イトウ**

<http://www.itoh.co.jp/>

最新の情報と技術をお客様とともに創造し、最適なソリューションをご提案致します。

〒381-0024 長野県長野市南長池498-1
TEL:026-221-4101 FAX:026-221-5313

木 工 事
木製建具
造作建具

岩井工業株式会社

代表取締役 **岩 井 秀 樹**

長野県上高井郡小布施町小布施504
電 話 (026) 247-3220
FAX (026) 247-4778
携 帯 090-4961-8956

E-mail: hideki.iwai@orchid.plala.or.jp
<http://www.iwaikougyou.co.jp/>



株式会社 **寺澤雄治 アート設計工房**

取締役
一級建築士 住宅性能評価員
ヘリテージ・マネージャー

寺 澤 雄 治

〒381-2241 長野市青木島町青木島乙784-1
TEL:026-214-3566 FAX:214-3567
E-mail: y.terasawa@nifty.com
上山田外11 千曲市上山田 1170-5
TEL FAX 026-275-3111

一級建築士
CASBEE 建築・戸建・不動産
住宅性能評価員

**art
design
studio**

since 1985

寺澤 彰訓

株式会社寺澤雄治アート設計工房

長野ベース
〒381-2241 長野市青木島町青木島乙784-1
TEL. 026-214-3566
FAX. 026-214-3567
MOBILE. 090-3136-1093
MAIL. a.terasawa@artdstudio.co.jp
上山田アトリエ
〒389-0822 千曲市上山田 1170-5
TEL. 026-275-3111

iad 株式会社 **アイエーディー建築事務所**

株式会社・IAD建築事務所

代表取締役 **田 村 正 治**

E-mail: tamuras@iad-c.com

本 店 長野市大字上駒沢65-1
〒381-0082 TEL 026-296-6536
FAX 026-296-8402

RRA 宮本設計
Regional Roots Architect

代 表 **宮 本 修**
一級建築士

〒382-0003 長野県須坂市旭ヶ丘1762-4
TEL 026-246-7272 FAX 026-246-0722
携帯 090-3141-7820
E-mail: rra-miya@kde.biglobe.ne.jp
<http://www.suzaka.info/rra/>



アトリエ彩

Atelier Sai

伊 東 亮 一

Ryoichi Ito

代表取締役
一級建築士

株式会社 **伊東亮一建築設計事務所**

380-0802 長野県長野市上松3-5-32-2
MOBILE 090-1790-2885 TEL 026-219-2583 FAX 026-219-2683
e-mail ito-sekkei@zay.att.ne.jp
<http://itoryo.s2.weblife.me>

未来を育てる人がいる



本社：長野市県町524

東京本社：東京都中央区銀座1-9-2

URL：<http://www.kitano.co.jp/>



since 1949

**SATO
GARDEN**

緑のチカラで輝く街を 花のチカラで豊かな時を
『環境緑』で社会をイキイクワクワさせる会社

佐藤園芸

〒381-2247 長野市青木島3丁目3番地10

TEL (026) 286-2525 (代)

FAX (026) 283-1474

HP <https://sato-engei.co.jp/>



佐藤園芸 検索

環境緑で豊かな未来を創ります。

social good company

新建新聞社

長野本社／長野県長野市南町686-8 TEL.026-234-1115

東京本社／東京都千代田区麹町2-3-3 FDC麹町ビル7階 TEL.03-3556-5525

<https://www.shinkenpress.co.jp> Email: snk@shinkenpress.co.jp



ホテル 信濃路

HOTEL SHINANOJI

City Garden

<http://www.hotel-shinanoji.com>

〒380-0936 長野市岡田町131-4

TEL.026-226-5212 FAX.026-226-5168



**井出
建設
興業**

IDE promotion of architecture industry co.,ltd.

代表取締役社長

井出 正臣

MASAOMI IDE

井出建設興業株式会社

384-0503 長野県南佐久郡佐久穂町大字海瀬267

www.ideken.co.jp

tel. 0267-86-2222 fax. 0267-86-5464

mobile: 090-4540-5778 mail: boss@ideken.co.jp

ARCHITECTURE WEAVERS

株式会社 ウィーブ建築設計事務所

代表取締役所長

林 辺 松 治

一級建築士

〒380-0904 長野市大字鶴賀七瀬中町98-2

TEL : 026-217-2006 FAX : 026-217-2007

携帯 : 090-3142-6971

Mail : weaveb@mx1.avis.ne.jp



総合建設業 株式会社 **鹿熊組**

本社／〒380-0813 長野市緑町1631-3

TEL (026) 235-3311 FAX (026) 235-2390

E-mail: saitou.kiyoshi@kakuma.jp

<http://www.kakumagumi.com/>

建築営業部長 **齊 藤 浄**

(株)鹿熊組一級建築士事務所 管理建築士

携帯 090-4462-5602

勝山 敏雄

Toshio Katsuyama

かつやま設計工房・勝山木工所

382-0012 長野県須坂市大谷町325

TEL:090-1809-1584 :026-248-2898 FAX:026-245-2898

E-Mail: katsuyama-0325@stvn.net

KADOKEN

代表取締役

佐藤 義博

Yoshihiro SATO

一級建築士

一級建築士事務所

株式会社 **カドケン**

〒389-1305

長野県上水内郡信濃町柏原2612

TEL.026-255-6691

FAX.026-255-6495

info@kadoken-sekkei.com



株式会社カンマッセいづな

代表取締役

土倉 武幸

Takeyuki Tsuchikura

〒389-1203

長野県上水内郡飯綱町大字赤塩 2489

いづなコネクト EAST

TEL | 026-262-1995

FAX | 026-217-5005

Mobile | 090-4913-1920

E-mail | t.tsuchikura@canmasse.co.jp

長野県1級建築士 合格実績 **No.1**

令和6年度
1級建築士 学科+設計製図試験

長野県
ストレート
合格者
占有率

100%

全員
当学院受講生

長野県ストレート合格者9名中 / 当学院当年度受講生9名

令和6年度
1級建築士 設計製図試験

長野県
合格者
占有率

76.3%

他講習
利用者
当学院
当年度
受講生

長野県合格者38名中 / 当学院当年度受講生29名



総合資格学院
イメージキャラクター
令和4年度 1級建築士試験合格
当学院受講生・俳優
田中 道子さん

※当学院のNo.1に関する表示は、公正取引委員会(No.1表示に関する実態調査報告書)に基づき掲載しております。※学科・製図・ストレート合格者とは、令和6年度1級建築士学科試験に合格し、令和6年度1級建築士設計製図試験にストレートで合格した方です。※総合資格学院の合格実績には、模範試験のみの受験生、教材購入者、無料の役務提供者、過去受講生は一切含まれておりません。※都道府県合格者数・都道府県ストレート合格者数は、(公財)建築技術教育普及センター発表に基づきます。(令和7年1月15日現在)



総合資格学院



Instagram #sogoshikaku_official
X #sogoshikaku_sogo
LINE @sogoshikaku_gakuen

スクールサイト www.shikaku.co.jp 総合資格 検索 コーポレートサイト www.sogoshikaku.co.jp

長野校 TEL:026-268-0811 **松本校** TEL:0263-40-2611

長野市南千歳町878-5 グランビル南千歳二番館 7F 松本市島立943番地 ハーモネットビル 6F

K 明日を創る 共和建設株式会社 リフォームの共和

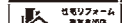
常務取締役

丹羽正道

一級建築士 木造住宅耐震診断士

おかげさまで
創業80年
Since 1944

一般社団法人
JBN・全国工務店協会



当社は国土交通大臣登録団体の会員です

〒380-0803 長野市三輪1丁目2番13号
TEL(026)241-1181 FAX(026)259-2843
携帯 070-6568-5857
<https://reform-kyowa.com/>
Email:niwa@kyowakensetsu.com



設計工房 CRESS

一級建築士 **久米 えみ**

〒380-0816 長野市三輪町1287-1 ドミール三輪V512号
TEL: 026-235-5772 FAX: 026-235-5773
E-mail: info@cress-a.net
kume@avis.ne.jp
HP: <http://www.cress-a.net/>



Daiwa House
大和ハウスグループ

共に創る。共に生きる。

大和ハウスグループは、
グループシンボル「エンドレスハート」に
お客様と私たちの永遠の絆と
私たちグループの連帯感を託しました。
人・街・暮らしの価値共創グループとして、
私たちは社会に新しい価値を築いてまいります。

大和ハウス工業株式会社 長野支店

長野市平林1丁目36番3号 〒381-8515
Tel 026-243-5432 Fax 026-243-5002

高木建設株式会社

代表取締役社長

高木 亜矢子

本 社 | 〒380-0961 長野市安茂里小市1-3-31
TEL.026-226-6061(代) FAX.026-228-5459
E-mail. a-takagi@takagi-kk.co.jp
<https://www.takagi-kk.co.jp>

営業所 | 高府営業所



この名刺は再生紙を使用しています



ぐりっぷ建築設計事務所
GRIP Architectural Design Office

一級建築士 **緑川直彦**

〒389-0805 長野県千曲市上徳間2417-1

TEL/FAX: 026-276-2808 携帯: 090-8329-5340
E-mail: grip@ksn.biglobe.ne.jp <http://grip-a.sakura.ne.jp>



<http://www.global-architecture-nagano.com/>

取締役社長 **松井 昭夫**
一級建築士

株式会社 グローバル企画設計

〒380-0916 長野市中千田2189-4 金子ビル2F
TEL(026)226-1306 FAX(026)226-9801
E-mail:matsui@global-architect.sakura.ne.jp
携帯電話 090-8813-7314



※須高建設産業労働組合は、建設関係の職人の組合です。
70年以上にわたって建設業従事者のくらしと健康をサポート
※建築工事に係る職人が大勢加入しています。

建設労働者・職人・事業主の多様な要望や悩みを解決し、仲間の暮らしを守り、
生活や社会的地位の向上をめざして活動しています。

将来の担い手となる新規組合員を随時募集しています。

須高建設産業労働組合

須坂市井上1830-13 / TEL 245-1859 ・ FAX 245-3336

日建学院利用者に聞きました!

どうして 日建学院 ?

だから日建学院!

適正学費
追加がなくて安心!
これは重要!

合格実績
さすがだね!

課題的中
比べて納得

補講充実
不安なところを繰り返し見れる!

個人分析
自分の弱点が分かりやすい!

開放教室
集中できる環境を助けてくれる!

担当制度
適宜フォローしてくれて嬉しい!

映像講義
いつでもどこでも勉強できる!

名物講師
やっぱり楽しく学びたい!

業界貢献
色々やっていてビックリ!

OB多数
会社にもOBがいて安心!

全国統一授業
転勤先でも同じ講義が受けれる!

資料請求・各種お問い合わせはお気軽にどうぞ! **長野校 TEL.026-244-4333** **松本校 TEL.0263-41-0044**

一般財団法人
長野県建築住宅センター

理事長 **矢澤 博**
Yazawa Hiroshi

〒380-0813
長野市大字鶴賀緑町1605番地14 高見澤ダイヤモンドビル9F
電話: (026)219-2310 FAX: (026)219-2315
URL: <http://www.n-jutaku.or.jp/>
E-mail: nj-honsho@n-jutaku.or.jp

有限会社 **長野プリントサービス**

〒380-0836 長野市南県町1057-13
TEL (026) 224-8469代 FAX 224-8648
E-mail: nps@janis.or.jp
<http://www.naganoprint.co.jp>

佐藤建設

代表 佐藤 一利

〒382-0000 須坂市大字須坂1892-3 (沼目町)
TEL 026-245-3302 fax 026-245-3845
e-mail sato.new-mumamane@stvnnet.home.ne.jp

studio

一級建築士事務所
CA studio
旧広瀬毅建築設計室

☎ 026-234-1430
〒380-0845
長野市西後町1583リプロ表参道
✉ info@ca-studio.jp

下崎建築設計事務所
SHIMOZAKI Architecture Design Office
<http://www.shimo-a.com>

一級建築士 **下崎 明久**
SHIMOZAKI Akihisa

〒380-0947 長野市平楽660-1
TEL : 026-214-3077
FAX : 026-214-3088
Mobilephone : 080-1006-8323
E-mail : info@shimo-a.com

有限会社 関建築とまち研究室

代表取締役

関 邦 則

(公社)長野県建築士会名誉会長
国際ロータリー2600地区バスターナー

ADD 長野市中御所岡田 56-8 〒380-0936
TEL 026-291-5566
FAX 026-291-5565
MAIL kuniseki@avis.ne.jp
URL <http://seki-architect.jp>

BACK ▶

本物の木の魅力

「信州。新の家」

無垢材・自然素材の本物の木造住宅をご提案いたします。

天然木・癒しの家づくり

健康 × 省エネ × 耐震 × 耐久 全て標準装備。

一貫生産システムにより実現した 驚きの価格。

夢ハウスパートナー

株式会社 新工務店

HP: <http://www.kk-sin.jp/> TEL: 026-244-2703



西鶴賀町エリアリノベーション

まちなみ緑化プラン



長野県建築士会ながの支部「まちなか特別委員会」と長野市中心市街地活性化協議会が協働する遊休不動産活用事業

garden & exteri 和 & ■

株式会社 **ハチョーエン**

お庭づくり
エクステリア
石造り
竹仕体
庭仕事
剪定
移植
高木
樹木
病害
防虫
伐木
その他
の活動
食採
木加
えら
れる
銘
植
と

〒381-2204 長野市真島町真島1739番地
TEL 026-284-2353 MAIL info@hatcho-en.com
https://hatcho-en.com

藤本流三味線 秀崑衛会

藤本流準師範

藤本 崑弥敬

(柴田 敬一郎)

関
博
之

代表取締役
一級建築士

有限会社 関工務店

〒381-0003 長野県長野市大字穂保 35
TEL 026-296-4643 FAX 026-217-0331
MOBILE 090-2258-8743
MAIL hiroyuki@seki-koumuten.co.jp
https://www.seki-koumuten.co.jp

大和ハウス工業株式会社

建築系工事監理部
統括支援グループ
次長

いずおか **泉岡 一宏**

一級建築士・設備設計一級建築士
一級工事施工管理技士(土木・電気・管)

東京本社/東京都千代田区飯田橋3丁目13番1号 〒102-8112

Tel 03-5214-2151

携帯電話 080-8507-6124

e-mail: izuoka01@daiwahouse.jp



Daiwa House®
大和ハウスグループ

Livness
【リブネス】



森林育成紙™使用

高木建設株式会社

取締役 建築部 本部長

宮之内 寛

1級建築士

本 社 | 〒380-0961 長野市安茂里小市1-3-31
TEL 026-226-6061(代) FAX 026-228-5459
E-mail: h-miyanouchi@takagi-kk.co.jp
https://www.takagi-kk.co.jp

営業所 | 高府営業所

2023
健康経営優良法人
Health and productivity
プライト500



エコアクション21
JIS規格9004456
この名刺は再生紙を使用しています



有限会社 **高山建設工業**
高山一級建築士事務所

代表取締役社長
一級建築士

YASUSHI TAKAYAMA

高山 靖

〒380-0913 長野市川合新田727番地

TEL 026-222-5435

FAX 026-222-5408

外山建築設計室

構造設計一級建築士 **外山 善政**

〒381-0041 長野市徳間734

Tel : 026-295-9990 携帯電話 : 090-3440-1146

e-mail : toyama@janis.or.jp

http://www.janis.or.jp/users/toyama/

塗り替え・塗装のことなら何でもご相談ください

NC (株) 中沢塗装
coating

本 社 / 〒381-0204 長野県上高井郡小布施町飯田640

TEL 026-247-5533 FAX 026-247-5177



特定建設業（土木・建築）

松代建設工業株式会社

代表取締役社長

湯本 宜成

〒381-2247 長野県長野市青木島1丁目2番1号
TEL : 026-284-2318(代) FAX : 026-284-2263
URL : <https://www.matuken-nagano.jp>
E-mail : takanori-y@matuken-nagano.jp



中 島 誠 至

一級建築士事務所

中島誠至建築設計事務所

〒380-0802
長野市上松 1-6-39
TEL(FAX) 026-235-0051
TEL(携帯) 090 4461 3035
E-mail CZV05710@nifty.com



エクステリアのプロフェッショナル

門 Gate | 塀 Wall | 舗道 Pavement



美寿々工業株式会社

長野市川中島町原1284 ☎026-292-1367(代)



ながでんグループ

長電建設株式会社

取締役
建築部長
BESS営業部長

小山 芳 郎

一級建築士



〒380-0803 長野市三輪7丁目6番1号
☎026-235-1002(代) FAX026-232-3590
<http://www.nagadenkensetu.com>
E-mail : y-koyama@nagadenkensetu.com
携帯 080-5940-2917

社寺建築設計監理

(株)中村建築研究所

信州善光寺顧問 会長 高 橋 賢 二
代表取締役社長 高 橋 修一郎

〒380-0803 長野市三輪8丁目16-18
TEL026-235-1171(代) FAX026-235-4766
ホームページ:<http://www.nakamurakenken.com>

アルミサッシ・住宅機器・エクステリア



中山アルミ建材(有)

代表取締役 中山 貴 史

〒382-0024 須坂市大字塩野1119番地3(塩野工業団地)
TEL : 026-245-9290 FAX : 026-245-9293
E-mail : nakayama-arumi@silver.plala.or.jp

NAKAYAMA ARCHITECT & ASSOCIATES

建築 設計・監理

中山設計空間工房

〒381-0201
長野県上高井郡小布施町大字小布施 852-2
tel 026-247-4628



Nishibori
Architect
design

西堀建築設計

一級建築士

西堀 真二郎

〒381-0034 長野市上高田1137-17
TEL/026-224-8911 FAX/026-224-8912
携帯電話/090-8725-9585
E-mail:nagano.nishibori@nifty.com
<http://www.nishibori-design.com>



株式会社ハウスプラザ信越
ハウスプラザ信越一級建築士事務所

代表取締役

関口文弘

1級建築士
1級建築施工管理技士
宅地建物取引士

〒381-0083 長野市西三才2348-1
☎026-236-9210 FAX026-236-9220
housep0s@chime.ocn.ne.jp



株式会社 平野建設工業

一級建築士
一級建築施工管理技士
宅地建物取引士

平 野 徹

本社・工場 〒382-0800 長野県上高井郡高山村大字高井6060番地6
T E L (026) 248-8866 高山アドレス qq55tc9k@sage.ocn.ne.jp
F A X (026) 213-4429
携 帯 090-4380-7745 携帯アドレス swrrt@icloud.com



株式会社 **本 久**

since 1717

代表取締役
社 長

加 藤 章

〒381-8588 長野県長野市桐原1-3-5
TEL 026-241-1151 FAX 026-244-6970
E-mail a.kato@motoq.co.jp



増田建築設計事務所

代 表 **増 田 憲 一**

〒381-2241 長野市青木島乙623-1
TEL (026) 283-1778
FAX (026) 283-1779

一級建築士 **松 本 茂 男**
Shigeo Matsumoto 900

建築設計・監理
株式会社 松本設計
MATSUMOTO ARCHITECT&ASSOCIATES

事務所 〒381-1226 長野市松代温泉 158-1
設計室 〒388-8007 長野市篠ノ井布施高田 662-15
TEL 026-214-0271 FAX 214-7577
Mobile Phone 090-7222-9545
E-mail: m-sekkei@khaki.plala.or.jp



創業107年「時を超えて、美しい建築へ」

株式會社 美登利屋工務店

代表取締役 森 望 取締役 松林 耕平・和田 惇義
スタッフ 白石 恭平

倉守り(再生・メンテ) 〒381-2205 長野県長野市青木島町大塚1495-2
設計(新築) TEL 026(285)7484(代) FAX 026(285)7485
信濃の舎(モデルハウス) HP <http://www.om-midoriya.jp>
Email midori01@maple.ocn.ne.jp
創業地・工場・自宅 〒381-3303 長野県上水内郡小川村小根山4444-3
TEL 026(269)2228 FAX 026(269)2168



株式会社
宮本忠長建築設計事務所

代表取締役社長 **宮 本 夏 樹**

MIYAMOTO NATSUKI
一級建築士

本社 〒381-0012 長野市柳原1875-1
TEL 026-241-5510 (代表) FAX 026-263-8022
TEL 070-7382-1235 (携帯)
E-mail: n-miyamoto@t-miyamoto.co.jp
東京 〒112-0002 東京都文京区小石川1-4-12
文京 ガーデンザウエスト11F 1102
TEL 03-5844-6746 FAX 03-5844-6747

優れた技術 豊かな経験



村山建設株式会社

〒382-0054 長野県須坂市大字高梨 356
TEL (026) **245-0321**(代)
FAX (026) **246-1960**



建 設 業
株式会社 **守 谷 商 会**

代表取締役社長

伊 藤 由 郁 紀



創業1916年
信頼と技術の百年を
次の世代へ

本 社
長野市南千歳町878番地
TEL 026-226-0111(大代表)
FAX 026-223-0740(〒380-8533)



ライジングコンサルタント株式会社

市 川 英 一

一級建築士
日本建築家協会登録建築家
日本建築士会連合会 統括設計専攻建築士

〒380-0928 長野市若里4丁目13番64号
TEL 026-217-1560
FAX 026-217-1561
E-mail: k-rising@mx2.avis.ne.jp
URL: <http://rising-consultant.com>

鮎と鰻の専門店
 鮎
 鰻
 双雲



長野県長野市大門町55-1-1
 ばていお大門蔵楽庭
 050-8892-8538

共和建設株式会社

代表取締役社長

野本 大介

長野市三輪一丁目二番一三二号
 電話(026)241-1181
 携帯070-6521-4206
 URL: www.kyowakensetsu.com

Building Insulation Professional
SHINKOU
 高断熱工事・結露防止工事・防音工事

専務取締役
 徳間 信幸
 Nobuyuki Tokuma

有限会社 信宏ホーム企画
 〒381-0034 長野県長野市高田1784-3
 TEL.026-285-9570 / FAX.026-285-9560
 Mobile.090-4201-6133
 shinkou-nobu.tokuma@email.plala.or.jp

代表取締役
 社長

ながでんグループ
 長電建設株式会社

関 秀 希

〒380-0803
 長野市三輪七丁目六番一〇二
 電話(026)235-1100
 FAX(026)235-9002

代表社員

小林 克己

Katsumi Kobayashi

一級建築士

SDGsサービス

合同会社

〒389-1105
 長野県長野市豊野町豊野 3562
 FAX. 026-251-5075
 Mobile. 090-8336-7885
 e-mail. katsumi@avis.ne.jp

http://office-ap.com



株式会社 Office AP
 代表取締役

遠西 克哲

一級建築士

380-0921 長野県長野市栗田1652 花光ビル101
 tel.026-400-1208 / fax.026-400-1376



ウッドスタンディングハウス®

代表取締役

相野 徹

一級建築士
 宅地建物取引士
 給水工事主任技術者
 福祉住環境コーディネータ

株式会社 相互

〒381-0014 長野市北尾張765
 TEL.026-241-1121
 FAX.026-241-0016
 E-mail.soogo@avis.ne.jp
 http://www.avis.ne.jp/~soogo/



代表取締役
 社長

寺島 真一

寺島建設株式会社

〒380-0802
 長野市上松四一八
 電話(026)241-1181
 FAX(026)241-1181
 〇代八



株式会社 宮下設計アトリエ

代表取締役 / 一級建築士

宮下 正一

Shouichi Miyashita

〒381-1226 長野県長野市松代温泉250
 TEL:026-278-1285
 FAX:026-278-1286
 携帯:090-3080-6549
 E-mail:shouichi.miyashita@gmail.com

大和ハウス工業株式会社

東京本社
東京工事監理部 第三課（長野駐在）
主任

原 山 泰

一級建築士
構造設計一級建築士

長野支店／長野市平林1丁目36番3号 〒381-8515

携帯電話 080-9934-2223

Tel 026-259-5112 Fax 026-259-2664

東京本社／東京都千代田区飯田橋3丁目13番1号 〒102-8112

Tel 03-5214-2220

e-mail: m00414008@daiwahouse.jp



建築設計・施工（一級建築士事務所）

松澤建築

一級建築士 松澤三雄

事務所 〒382-0031 長野県須坂市村石町2134-1

TEL (026) 242-5102

FAX (026) 213-4464

携帯 090-1855-8863

E-mail: matsuken@home.email.ne.jp

BEE 1級建築士事務所

取締役 馬場 由喜美

有限会社ビープラン

〒381-2215 長野市稲里町中氷鉤 1067-5

電話: 026-214-6065 FAX: 026-214-6075 携帯: 090-8643-3751

b2yukimi@violet.plala.or.jp



一級建築士

和出賢司 kenji wade

和出建築設計室

〒388-8019 長野市篠ノ井杵刈70-10

Tel: 026-292-7537 Fax: 026-293-8970

携帯: 090-1611-0554

E-mail: wade@image.ocn.ne.jp

URL: https://www.kenji-wade.com



代表取締役 土倉 武幸
一級建築士 宅地建物取引士

株式会社 ツチクラ建

〒389-1226

長野県上水内郡飯綱町大字川上 2237

TEL: 026-253-2109

FAX: 026-253-7120

MOBILE: 090-4913-1920

MAIL: takeyuki@tsuchikura.com



一般建築塗装・吹付工事

小野里塗装

小野里 幸織
ONOZATO SAORI

〒381-0085 長野市上野2丁目1161番地

TEL/FAX 026-296-8653

携 帯 090-6491-5254

Oshima Architects

大島翔吾建築設計事務所

大島 翔 吾 一級建築士

380-0935 長野市中御所 2-30-17 セレム双葉 203

090-4707-9610 oshima@shogoshima.jp

商業施設・注文住宅・企画・設計・施工

株式会社 シィ・エス・エス

Creative & Safety System

(公社) 長野県 宅地建物取引業協会 会員

長野県知事 (4) 第 4926号

代表取締役 村 本 純 一
Muramoto Junichi

事務所 〒381-0038 長野市東和田902-3

PHONE 026-263-8980

FAX 026-243-5940

E-mail: css-co@diamond.broba.cc

株式会社 永井建設

代表取締役 永井 寛 治
一級建築士
NAGAI HIROHARU

〒381-0207

長野県上高井郡小布施町大字押羽604

フリーダイヤル 0120-181-388

FAX 026-247-3289

E-mail: hjyfk627@ybb.ne.jp

携帯電話 090-1533-5717

堀
幸
一
hori
koichi

大工棟梁・一級建築士
一級建築大工技能士



建築工房アカシヤ
堀建築設計事務所

〒380-0801 長野県長野市箱清水3-29-5

tel 026-232-7807 fax 026-232-7586

mobile 090-8589-7065

e-mail info@kk-akashiya.jp

url http://www.kk-akashiya.jp/



AICA
挑戦と創造

松本営業所 建築・建材カンパニー
主 任 若 月 則 武
Noritake Wakatsuki

VALUE CREATION
3000 & 300

商品に関するお問い合わせ先
アイカ問合せセンター
TEL 0120-525-100

アイカ工業株式会社
〒390-0811 長野県松本市中央2-6-1
リーガル松本ビル6階
TEL 0263-33-1321 FAX 0263-33-1325
携帯 090-5612-1524
E-mail: noritake.wakatsuki@aica.co.jp
https://www.aica.co.jp

「楽しむ」を住環境から!

カネト LIFE UP

TEL. 026-222-5822 FAX. 026-222-5823
http://www.kaneto-nagano.co.jp

株式会社
コヘケン
エレベーター・クレーン・福祉機器の販売・施工・保守

代表取締役社長
山崎 廣和
Hirokazu Yamasaki

クリーン製造許可工場 長製計第600号

感動 ヒト モノ ココ 運ぶ

本 社
〒394-0000
長野県岡谷市2398番地1
TEL (0266)22-7565
FAX (0266)22-7566
E-mail yamasaki@kohken-e.co.jp
URL http://www.kohken-e.co.jp/

三協アルミ

長野ショールーム
長野市三輪1-7-10 ☎ 026-244-1533

風に強いシャッターです。

軽さと強さを両立し国土交通大臣認定を取得
窓付特定防火設備タイプ
鋼製軽量ドア **ファイヤード LD**

住まいやお店に台風の備えを
耐風形軽量シャッター
耐風ガードLS

三和シャッター工業株式会社
長野統括営業所 TEL. 026-243-8989

TOTO

PURE LUXURY
NEOREST

ネオレスト 商品ページ ▶

INAX

トイレが掃除してくれる
スゴ技洗浄

LIXIL **SATIS X**

ハイブリッド給湯・暖房システム
ECO ONE

ECO ONEなら、
災害時でも
快適で安心な暮らしを
サポートします。

ECO ONEについて
くわしくはこちらから

Rinnai

リンナイ株式会社 長野支店 長野営業所
〒381-0033 長野県長野市南高田2-11-4 ☎026(243)5578 https://www.rinnai.co.jp

トリプルガラス木製窓 **APW651 YKK AP**

トリプルガラスと木製フレームで
高い断熱性能を実現。

断熱係数 0.99 (W/m²・K)

アルミクラッド構造を採用し、
外部のアルミカバーで
紫外線や雨から木部を守る。
国産松の集成材を使用し、安定した
強度で環境に配慮した木製窓。

住まいにも自然にも調和する木の質感と風合い



屋根に夢と技術をのせて

雪・台風にも強く 落ち葉が入らない 雨どい

表面の落ち葉は
自然の風で落下

落ち葉が入らず
雨水だけが流れ込む

自然の風力で
屋根裏の熱気や
湿気を換気する

有効天井面積
67㎡

住宅換気棟

PAT.P

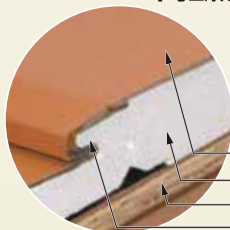


「住宅換気棟」を
ムービーで紹介

地震・台風・雪に強い
高断熱の住宅横葺き金属屋根

カバー工法
対応

断熱 ビューティーフ 2型 PAT 断熱 ビューティーフ 3型 PAT



断熱ビューティーフ 2型 (1次防水)
断熱バックアップ材 (2次防水)
下葺材 (3次防水)
ハゼ内部まで断熱材が入る (高断熱・高強度)

軒先がシャープで美しい 屋根と一体化したデザイン

特許出願 18件・意匠登録 90件 (その他多数出願中)

元旦内樋

PAT

和 瓦

平板スレート

各種金属屋根

リフォームにもピッタリテレビCM公開中!!



「元旦内樋」をムービーで紹介



雪にも
強い

雨水だけを取り込むように
考えられた「落ち葉除け」

従来の樋は落ち葉が詰まって
メンテナンスが大変



●新築・リフォーム (改築・後付)
どちらにも対応可能

●ほとんどの屋根材
(金属・スレート・瓦等) に
元旦内樋の設置が可能

製 造
発 売 元



元旦ビューティ工業株式会社

甲信営業所/〒406-0812 山梨県笛吹市御坂町下黒駒1330 TEL.055-288-1741 FAX.055-261-5221

カタログ・資料請求
お問い合わせ



フリーダイヤル

マルク

ヨク

サンキュー

0120-09-49-39

責任施工
長野元旦会



施工元旦会

編集後記

建築士には飛躍がある

支部会員の動静を伝え続けた支部会報「つちおと」。平成3年（1991年）4月に100号が発行され、平成20年（2008年）9月に200号が発行されました。いよいよ300号の発行です。この間、紙面配布から電子版へと形が変わりましたが、毎号、この電子版の充実を図り会員のつながりを伝え続けている編集委員会（現 総務情報委員会編集部会）の歴代編集長や委員の皆様には心より感謝を申し上げます。

長水支部として発足した当支部は長野支部と改称後、200号から300号の間に須高支部と統合して「ながの支部」となりました。会員数の減少には歯止めが掛からない状況ではありますが、会員諸氏の心意気は衰えることなく先輩から引き継がれています。

平成23年（2011年）3月に発生した東日本大震災は最大深度7（宮城県栗原市）を記録し死者・行方不明者が2万人を超える未曾有の大災害となりました。加えて、多くの建物が消失し、生き残った方々も生活に困窮する日々が続きました。一人の建築士として、また、構造設計を生業とする者として、大地震に加えて津波という自然災害に立ち向かう使命を改めたのを記憶しています。その後も熊本地震（2016年）、長野県南部（2017年）、胆振地方中東部（2018年）、福島県沖（2021年、2022年）、石川県能登地方（2024年）など大きな地震が頻発していますし、南海トラフも動き出す素振りを見せているこの頃です。ご存じの様に、我々建築士は「衣・食・住」と例えられる人間が生きていく上で根幹となる柱の一つ「住む」という分野を担う建築に携わっています。今一度、建築士の意義を考え、自然災害や異常気象に備える技術を蓄え、自然に優しい・自然に強い建築を造っていきましょう。

先達は「建築士の歌」から会報「つちおと」と命名されたと想像しますが、この300号記念号の発行を心待ちにされていたであろう先輩方々にはどの様に届けられましたでしょうか。

支部活動も大きな転換期を迎えておりますが、建築士としての使命を背負い「晴れ渡る世紀の空に」大きく羽ばたいて参りましょう。これからも「建設の使命果てなし」です。

会報「つちおと」は400号に向けて既に邁進しております。

（つちおと300号発行特別委員会 委員長 原山 泰）

つちおと300号発行特別委員会

委員長：原山 泰
副委員長：堀 幸一・永井 寛治
北部ブロック：土倉 武幸・村本 純一
南部ブロック：大島 翔吾・馬場由喜美
須高ブロック：松澤 三雄・吉澤まゆみ
若手メンバー：小澤 廣勝・大日方紘子・北村あや香・藤澤 拓希
編集部会：上原 良知・小野里幸織・川村 和廣・和出 賢司
金谷 賢司（三協アルミ）・山田 数之（三和シャッター工業株式会社）
支部事務局：平井 純子



公益社団法人 長野県建築士会ながの支部

〒380-0872 長野市大字南長野字宮東426-1 長野県建築士会館 2 階
http: //kenchikushikai.info/
e-mail: jimukyoku@kenchikushikai.info
TEL 026-225-9980
FAX 026-232-2588